

創 世 記

第一章

はじめに神は天と地とを創造された。二地は形なく、むなしく、やみが淵のおもてにあり、神の霊が水のおもてをおおっていた。

三神は「光あれ」と言われた。すると光があつた。四神はその光を見て、良しとされた。神はその光とやみとを分けられた。五神は光を昼と名づけ、やみを夜と名づけられた。夕となり、また朝となった。第一日である。

六神はまた言われた、「水の間にとおおぞらがあつて、水と水とを分けよ」。七そのようになつた。神はおおぞらをつつて、おおぞらの下の水とおおぞらの上の水とを分けられた。八神はそのおおぞらを天と名づけられた。夕となり、また朝となった。第二日である。

九神はまた言われた、「天の下の水は一つ所に集まり、かわいた地が現れよ」。そのようになつた。一〇神はそのかわいた地を陸と名づけ、水の集まつた所を海と名づけられた。神は見て、良しとされた。二神はまた言われた、「地は青草と、種をもつ草と、種類にしたがつて種のある実を結ぶ果樹とを地の上にはえさせよ」。そのようになつた。二三地は青草と、種類にしたがつて種をもつ草と、種類にしたがつて種のある実を結ぶ木とをはえさせた。神

は見て、良しとされた。二三夕となり、また朝となった。第三日である。

二神はまた言われた、「天のおおぞらに光があつて昼と夜とを分け、しるしのため、季節のため、日のため、年のためになり、一五天のおおぞらにあつて地を照らす光となれ」。そのようになつた。一六神は二つの大きな光を造り、大きい光に昼をつかさどらせ、小さい光に夜をつかさどらせ、また星を造られた。一七神はこれらを天のおおぞらに置いて地を照らせ、一八昼と夜とをつかさどらせ、光とやみとを分けさせられた。神は見て、良しとされた。一九夕となり、また朝となった。第四日である。

二〇神はまた言われた、「水は生き物の群れで満ち、鳥は地の上、天のおおぞらを飛べ」。二三神は海の大なる獣と、水に群がるすべての動く生き物とを、種類にしたがつて創造し、また翼のあるすべての鳥を、種類にしたがつて創造された。神は見て、良しとされた。三神はこれらを祝福して言われた、「生めよ、ふえよ、海の水に満ちよ、また鳥は地にふえよ」。三三夕となり、また朝となった。第五日である。

二四神はまた言われた、「地は生き物を種類にしたがつていさせ。家畜と、這うもの、地の獣とを種類にしたがつていさせ」。そのようになつた。二五神は地の獣を種類にしたがい、家畜を種類にしたがい、また地に這うすべての物を種類にしたがつて造られた。神は見て、良しとさ

れた。

三神はまた言われた、「われわれのかたちに、われわれにかたどって人を造り、これに海の魚と、空の鳥と、家畜と、地のすべての獣と、地のすべての這うものとを治めさせよう」。二七神は自分のかたちに人を創造された。すなわち、神のかたちに創造し、男と女とに創造された。二八神は彼らを祝福して言われた、「生めよ、ふえよ、地に満ちよ、地を従わせよ。また海の魚と、空の鳥と、地に動くすべての生き物とを治めよ」。二九神はまた言われた、「わたしは全地のおもてにある種をもつすべての草と、種のある実を結ぶすべての木とをあなたに与える。これはあなたにたがたの食物となるであらう。三〇また地のすべての獣、空のすべての鳥、地に這うすべてのもの、すなわち命あるものには、食物としてすべての青草を与えらる」。そのようになった。三二神が造ったすべての物を見られたところ、それは、はなはだ良かった。タとなり、また朝となった。第六日である。

第二章 「こうして天と地と、その万象とが完成した。三神は第七日にその作業を終えられた。すなわち、そのすべての作業を終って第七日に休まれた。三神はその第七日を祝福して、これを聖別された。神がこの日に、そのすべての創造のわざを終って休まれたからである。

四これが天地創造の由来である。

主なる神が地と天とを造られた時、五地にはまだ野の木もなく、また野の草もはえていなかった。主なる神が地に雨を降らせず、また土を耕す人もなかったからである。六しかし地から泉がわきあがって土の全面を潤していた。七主なる神は土のちりて人を造り、命の息をその鼻に吹き入れられた。そこで人は生きた者となった。八主なる神は東のかた、エデンに一つの園を設けて、その造った人をそこに置かれた。九また主なる神は、見て美しく、食べるに良いすべての木を土からはえさせ、更に園の中央に命の木と、善悪を知る木とをはえさせられた。一〇また一つの川がエデンから流れ出て園を潤し、そこから分れて四つの川となった。二その第一の名はピソンといい、金のあるハビラの全地をめぐるので、三その地の金は良く、またそこはブドラクと、しまめのうとを産した。四第二の川の名はギホンといい、クシの全地をめぐるので、五第三の川の名はヒデケルといい、アッスリヤの東を流れるもの。第四の川はユーフラテである。六主なる神は人を連れて行ってエデンの園に置き、これを耕させ、これを守らせられた。七主なる神はその人に命じて言われた、「あなたは園のどの木からでも心のままに取って食べてよろしい。八しかし善悪を知る木からは取って食べてはならない。それを取って食べると、きつと死ぬであらう」。九また主なる神は言われた、「人がひとりでいるのは良

くない。彼のために、ふさわしい助け手を造ろう」。一九そして主なる神は野のすべての獣と、空のすべての鳥とを土で造り、人のところへ連れてきて、彼がそれにどんな名をつけるかを見られた。人がすべて生き物に与える名は、その名となるのであった。二〇それで人は、すべての家畜と、空の鳥と、野のすべての獣とに名をつけたが、人にはふさわしい助け手が見つからなかった。三そこで主なる神は人を深く眠らせ、眠った時に、そのあばら骨の一つを取って、その所を肉でふさがれた。三主なる神は人から取ったあばら骨でひとりの女を造り、人のところへ連れてこられた。三三そのとき、人は言った。

「これこそ、ついにわたしの骨の骨、わたしの肉の肉。」

男から取ったものだから、これを女と名づけよう。

二四それで人はその父と母を離れて、妻と結び合い、一体となるのである。二五人とその妻とは、ふたりとも裸であつたが、恥ずかしいとは思わなかった。

第三章 「さて主なる神が造られた野の生き物のうちで、へびが最も狡猾であつた。へびは女に言った、

「園にあるどの木からも取って食べるなど、ほんとうに神が言われたのですか」。二女はへびに言った、「わたしたちは園の木の実を食べることは許されていますが、三ただ園の中央にある木の実については、これを取って食べる

な、これに触れるな、死んではいけないからと、神は言われしました」。四へびは女に言った、「あなたがたは決して死ぬことはないでしょう。五それを食べると、あなたがたの目が開け、神のように善悪を知る者となることを、神は知っておられるのです」。六女がその木を見ると、それは食べるに良く、目には美しく、賢くなるには好ましいと思われたから、その実を取って食べ、また共にいた夫にも与えたので、彼も食べた。七すると、ふたりの目が開け、自分たちの裸であることがわかったので、いちじくの葉をつづり合わせて、腰に巻いた。

八彼らは、日の涼しい風の吹くころ、園の中に主なる神の歩まれる音を聞いた。そこで、人とその妻とは主なる神の顔を避けて、園の木の間を身を隠した。九主なる神は人に呼びかけて言われた、「あなたはどこにいるのか」。一〇彼は答えた、「園の中でああなたの歩まれる音を聞き、わたしは裸だったので、恐れて身を隠したのです」。二神は言われた、「あなたが裸であることを、だれが知らせたのか。食べるなど、命じておいた木から、あなたは取って食べたのか」。三人は答えた、「わたしと一緒にしてくださったあの女が、木から取ってくれたので、わたしは食べたのです」。三そこで主なる神は女に言われた、「あなたは、なんということをしたのです」。女は答えた、「へびがわたしをだましたのです。それでわたしは食べました」。四主なる神はへびに言われた、

「おまえは、この事を、したので、すべての家畜、野のすべての獣のうち、最ものもろわれる。」

おまえは腹で、這いあるき、一生、ちりを食べるであらう。

わたしは恨みをおく、おまえと女とのあいだに、

おまえのすえと女のすえとの間に、彼はおまえのかしらを砕き、

おまえは彼のかかとを砕くであらう。」

つぎに女に言われた、
「わたしはあなたの産みの苦しみを大いに増す。

あなたは苦しんで子を産む。それでもなお、あなたは夫を慕い、

彼はあなたを治めるであらう。」

更に人に言われた、「あなたが妻の言葉を聞いて、食べるなど、わたしが命じた木から取って食べたので、

地はあなたのためにのろわれ、あなたは一生、苦しんで地から食物を取る。

地はあなたのために、いばらとあざみとを生じ、あなたは野の草を食べるであらう。

あなたは顔に汗してパンを食べ、ついに土に帰る、あなたは土から取られたのだから、

さて、人はその妻の名をエバと名づけた。彼女がすべて生きた者の母だからである。主なる神は人とその妻とのために皮の着物を造って、彼らに着せられた。

主なる神は言われた、「見よ、人はわれわれのひとり

のようになり、善悪を知るものとなった。彼は手を伸べ、

命の木からも取って食べ、永久に生きるかも知れない。」

そこで主なる神は彼をエデンの園から追い出して、人が造られたその土を耕させられた。神は人を追い出し、エデンの園の東に、ケルビムと、回る炎のつるぎとを置いて、命の木の道を守らせられた。

第四章 一人はその妻エバを知った。彼女はみ

ごもり、カインを産んで言った、「わたしは主によって、

ひとりの人を得た」。彼女はまた、その弟アベルを産

んだ。アベルは羊を飼う者となり、カインは土を耕す者

となった。三日がたつて、カインは地の産物を持ってき

て、主に供え物とした。アベルもまた、その群れのうい

ごと肥えたものを持ってきた。主はアベルとその供え

物とを顧みられた。しかしカインとその供え物とは顧

みられなかった。カインは大いに憤って、顔を伏せ

た。そこで主はカインに言われた、「なぜあなたは憤る

のですか、なぜ顔を伏せるのですか。正しい事をして

いるのでしたら、顔をあげたらよいでしょう。もし正し

い事をしていないのでしたら、罪が門口に待ち伏せてい

ます。それはあなたを慕い求めますが、あなたはそれを

治めなければなりません」。

「ハカインは弟アベルに言った、「さあ、野原へ行こう」。彼らが野にいたとき、カインは弟アベルに立ちかかって、これを殺した。主はカインに言われた、「弟アベルは、どこにいますか」。カインは答えた、「知りません。わたしは弟の番人でしようか」。主は言われた、「あなたは何をしましたのです。あなたの弟の血の音が土の中からわたしに叫んでいます。今あなたはのろわれてこの土地を離れなければなりません。この土地が口をあけて、あなたの手から弟の血を受けたからです。三あなたは土地を耕しても、土地は、もはやあなたのために実を結びません。あなたは地上の放浪者となるでしょう」。三カインは主に言った、「わたしの罰は重くて負いきれません。四あなたは、きょう、わたしを地のおもてから追放されました。わたしはあなたを離れて、地上の放浪者とならねばなりません。わたしを見付ける人はだれでもわたしを殺すでしょう」。五主はカインに言われた、「いや、そうではない。だれでもカインを殺す者は七倍の復讐を受けるでしょう」。そして主はカインを見付ける者が、だれも彼を打ち殺すことのないように、彼に一つのしるしをつけられた。六カインは主の顔を去って、エデンの東、ノドの地に住んだ。

七カインはその妻を知った。彼女はみごもってエノクを産んだ。カインは町を建て、その町の名をその子の名

にしたがって、エノクと名づけた。八エノクにはイラデが生れた。イラデの子はメホヤエル、メホヤエルの子はメトサエル、メトサエルの子はレメクである。九レメクはふたりの妻をめとった。ひとりの名はアダといい、ひとりの名はチラといった。一〇アダはヤバルを産んだ。彼は天幕に住んで、家畜を飼う者の先祖となった。三その弟の名はユバルといった。彼は琴や笛を執るすべての者の先祖となった。三チラもまたトバルカインを産んだ。彼は青銅や鉄のすべての刃物を鍛える者となった。トバルカインの妹をナアマといった。

三レメクはその妻たちに言った、

「アダとチラよ、わたしの声を聞け、

レメクの妻たちよ、わたしの言葉に耳を傾けよ。

わたしは受ける傷のために、人を殺し、

受ける打ち傷のために、わたしは若者を殺す。

二四カインのための復讐が七倍ならば、

六レメクのための復讐は七十七倍」。

二五アダはまたその妻を知った。彼女は男の子を産み、その名をセツと名づけて言った、「カインがアベルを殺したので、神はアベルの代りに、ひとりの子をわたしに授けられました」。二六セツにもまた男の子が生れた。彼はその名をエノスと名づけた。この時、人々は主の名を呼び始めた。

第五章 アダムの系図は次のとおりである。

神が人を創造された時、神にかたどって造り、ニ彼らを男と女とに創造された。彼らが創造された時、神は彼らを祝福して、その名をアダムと名づけられた。ミアダムは百三十歳になつて、自分にかたどり、自分のかたちのような男の子を生み、その名をセツと名づけた。四アダムがセツを生んで後、生きた年は八百年であつて、ほかに男子と女子を生んだ。五アダムの生きた年は合わせて九百三十歳であつた。そして彼は死んだ。

六セツは百五歳になつて、エノスを生んだ。セツはエノスを生んだ後、八百七年生きて、男子と女子を生んだ。八セツの年は合わせて九百十二歳であつた。そして彼は死んだ。

九エノスは九十歳になつて、カイナンを生んだ。一〇エノスはカイナンを生んだ後、八百十五年生きて、男子と女子を生んだ。二エノスの年は合わせて九百五歳であつた。そして彼は死んだ。

三カイナンは七十歳になつて、マハラレルを生んだ。四カイナンはマハラレルを生んだ後、八百四十年生きて、男子と女子を生んだ。五カイナンの年は合わせて九百十歳であつた。そして彼は死んだ。

六マハラレルは六十五歳になつて、ヤレドを生んだ。

七マハラレルはヤレドを生んだ後、八百三十年生きて、男子と女子を生んだ。八マハラレルの年は合わせて八百九十五歳であつた。そして彼は死んだ。

八ヤレドは百六十二歳になつて、エノクを生んだ。九ヤレドはエノクを生んだ後、八百年生きて、男子と女子を生んだ。一〇ヤレドの年は合わせて九百六十二歳であつた。そして彼は死んだ。

三エノクは六十五歳になつて、メトセラを生んだ。三エノクはメトセラを生んだ後、三百年、神とともに歩み、男子と女子を生んだ。四エノクの年は合わせて三百六十五歳であつた。五エノクは神とともに歩み、神が彼を取られたので、いなくなつた。

五メトセラは百八十七歳になつて、レメクを生んだ。六メトセラはレメクを生んだ後、七百八十二年生きて、男子と女子を生んだ。七メトセラの年は合わせて九百六十九歳であつた。そして彼は死んだ。

八レメクは百八十二歳になつて、男の子を生み、二九「この子こそ、主が地をのろわれたため、骨折り働くわれわれを慰めるもの」と言つて、その名をノアと名づけた。三レメクはノアを生んだ後、五百九十五年生きて、男子と女子を生んだ。四レメクの年は合わせて七百七十七歳であつた。そして彼は死んだ。

五ノアは五百歳になつて、セム、ハム、ヤベテを生んだ。

第六章 一人が地のおもてにふえ始めて、娘たちが彼らに生れた時、神の子たちは人の娘たちの美しいのを見て、自分の好む者を妻にめとつた。三そこで主

は言われた、「わたしの霊はながく人の中にとどまらな
い。彼は肉にすぎないのだ。しかし、彼の年は百二十年
であろう」。四そのころ、またその後にも、地にネピリ
ムがいた。これは神の子たちが人の娘たちのところ
にいて、娘たちに産ませたものである。彼らは昔の勇
士であり、有名な人々であった。

五主は人の悪が地にはびこり、すべてその心に思ひは
かることが、いつも悪い事ばかりであるのを見られた。
六主は地の上に人を造つたのを悔いて、心を痛め、七「わた
しが創造した人を地のおもてからぬぐい去ろう。人も獣
も、這うものも、空の鳥までも。わたしは、これらを造つ
たことを悔いる」と言われた。八しかし、ノアは主の前
に恵みを得た。

九ノアの系図は次のとおりである。ノアはその時代の
人々の中で正しく、かつ全き人であった。ノアは神と
ともに歩んだ。一〇ノアはセム、ハム、ヤベテの三人の子を
生んだ。

二時に世は神の前に乱れて、暴虐が地に満ちた。三神
が地を見られると、それは乱れていた。すべての人が地
の上でその道を乱したからである。四そこで神はノアに
言われた、「わたしは、すべての人を絶やそうと決心した。
彼らは地を暴虐で満たしたから、わたしは彼らを地と
ともに滅ぼそう。五あなたは、いとすぎの木で箱舟を造り、
箱舟の中にへやを設け、アスファルトでそのうちそとを

塗りなさい。六その造り方は次のとおりである。すなわ
ち箱舟の長さは三百キュビト、幅は五十キュビト、高さ
は三十キュビトとし、七箱舟に屋根を造り、上へ一キュ
ビトにそれを仕上げ、また箱舟の戸口をその横に設けて、
一階と二階と三階のある箱舟を造りなさい。八わたしは
地の上に洪水を送って、命の息のある肉なるものを、み
な天の下から滅ぼし去る。地にあるものは、みな死に絶
えるであろう。九ただし、わたしはあなたと契約を結
ぶ。あなたは子らと、妻と、子らの妻たちと共に箱舟に
はいりなさい。一〇またすべての生き物、すべての肉なる
もののなかから、それぞれ二つずつを箱舟に入れて、あな
たと共にその命を保たせなさい。それらは雄と雌とでな
ければならない。一一すなわち、鳥はその種類にしたがい
獣はその種類にしたがい、また地のすべての這うものも、
その種類にしたがって、それぞれ二つずつ、あなたのと
ころに入れて、命を保たせなさい。一二また、すべての食
物となるものをもって、あなたのところにたくわえ、あ
なたとこれらのものとの食物としなさい。一三ノアはす
べて神の命じられたようにした。

第七章

一主はノアに言われた、「あなたと家族
とはみな箱舟にはいりなさい。あなたがこの時代の人々
の中で、わたしの前に正しい人であるわたしは認めた
からである。二あなたはすべての清い獣の中から雄と雌
とを七つずつ取り、清くない獣の中から雄と雌とを二つ

ずつ取り、また空の鳥の中から雄と雌とを七つずつ取つて、その種類が全地のおもてに生き残るようになさい。七日の後、わたしは四十日四十夜、地に雨を降らせて、わたしの造つたすべての生き物を、地のおもてからぬぐい去ります。五ノアはすべて主が命じられたようにした。

六さて洪水が地に起つた時、ノアは六百歳であつた。七ノアは子らと、妻と、子らの妻たちと共に洪水を避けて箱舟にはいつた。八また清い獣と、清くない獣と、鳥と、地に這うすべてのものの、九雄と雌とが、二つずつノアのもとにきて、神がノアに命じられたように箱舟にはいつた。一〇こうして七日の後、洪水が地に起つた。

二それはノアの六百歳の二月十七日であつて、その日に大なる淵の源は、ことごとく破れ、天の窓が開けて、三雨は四十日四十夜、地に降り注いだ。三その同じ日に、ノアと、ノアの子セム、ハム、ヤベテと、ノアの妻と、その子らの三人の妻とは共に箱舟にはいつた。四またすべての種類の獣も、すべての種類の家畜も、地のすべての種類の這うものも、すべての種類の鳥も、すべての翼あるものも、皆はいつた。五すなわち命の息のあるすべての肉なるものが、二つずつノアのもとにきて、箱舟にはいつた。六そのはいつたものは、すべて肉なるものの雄と雌とであつて、神が彼に命じられたようにはいつた。そこで主は彼のうしろの戸を閉ざされた。七洪水は四十日のあいだ地上にあつた。水が増して箱

舟を浮べたので、箱舟は地から高く上がった。八また水がみなぎり、地に増したので、箱舟は水のおもてに漂つた。九水はまた、ますます地にみなぎり、天の下の高い山々は皆おおわれた。一〇水はその上、さらに十五キュビトみなぎつて、山々は全とおおわれた。三地上に動くすべて肉なるものは、鳥も家畜も獣も、地に群がるすべての這うものも、すべての人もみな滅びた。三すなわち鼻に命の息のあるすべてのもの、陸にいたすべてのものは死んだ。三三地ののおもてにいたすべての生き物は、人も家畜も、這うものも、空の鳥もみな地からぬぐい去られて、ただノアと、彼と共に箱舟にいたものだけが残つた。

三三水は百五十日のあいだ地上にみなぎつた。

第八章 一神はノアと、箱舟の中にいたすべての

生き物と、すべての家畜とを心にとめられた。神が風を地の上に吹かせられたので、水は退いた。二また淵の源と、天の窓とは閉ざされて、天から雨が降らなくなつた。三それで水はしだいに地の上から引いて、百五十日の後には水が減り、四箱舟は七月十七日にアララテの山にとどまつた。五水はしだいに減つて、十月になり、十一月一日に山々の頂が現れた。

六四十日たつて、ノアはその造つた箱舟の窓を開いて、七からすを放つたところ、からすは地の上から水がかわききるまで、あちらこちらへ飛びまわつた。八ノアはまた地のおもてから、水がひいたかどうかを見ようと、彼

の所から、はとを放ったが、九はとは足の裏をとどめる所が見つからなかった。箱舟のノアのもとに帰ってきた。水がまだ全地のおもてにあつたからである。彼は手を伸べて、これを捕え、箱舟の中の彼のもとに引き入れた。二〇それから七日待つて再びはとを箱舟から放った。二はとは夕方になつて彼のもとに帰ってきた。見ると、そのくちばしには、オリブの若葉があつた。ノアは地から水がひいたのを知った。三さらに七日待つてまた、はとを放ったところ、もはや彼のもとには帰つてこなかった。

二六 六百一歳の一月一日になつて、地の上の水はかされた。ノアが箱舟のおおいを取り除いて見ると、土のおもては、かわいていた。二四 二月二十七日になつて、地は全くかわいた。二五 この時、神はノアに言われた、二六 あなたは妻と、子らと、子らの妻たちと共に箱舟を出なさい。二七 あなたは、共にいる肉なるすべての生き物、すなわち鳥と家畜と、地のすべての這うものとを連れて出て、これらのものが地に群がり、地の上にふえ広がるようにしなさい。二八 ノアは共にいた子らと、妻と、子らの妻たちとを連れて出た。二九 またすべての獣、すべての這うもの、すべての鳥、すべて地の上に動くものは皆、種類にしたがつて箱舟を出た。

三〇 ノアは主に祭壇を築いて、すべての清い獣と、すべての清い鳥とのうちから取つて、燔祭を祭壇の上にささ

げた。三二 主はその香ばしいかおりをかいで、心に言われた、「わたしはもはや二度と人のゆえに地をのろわれない。人が心に思い図ることは、幼い時から悪いからである。わたしは、このたびしたように、もう二度と、すべての生きたものを滅ぼさない。三三 地のある限り、種まきの時も、刈入れの時も、暑さ寒さも、夏冬も、昼も夜もやむことはないであらう」。

第 九 章 一 神はノアとその子らとを祝福して彼らに言われた、「生めよ、ふえよ、地に満ちよ。二 地のすべての獣、空のすべての鳥、地に這うすべてのもの、海のすべての魚は恐れおののいて、あなたがたの支配に服し、三 すべて生きて動くものはあなたがたの食物となるであらう。さきに青草をあなたがたに与えたように、

わたしはこれらのものを皆あなたがたに与える。四 しかし肉を、その命である血のままで、食べてはならない。五 あなたがたの命の血を流すものには、わたしは必ず報復するであらう。いかなる獣にも報復する。兄弟である人にも、わたしは人の命のために、報復するであらう。

六 人の血を流すものは、人に血を流される、七 神が自分のかたちを人に造られたゆえに、八 あなたがたは、生めよ、ふえよ、

地に群がり、地の上にふえよ。

九 神はノアおよび共にいる子らに言われた、十 わたしはあなたがた及びあなたがたの後の子孫と契約を立てる。

「またあなたがたと共にいるすべての生き物、あなたがたと共にいる鳥、家畜、地のすべての獣、すなわち、すべて箱舟から出たものは、地のすべての獣にいたるまで、わたしはそれと契約を立てよう。二わたしがあなたがたと立てるこの契約により、すべて肉なる者は、もはや洪水によつて滅ぼされることはなく、また地を滅ぼす洪水は、再び起らないであらう。三さらに神は言われた、「これはわたしと、あなたがたと及びあなたがたと共にいるすべての生き物との間に代々かぎりなく、わたしが立てる契約のしるしである。四すなわち、わたしは雲の中に、じを置く。これがわたしと地との間の契約のしるしとなる。五わたしが雲を地の上に起すとき、じは雲の中に現れる。六こうして、わたしは、わたしとあなたがたと及びすべて肉なるあらゆる生き物との間に立てた契約を思いおこすゆえ、水はふたたび、すべて肉なる者を滅ぼす洪水とはならない。七にじが雲の中に現れるとき、わたしはこれを見て、神が地上にあるすべて肉なるあらゆる生き物との間に立てた永遠の契約を思いおこすである。八そして神はノアに言われた、「これがわたしと地にあるすべて肉なるものとの間に、わたしが立てた契約のしるしである。九箱舟から出たノアの子らはセム、ハム、ヤベテであつた。ハムはカナン之父である。一〇この三人はノアの子らで、全地の民は彼らから出て、広がつたのである。」

「さてノアは農夫となり、ぶどう畑をつくり始めたが、三彼はぶどう酒を飲んで酔い、天幕の中で裸になつてゐた。四カナンの父ハムは父の裸を見て、外にゐるふたりの兄弟に告げた。五セムとヤベテとは着物を取つて、肩にかけ、うしろ向きに歩み寄つて、父の裸をおおい、顔をそむけて父の裸を見なかった。六やがてノアは酔いがさめて、末の子が彼にした事を知つたとき、七彼は言つた、八「カナンはのろわれよ。」

「彼はしもべのしもべとなつて、食へずおどろかす。」

「その兄弟たちに仕える。」

「セムの神、主はほむべきかな、」

「カナンはそのしもべとなれ。」

「神はヤベテを大いならしめ、」

「セムの天幕に彼を住まわせられるように。」

「カナンはそのしもべとなれ。」

「ノアは洪水の後、なお三百五十年生きた。二ノアの年は合わせて九百五十歳であつた。そして彼は死んだ。」

第一〇章 ノアの子セム、ハム、ヤベテの系図は次のとおりである。洪水の後、彼らに子が生れた。

「ヤベテの子孫はゴメル、マゴグ、マダイ、ヤワン、ト

バル、メセク、テラスであつた。三ゴメルの子孫はアシ

ケナズ、リパテ、トガルマ。四ヤワンの子孫はエリシヤ、

タルシシ、キツテム、ドダニムであつた。^五これらから海沿いの地の国民が分れて、おのおのその土地におり、その言語にしたがい、その氏族にしたがつて、その国々に住んだ。

^六ハムの子孫はクシ、ミツライム、ブテ、カナンであつた。^七クシの子孫はセバ、ハビラ、サブタ、ラアマ、サブテカであり、ラアマの子孫はシバとデタンであつた。

^八クシの子はニムロデであつて、このニムロデは世の権力者となつた最初の人である。^九彼は主の前に力ある狩獵者であつた。これから「主の前に力ある狩獵者ニムロデのごとし」ということが起つた。^{一〇}彼の国は最初

シナルの地にあるバベル、エレク、アカデ、カルネであつた。^二彼はその地からアッスリヤに出て、ニネベ、レホボテイル、カラ、^三およびニネベとカラとの間にある大いなる町レセンを建てた。^四ミツライムからルデ族、アナミ族、レハビ族、ナフト族、^五パテロス族、カスル族、カフトリ族が出た。カフトリ族からペリシテ族が出た。

^六カナンからその長子シドンが出て、またヘテが出た。

^七その他エブスびと、アモリびと、ギルガシびと、^八セビびと、アルキびと、セニびと、^九ハアルワデびと、ゼマリびと、ハマテびとが出た。後になつてカナンびとの氏族がひろがつた。^{一〇}カナンびとの境はシドンからゲラルを経てガザに至り、ソドム、ゴモラ、アデマ、ゼボイムを経て、レシヤに及んだ。^{一一}これらはハムの子孫であつて、

その氏族とその言語にしたがつて、その土地と、その国々にいた。

^{一二}セムにも子が生れた。セムはエベルのすべての子孫の先祖であつて、ヤベテの兄であつた。^{一三}セムの子孫は

エラム、アシュル、アルバクサデ、ルデ、アラムであつた。

^{一四}アラムの子孫はウヅ、ホル、ゲテル、マシであつた。

^{一五}アルバクサデの子はシラ、シラの子はエベルである。

^{一六}エベルにふたりの子が生れた。そのひとりの名をペレグといつた。これは彼の代に地の民が分れたからである。

その弟の名をヨクタンといつた。^{一七}ヨクタンにアル

モダデ、シャレフ、ハザルマウテ、エラ、^{一八}ハドラム、

ウザル、デクラ、^{一九}オバル、アビマエル、シバ、^{二〇}オフル、

ハビラ、ヨバブが生れた。これらは皆ヨクタンの子であつた。

^{二一}彼らが住んだ所はメシヤから東の山地セバルに及んだ。^{二二}これらはセムの子孫であつて、その氏族とその

言語にしたがつて、その土地と、その国々にいた。

^{二三}これらはノアの子らの氏族であつて、血統にしたがつて国々に住んでいたが、洪水の後、これらから地上

の諸国民が分れたのである。

第一章 全地は同じ発音、同じ言葉であつた。

^二時に人々は東に移り、シナルの地に平野を得て、そこに

住んだ。^三彼らは互に言つた、「さあ、れんがを造つて、

よく焼こう」。^四こうして彼らは石の代りに、れんがを得、

しっくいの代りに、アスファルトを得た。彼らはまた

言った、「さあ、町と塔とを建てて、その頂を天に届かせよう。そしてわれわれは名を上げて、全地のおもてに散るのを免れよう」。時に主は下って、人の子たちの建てる町と塔とを見て、六言われた、「民は一つで、みな同じ言葉である。彼らはすでにこの事をしはじめた。彼らがしようとする事は、もはや何事もとどめ得ないであろう。七さあ、われわれは下って行って、そこで彼らの言葉を乱し、互に言葉が通じないようにしよう」。ハこうして主が彼らをそこから全地のおもてに散らされたので、彼らは町を建ててのをやめた。九これによつてその町の名はバベルと呼ばれた。主がそこで全地の言葉を乱されたからである。主はそこから彼らを全地のおもてに散らされた。

一〇セムの系図は次のとおりである。セムは百歳になつて洪水の二年の後にアルパクサデを生んだ。二セムはアルパクサデを生んで後、五百年生きて、男子と女子を生んだ。

三アルパクサデは三十五歳になつてシラを生んだ。四アルパクサデはシラを生んで後、四百三年生きて、男子と女子を生んだ。

五シラは三十歳になつてエベルを生んだ。六シラはエベルを生んで後、四百三年生きて、男子と女子を生んだ。

七エベルは三十四歳になつてペレグを生んだ。八エベルはペレグを生んで後、四百三十年生きて、男子と女子

を生んだ。

九ペレグは三十歳になつてリウを生んだ。一〇ペレグはリウを生んで後、二百九年生きて、男子と女子を生んだ。

二〇リウは三十二歳になつてセルグを生んだ。二一リウはセルグを生んで後、二百七年生きて、男子と女子を生んだ。

三セルグは三十歳になつてナホルを生んだ。四セルグはナホルを生んで後、二百年生きて、男子と女子を生んだ。

五ナホルは二十九歳になつてテラを生んだ。六ナホルはテラを生んで後、百十九年生きて、男子と女子を生んだ。

七テラは七十歳になつてアブラム、ナホルおよびハランを生んだ。

八テラの系図は次のとおりである。テラはアブラム、ナホルおよびハランを生み、ハランはロトを生んだ。

九ハランは父テラにさきだつて、その生れた地、カルデヤのウルで死んだ。一〇アブラムとナホルは妻をめとつた。アブラムの妻の名はサライといい、ナホルの妻の名はミルカといってハランの娘である。ハランはミルカの父、またイスカの父である。一一サライはうまずめで、子がなかつた。

一二テラはその子アブラムと、ハランの子である孫ロトと、子アブラムの妻である嫁サライとを連れて、カナン

の地へ行こうとカルデヤのウルを出たが、ハランに着いてそこに住んだ。ミテラの年は二百五歳であった。テラはハランで死んだ。

第一章 一時に主はアブラムに言われた、「あなたは国を出て、親族に別れ、父の家を離れ、わたしが示す地に行きなさい。二わたしはあなたを大いなる国民とし、あなたを祝福し、あなたの名を大きくしよう。あなたは祝福の基となるであろう。

三あなたを祝福する者をわたしは祝福し、あなたをのろう者をわたしはのろう。地のすべてのやからは、あなたによって祝福される」。

四アブラムは主が言われたようにいで立った。ロトも彼と共に行った。アブラムはハランを出たとき七十五歳であった。五アブラムは妻サライと、弟の子ロトと、集めたすべての財産と、ハランで獲た人々とを携えてカナンに行こうとしていで立ち、カナンの地にきた。六アブラムはその地を通してシケムの所、モレのテレピンの木のところに着いた。そのころカナンびとがその地にいた。七時に主はアブラムに現れて言われた、「わたしはあなたの子孫にこの地を与えます」。アブラムは彼に現れた主のために、そこに祭壇を築いた。八彼はそこからベテルの東の山に移って天幕を張った。西にはベテル、東にはアイがあった。そこに彼は主のために祭壇を築いて、主の名

を呼んだ。九アブラムはなお進んでネゲブに移った。

一〇さて、その地にききんがあったのでアブラムはエジプトに寄留しようと、そこに下った。ききんがその地に激しかったからである。一一エジプトにはいろいろとして、そこに近づいたとき、彼は妻サライに言った、「わたしはあなたが美しい女であるのを知っています。三それでエジプトびとがあなたを見る時、これは彼の妻であると言ってわたしを殺し、あなたを生かしておくでしょう。二三どうかあなたは、わたしの妹だと言ってください。そうすればわたしはあなたのおかげで無事であり、わたしの命はあなたによって助かるでしょう」。一四アブラムがエジプトにはいった時エジプトびとはこの女を見て、たいそう美しい人であるとし、一五またパロの高官たちも彼女を見てパロの前ではめたので、女はパロの家に召し入れられた。一六パロは彼女のゆえにアブラムを厚くもてなしたので、アブラムは多くの羊、牛、雌雄のろば、男女の奴隸および、らくだを得た。

一七とところで主はアブラムの妻サライのゆえに、激しい疫病をパロとその家に下された。一八パロはアブラムを召し寄せて言った、「あなたはわたしに何という事をしたのですか。なぜ彼女が妻であるのをわたしに告げなかったのですか。一九あなたはなぜ、彼女はわたしの妹ですと言ったのですか。わたしは彼女を妻にしようとしていました。さあ、あなたの妻はここにいます。連れて行って

ください」。二〇パロは彼の事について人々に命じ、彼とその妻およびそのすべての持ち物を送り去らせた。

第一三章 アブラムは妻とすべての持ち物を携え、エジプトを出て、ネゲブに上った。ロトも彼と共に上った。

ニアブラムは家畜と金銀に非常に富んでいた。三彼はネゲブから旅路を進めてベテルに向かい、ベテルとアイの間の、さき天幕を張った所に行った。四すなわち彼が初めに築いた祭壇の所に行き、その所でアブラムは主の名を呼んだ。五アブラムと共に行ったロトも羊、牛および天幕を持っていた。六その地は彼らをささえて共に住ませることができなかった。彼らの財産が多かったため、共に住めなかったのである。七アブラムの家畜の牧者たちとロトの家畜の牧者たちの間に争いがあつた。そのころカナンびととベリジびとがその地に住んでいた。

八アブラムはロトに言った、「わたしたちは身内の者です。わたしとあなたの間にも、わたしの牧者たちとあなたの牧者たちの間にも争いがないようにしましう。九全地はあなたの前にあるではありませんか。どうかわたしと別れてください。あなたが左に行けばわたしは右に行きます。あなたが右に行けばわたしは左に行きます。一〇ロトが目を立ててヨルダンの低地をあまねく見わたすと、主がソドムとゴモラを滅ぼされる前であつたから、ゾアルまで主の園のように、またエジプトの地

のように、すみずみまでよく潤っていた。二そこでロトはヨルダンの低地をこごとく選びとつて東に移った。こうして彼らは互に別れた。三アブラムはカナンの地に住んだが、ロトは低地の町々に住み、天幕をソドムに移した。四ソドムの人々はわるく、主に対して、はなはだしい罪びとであつた。

一四ロトがアブラムに別れた後に、主はアブラムに言われた、「目をあげてあなたのいる所から北、南、東、西を見わたしなさい。五すべてあなたが見たす地は、永久にあなたとあなたの子孫に与えます。六わたしはあなたの子孫を地のちりのように多くします。もし人が地のちりを数えることができるなら、あなたの子孫も数えられることができましよう。七あなたは立つて、その地をたてよこに行き巡りなさい。わたしはそれをあなたに与えます。八アブラムは天幕を移してヘブロンにあるマムレのテレピンの木のかたわらに住み、その所で主に祭壇を築いた。

第一四章 シナルの王アムラベル、エラサル、王アリオク、エラムの王ケダラオメルおよびゴイムの王テダルの世に、三これらの王はソドムの王ベラ、ゴモラの王ビルシャ、アデマの王シナブ、ゼボイムの王セメベル、およびベラすなわちゾアルの王と戦つた。四これらの五人の王はみな同盟してシデムの谷、すなわち塩の海に向かつて行った。五すなわち彼らは十二年の間ケダラオ

メルに仕えたが、十三年目にそむいたので、五十四年目にケダラオメルは彼と連合した王たちと共にきて、アシタロテ・カルナイムでレバイムびとを、ハムでズジびとを、シャベ・キリアタイムでエミびとを撃ち、ハセイルの山地でホリびとを撃つて、荒野のほとりにあるエル・バラシに及んだ。七彼らは引き返してエン・ミシパテすなわちカデシへ行って、アマレクびとの国をことごとく撃ち、またハザゾン・タマルに住むアモリびとをも撃つた。八そこでソドムの王、ゴモラの王、アデマの王、ゼボイムの王およびベラすなわちゾアルの王は出てシデムの谷で彼らに向かい、戦いの陣をしいた。九すなわちエラムの王ケダラオメル、ゴイムの王テダル、シナルの王アムラベル、エラサル王アリオクの四人の王に対する五人の王であった。一〇シデムの谷にはアスファルトの穴が多かったので、ソドムの王とゴモラの王は逃げてそこに落ちたが、残りの者は山にのがれた。一一そこで彼らはソドムとゴモラの財産と食料とをことごとく奪って去り、三またソドムに住んでいたアブラムの弟の子ロトとその財産を奪って去った。

一二時に、ひとりの人がのがれてきて、ヘブルびとアブラムに告げた。この時アブラムはエシコルの兄弟、またアネルの兄弟であるアモリびとマムレのテレピンの木のかたわらに住んでいた。彼らはアブラムと同盟していた。一四アブラムは身内の者が捕虜になったのを聞き、訓

練した家の子三百十八人を引き連れてダンまで追って行き、一五そのしもべたちを分けて、夜かれらを攻め、これを撃つてダマスコの北、ホバまで彼らを追った。一六そして彼はすべての財産を取り返し、また身内の者ロトとその財産および女たちと民とを取り返した。一七アブラムがケダラオメルとその連合の王たちを撃ち破って帰った時、ソドムの王はシャベの谷、すなわち王の谷に出て彼を迎えた。一八その時、サレムの王メルキゼデクはパンとぶどう酒とを持ってきた。彼はいと高き神の祭司である。一九彼はアブラムを祝福して言った、

「願わくは天地の主なるいと高き神が、アブラムを祝福されるように。」

二〇願わくはあなたの敵をあなたの手に渡されたいと高き神があがめられるように。」

二一アブラムは彼にすべての物の十分の一を贈った。二二時にソドムの王はアブラムに言った、「わたしには人をくたさない。財産はあなたが取りなさい」。二三アブラムはソドムの王に言った、「天地の主なるいと高き神、主に手をあげて、わたしは誓います。二四わたしは糸一本でも、くつひも一本でも、あなたのものは何も受けません。アブラムを富ませたのはわたしだと、あなたが言わないように。二五ただし若者たちがすでに食べた物は別です。そしてわたしと共に行った人々アネルとエシコルとマムレとにはその分を取らせなさい」。

第一章

「これらの事の後、主の言葉が幻のうちにアブラムに臨んだ、

「アブラムよ恐れてはならない、

わたしはあなたの盾である。

あなたの受ける報いは、

はなはだ大きいであろう」。

ニアブラムは言った、「主なる神よ、わたしには子がなく、

わたしの家を継ぐ者はダマスコのエリエゼルであるの

に、あなたはわたしに何をくださろうとするのですか」。

ニアブラムはまた言った、「あなたはわたしに子を賜わら

ないので、わたしの家に生れたしもべが、あとつぎとな

るでしょう」。

この時、主の言葉が彼に臨んだ、「この

者はあなたのあとつぎとなるべきではありません。あな

たの身から出る者があとつぎとなるべきです」。

主は彼を外に連れ出して言われた、「天を仰いで、星を数

えることができるなら、数えてみなさい」。

また彼に言われた、「あなたの子孫はあのようになるでし

よう」。

ニアブラムは主を信じた。主はこれを彼の義と認められた。

また主は彼に言われた、「わたしはこの地をあなたに

与えて、これを継がせようと、あなたをカルデヤのウル

から導き出した主です」。

彼は言った、「主なる神よ、わたしはこれを継ぐのをどうして知ることができますか」。

主は彼に言われた、「三歳の雌牛と、三歳の雌やぎと、三

歳の雄羊と、山ばとと、家ばとのひなとをわたしの所に

連れてきなさい」。

彼はこれらをみな連れてきて、二つ

に裂き、裂いたものを互に向かい合わせて置いた。ただ

し、鳥は裂かなかった。二頭の鳥が死体の上に降りると

き、アブラムはこれを追い払った。

三日の入るころ、アブラムが深い眠りにおそわれた時、

大きな恐ろしい暗やみが彼に臨んだ。二時に主はアブラ

ムに言われた、「あなたはよく心にとめておきなさい。あ

なたの子孫は他の国に旅びととなって、その人々に仕え、

その人々は彼らを四百年の間、悩ますでしょう。二四しか

し、わたしは彼らが仕えたその国民をさばきます。その

後かれらは多くの財産を携えて出て来るでしょう。二五あ

なたは安らかに先祖のもとに行きます。そして高齢に達

して葬られるでしょう。二六四代目になって彼らはここに

帰って来るでしょう。アモリびとの悪がまだ満ちないか

らです」。

七やがて日は入り、暗やみになった時、煙の立つかま

ど、炎の出るたいまつが、裂いたものの間を通り過ぎた。

八その日、主はアブラムと契約を結んで言われた、

「わたしはこの地をあなたの子孫に与える。

エジプトの川から、かの大川エフラテまで。

九すなわちケニびと、ケニジびと、カドモニびと、ニ〇ヘ

テびと、ペリジびと、レバイムびと、ニアモリびと、カ

ナンびと、ギルガシびと、エブスびとの地を与える」。

第一章 六章

ニアブラムの妻サライは子を産まな

かった。彼女にひとりのつかえめがあった。エジプトの女で名をハガルといった。ニサライはアブラムに言った、「主はわたしに子をお授けになりません。どうぞ、わたしのつかえめの所におはいりください。彼女によってわたしは子をもつことになるでしょう」。アブラムはサライの言葉を聞き入れた。三アブラムの妻サライはそのつかえめエジプトの女ハガルをとって、夫アブラムに妻として与えた。これはアブラムがカナン之地に十年住んだ後であつた。四彼はハガルの所にはいり、ハガルは子をはらんだ。彼女は自分のはらんだのを見て、女主人を見下げるようになった。五そこでサライはアブラムに言った、「わたしを受けた害はあなたの責任です。わたしのつかえめをあなたのふところに与えたのに、彼女は自分のはらんだのを見て、わたしを見下げます。どうか、主があなたとわたしの間をおさばきになるように」。六アブラムはサライに言った、「あなたのつかえめはあなたの手のうちにある。あなたの好きなように彼女にしないさい」。そしてサライが彼女を苦しめたので、彼女はサライの顔を避けて逃げた。

七主の使は荒野にある泉のほとり、すなわちシユルの道にある泉のほとりで、彼女に会い、八そして言った、「サライのつかえめハガルよ、あなたはどこからきたのですか、またどこへ行くのですか」。彼女は言った、「わたしは女主人サライの顔を避けて逃げているのです」。九主の

使は彼女に言った、「あなたは女主人のもとに帰って、その手に身を任せなさい」。一〇主の使はまた彼女に言った、「わたしは大いにあなたの子孫を増して、数えきれないほどに多くしましょう」。二主の使はまた彼女に言った、「あなたは、みごもっています。あなたは男の子を産むでしょう。名をイシマエルと名づけなさい。主があなたの苦しみを聞かれたのです。三彼は野ろばのような人となり、その手はすべての人に逆らい、すべての人の手は彼に逆らい、彼はすべての兄弟に敵して住むでしょう」。四そこでハガルは自分に語られた主の名を呼んで、「あなたはエル・ロイです」と言った。彼女が「ここでも、わたしを見ていられるかたのうしろを拝めたのか」と言ったことによる。五それでその井戸は「ベエル・ラハイ・ロイ」と呼ばれた。これはカデシとベレデの間にある。六ハガルはアブラムに男の子を産んだ。アブラムはハガルが産んだ子の名をイシマエルと名づけた。七ハガルがイシマエルをアブラムに産んだ時、アブラムは八十六歳であつた。

第十七章 アブラムの九十九歳の時、主はアブラムに現れて言われた、

「わたしは全能の神である。

あなたはわたしの前に歩み、全き者であれ。

二わたしはあなたと契約を結び、

大いにあなたの子孫を増すであらう」。

三 アブラムは、ひれ伏した。神はまた彼に言われた、主の

四 「わたしはあなたと契約を結ぶ。

あなたは多くの国民の父となるであろう。

五 あなたの名は、もはやアブラムとは言われず、

あなたの名はアブラハムと呼ばれるであろう。

わたしはあなたを多くの国民の

父とするからである。

六 わたしはあなたに多くの子孫を得させ、国々の民をあなたから起そう。また、王たちもあなたから出るであろう。

七 わたしはあなた及び後の代々の子孫と契約を立てて、永遠の契約とし、あなたと後の子孫との神となるであろう。

八 わたしはあなたと後の子孫とにあなたの宿っているこの地、すなわちカナンの全地を永久の所有として与える。

そしてわたしは彼らの神となるであろう。

九 神はまたアブラハムに言われた、「あなたと後の子孫とは共に代々わたしの契約を守らなければならない。あなたがたのうち

一〇 男子はみな割礼をうけなければならない。わたしはわたしとあなたがた及び後の子孫との間の

わたしの契約であって、あなたがたの守るべきものである。二 あなたがたは前の皮に割礼を受けなければならない。それがわたしとあなたがたとの間の契約のしるしとなるであろう。

三 あなたがたのうちの男子はみな代々、家に生れた者も、また異邦人から銀で買い取った、あなたの子孫でない者も、生れて八日目に割礼を受けなけ

ればならない。三 あなたの家を生れた者も、あなたが銀

で買い取った者も必ず割礼を受けなければならない。こ

うしてわたしの契約はあなたがたの身にあつて永遠の契

約となるであろう。四 割礼を受けない男子、すなわち前

の皮を切らない者はわたしの契約を破るゆえ、その人は

民のうちから断たれるであろう。

五 神はまたアブラハムに言われた、「あなたの妻サライ

は、もはや名をサライといわず、名をサラと言いなさい。

六 わたしは彼女を祝福し、また彼女によつて、あなたに

ひとりの男の子を授けよう。わたしは彼女を祝福し、彼

女を国々の民の母としよう。彼女から、もろもろの民の

王たちが出るであろう。七 アブラハムはひれ伏して笑

い、心の中で言った、「百歳の者にどうして子が生れよう。

サラはまた九十歳にもなつて、どうして産むことがで

きようか。八 そしてアブラハムは神に言った、「どう

かイシマエルがあなたの前に生きながらえますように」。

九 神は言われた、「いや、あなたの妻サラはあなたに男の

子を産むでしよう。名をイサクと名づけなさい。わたし

は彼と契約を立てて、後の子孫のために永遠の契約とし

よう。一〇 またイシマエルについてはあなたの願いを聞いた。わたしは彼を祝福して多くの子孫を得させ、大いに

それを増すであろう。彼は十二人の君たちを生むであろ

う。わたしは彼を大いなる国民としよう。三 しかしわたしは来年の今ごろサラがあなたに産むイサクと、わたし

の契約を立てるであらう」。

三神はアブラハムと語り終え、彼を離れて、のぼられた。四アブラハムは神が自分に言われたように、この日その子イシマエルと、すべて家に生れた者およびすべて銀で買い取った者、すなわちアブラハムの家の人々のうち、すべての男子を連れてきて、前の皮に割礼を施した。五アブラハムが前の皮に割礼を受けた時は九十九歳、六その子イシマエルが前の皮に割礼を受けた時は十三歳であつた。七この日アブラハムとその子イシマエルは割礼を受けた。八またその家の人々は家に生れた者も、銀で異邦人から買い取った者も皆、彼と共に割礼を受けた。

第一八章 一主はマムレのテレビンの木のかたわらでアブラハムに現れられた。それは昼の暑いところで、彼は天幕の入口にすわっていたが、二目を上げて見ると、三人の人が彼に向かつて立っていた。彼はこれを見て、天幕の入口から走って行って彼らを迎え、地に身をかがめて、三言つた、「わが主よ、もしわたしがあなたの前に恵みを得ているなら、どうぞしもべを通り過ぎさないでください。四水をすこし取ってこさせますから、あなたがたは足を洗つて、この木の下でお休みください。五わたしは一口のパンを取ってきます。元氣をつけて、それからお出かけください。せつかくしもべの所においでになったのですから」。彼らは言つた、「お言葉どおりにしてください」。六そこでアブラハムは急いで天幕に入り、

サラの所に行つて言つた、「急いで細かい麦粉三セヤをとリ、こねてパンを造りなさい」。七アブラハムは牛の群れに走って行き、柔らかな良い子牛を取つて若者に渡したので、急いで調理した。八そしてアブラハムは凝乳と牛乳および子牛の調理したものを取つて、彼らの前に供え、木の下で彼らのかたわらに立つて給仕し、彼らは食事した。

九彼らはアブラハムに言つた、「あなたの妻サラはどこにおられますか」。彼は言つた、「天幕の中です」。一〇そのひとりと言つた、「来年の春、わたしはかならずあなたの所に歸つてきましょう。その時、あなたの妻サラには男の子が生れていよう」。サラはうしろの方の天幕の入口で聞いていた。二さてアブラハムとサラとは年がすすみ、老人となり、サラは女の月のものが、すでに止まっていた。三それでサラは心の中で笑つて言つた、「わたしは衰え、主人もまた老人であるのに、わたしに楽しみなどありえようか」。四主はアブラハムに言われた、「なぜサラは、わたしは老人であるのに、どうして子を産むことができようかと言つて笑つたのか。五主にとって不可能なことがありましようか。来年の春、定めの際に、わたしはあなたの所に歸つてきます。そのときサラには男の子が生れていよう」。六サラは恐れたので、これを打ち消して言つた、「わたしは笑いません」。主は言われた、「いや、あなたは笑いました」。

「六その人々はそのを立ててソドムの方に向かったの
で、アブラハムは彼らを見送って共に行った。七時に主
は言われた、「わたしのしようとする事をアブラハムに隠
してよいであろうか。八アブラハムは必ず大きな強い国
民となつて、地のすべての民がみな、彼によつて祝福を
受けるのではないか。九わたしは彼が後の子らと家族と
に命じて主の道を守らせ、正義と公道とを行わせるため
に彼を知つたのである。これは主がかつてアブラハムに
ついて言つた事を彼の上に臨ませるためである。一〇主
はまた言われた、「ソドムとゴモラの叫びは大きく、また
その罪は非常に重いので、三わたしはいま下つて、わた
しに届いた叫びのとおり、すべて彼らがおこなつてい
るかどうかを見て、それを知ろう」。

「三その人々はそこから身を巡らしてソドムの方に行つ
たが、アブラハムはなお、主の前に立っていた。四アブ
ラハムは近寄つて言つた、「まことにあなたは正しい者を、
悪い者と一緒に滅ぼされるのですか。五たとい、あの町
に五十人の正しい者があつても、あなたはなお、その所を
滅ぼし、その中にいる五十人の正しい者のためにこれを
ゆるされないのですか。六正しい者と悪い者とを一緒に
殺すようなことを、あなたは決してなさらないでしょう。
七正しい者と悪い者とを同じようにすることも、あなたは
決してなさらないでしょう。八全地をさばく者は公義を行
うべきではありませんか。九主は言われた、「もしソド

ムで町の中に五十人の正しい者があつたら、その人々の
ためにその所をすべてゆるそう。一〇アブラハムは答え
て言つた、「わたしはちり灰に過ぎませんが、あえてわが
主に申します。一一もし五十人の正しい者のうち五人欠け
たなら、その五人欠けたために町を全く滅ぼされます
か。主は言われた、「もしそこに四十五人いたら、滅ぼ
さないであろう。一二アブラハムはまた重ねて主に言つ
た、「もしそこに四十人いたら。主は言われた、「その四
十人のために、これをしないであろう。一三アブラハム
は言つた、「わが主よ、どうかお怒りにならぬよう。わた
しは申します。もしそこに三十人いたら。主は言われ
た、「そこに三十人いたら、これをしないであろう。一四ア
ブラハムは言つた、「いまわたしはあえてわが主に申しま
す。もしそこに二十人いたら。主は言われた、「わたし
はその二十人のために滅ぼさないであろう。一五アブラ
ハムは言つた、「わが主よ、どうかお怒りにならぬよう。
わたしはいま一度申します、もしそこに十人いたら。主
は言われた、「わたしはその十人のために滅ぼさないであ
ろう。一六主はアブラハムと語り終り、去つて行かれた。
アブラハムは自分の所に帰つた。

第一九章 「そのふたりのみ使は夕暮にソドムに
着いた。そのときロトはソドムの門にすわつていた。ロ
トは彼らを見て、立つて迎え、地に伏して、二言つた、「わ
が主よ、どうぞしもべの家に立寄つて足を洗い、お泊ま

りください。そして朝早く起きてお立ちください」。彼らは言った、「いや、われわれは広場で夜を過ごします」。しかしロトがしいて勧めたので、彼らはついに彼の所に寄り、家にはいった。ロトは彼らのためにふるまいを設け、種入れぬパンを焼いて食べさせた。四ところが彼らの寝ないうちに、ソドムの町の人々は、若い者も老人も、民がみな四方からきて、その家を囲み、五ロトに叫んで言った、「今夜おまえの所にきた人々はどこにいるか。それをここに出しなさい。われわれは彼らを知るであらう」。六ロトは入口における彼らの所に出て行き、うしろの戸を閉じて、七言った、「兄弟たちよ、どうか悪い事はしないでください。わたしはまだ男を知らない娘がふたりあります。わたしはこれをあなたがたに、さし出しますから、好きなようにしてください。ただ、わたしの屋根の下にはいったこの人たちには、何もしないでください」。九彼らは言った、「退け」。また言った、「この男は渡ってきたよそ者であるのに、いつも、さばきびとになるうとする。それで、われわれは彼らに加えるよりも、おまえに多くの害を加えよう」。彼らはロトの身に激しく迫り、進み寄って戸を破ろうとした。その時、かのふたりは手を伸べてロトを家の内に引き入れ、戸を閉じた。二そして家の入口におる人々を、老若の別なく打って目をくらましたので、彼らは入口を捜すのに疲れた。三ふたりはロトに言った、「ほかにあなたの身内の者が

ここにおりますか。あなたのむこ、むすこ、娘およびこの町におるあなたの身内の者を、皆ここから連れ出しなさい。三われわれがこの所を滅ぼそうとしているからです。人々の叫びが主の前に大きくなり、主はこの所を滅ぼすために、われわれをつかわされたのです。四そこでロトは出て行って、その娘たちをめぐりむこたちに告げて言った、「立ってこの所から出なさい。主がこの町を滅ぼされます」。しかしそれはむこたちには戯れごとにおもへた。

一夜が明けて、み使たちはロトを促して言った、「立て、ここにいるあなたの妻とふたりの娘とを連れ出しなさい。そうしなければ、あなたもこの町の不義のために滅ぼされるでしょう」。六彼はためらっていたが、主は彼にあわれみを施されたので、かのふたりは彼の手と、その妻の手と、ふたりの娘の手を取って連れ出し、町の外に置いた。七彼らを外に連れ出した時そのひとりと言った、「のがれて、自分の命を救いなさい。うしろをふりかえって見てはならない。低地にはどこにも立ち止まってはならない。山にのがれなさい。そうしなければ、あなたは滅びます」。八ロトは彼らに言った、「わが主よ、どうか、そうさせないでください。九しもべはすでにあなたの前に恵みを得ました。あなたはわたしの命を救って、大いなるいつくしみを施されました。しかしわたしは山まではのがれる事ができません。災が身に追い迫ってわたし

は死ぬでしょう。二〇あの町をござらんなさい。逃げていくのに近く、また小さい町です。どうかわたしをそこにのがれさせてください。それは小さいではありませんか。そうすればわたしの命は助かるでしょう。三み使は彼に言った、「わたしはこの事でもあなたの願いをいれて、あなたの言うその町は滅ぼしません。三急いでそこへのがれなさい。あなたがそこに着くまでは、わたしは何事もすることができません」。これによって、その町の名はゾアルと呼ばれた。二三ロトがゾアルに着いた時、日は地の上にのぼった。

二四主は硫黄と火とを主の所すなわち天からソドムとゴモラの上に降らせて、二五これらの町と、すべての低地と、その町々のすべての住民と、その地にはえている物を、ことごとく滅ぼされた。二六しかしロトの妻はうしろを顧みたので塩の柱になった。二七アブラハムは朝早く起き、さきに主の前に立った所に行つて、二八ソドムとゴモラの方、および低地の全面をながめると、その地の煙が、かまどの煙のように立ちのぼっていた。

二九こうして神が低地の町々をこぼたれた時、すなわちロトの住んでいた町々を滅ぼされた時、神はアブラハムを覚えて、その滅びの中からロトを救い出された。

三〇ロトはゾアルを出て上り、ふたりの娘と共に山に住んだ。ゾアルに住むのを恐れたからである。彼はふたりの娘と共に、ほら穴の中に住んだ。三時に姉が妹に言つ

た、「わたしたちの父は老い、またこの地には世のならわしのよう、わたしたちの所に来る男はいません。三三さあ、父に酒を飲ませ、共に寝て、父によって子を残しましう。三三彼女たちはその夜、父に酒を飲ませ、姉がいつて父と共に寝た。ロトは娘が寝たのも、起きたのも知らなかった。三四あくる日、姉は妹に言った、「わたしは昨夜父と寝ました。わたしたちは今夜もまた父に酒を飲ませましよう。そしてあなたがはいつて共に寝なさい。わたしたちは父によって子を残しましう」。三五彼らはその夜もまた父に酒を飲ませ、妹が行つて父と共に寝た。ロトは娘の寝たのも、起きたのも知らなかった。三六こうしてロトのふたりの娘たちは父によってはらんだ。三七姉娘は子を産み、その名をモアブと名づけた。これは今のモアブびとの先祖である。三妹もまた子を産んで、その名をベニアンミと名づけた。これは今のアンモンびとの先祖である。

第二〇章 アブラハムはそこからネゲブの地に移つて、カデシとシユルの間に住んだ。彼がゲラルにとどまっていた時、ニアブラハムは妻サラのことを、「これはわたしの妹です」と言つたので、ゲラルの王アビメレクは、人をつかわしてサラを召し入れた。三二ところが神は夜の夢にアビメレクに臨んで言われた、「あなたは召し入れたあの女のゆえに死なねばならない。彼女は夫のある身である」。四アビメレクはまだ彼女に近づいていな

かったので言った、「主よ、あなたは正しい民でも殺されるのですか。五 彼はわたしに、これはわたしの妹ですと言ったではありませんか。また彼女も自分で、彼はわたしの兄ですと言いました。わたしは心も清く、手もいさぎよく、このことをしました。六 神はまた夢で彼に言われた、「そうです、あなたが清い心をもってこのことをしたのを知っていたから、わたしもあなたを守って、わたしに対して罪を犯させず、彼女にふれることを許さなかったのです。七 いま彼の妻を返しなさい。彼は預言者ですから、あなたのために祈って、命を保たせるでしょう。もし返さないなら、あなたも身内の者もみな必ず死ぬと知らなければなりません」。

八 そこでアビメレクは朝早く起き、しもべたちをことごとく召し集めて、これらの事をみな語り聞かせたので、人々は非常に恐れた。九 そしてアビメレクはアブラハムを召して言った、「あなたはわれわれに何をするのですか。あなたに対してわたしがどんな罪を犯したために、あなたはわたしとわたしの国とに、大きな罪を負わせるのですか。あなたはしてはならぬことをわたしにしたのです。一〇 アビメレクはまたアブラハムに言った、「あなたはなんと思っ、この事をしたのでですか。二 アブラハムは言った、「この所には神を恐れるということが、まったくないので、わたしの妻のゆえに人々がわたしを殺すと思ったからです。三 また彼女はほんとうにわたしの妹

なのです。わたしの父の娘ですが、母の娘ではありません。四 神がわたしに父の家を離れて、行き巡らせた時、わたしは彼女に、あなたはわたしたちの行くさきさきでわたしを兄であると言ってく下さい。これはあなたがわたしに施す恵みであると言いました。五 そこでアビメレクは羊、牛および男女の奴隷を取ってアブラハムに与え、その妻サラを彼に返した。六 そしてアビメレクは言った、「わたしの地はあなたの前にあります。あなたの好きな所に住みなさい。七 またサラに言った、「わたしはあなたの兄に銀千シケルを与えました。これはあなたの身に起ったすべての事について、あなたに償いをするものです。こうしてすべての人にあなたは正しいと認められます。八 そこでアブラハムは神に祈った。神はアビメレクとその妻および、はしためたちをいやされたので、彼らは子を産むようになった。九 これは主がさきにアブラハムの妻サラのゆえに、アビメレクの家のすべての者の胎を、かく閉ざされたからである。

第二一章 一 主は、さきに言われたようにサラを顧み、告げられたようにサラに行われた。二 サラはみごもり、神がアブラハムに告げられた時になって、年老いたアブラハムに男の子を産んだ。三 アブラハムは生れた子、サラが産んだ男の子の名をイサクと名づけた。四 アブラハムは神が命じられたように八日目にその子イサク

に割れを施した。五 アブラハムはその子イサクが生れた時百歳であつた。六 そしてサラは言った、「神はわたしを笑わせてくださった。聞く者は皆わたしのことで笑うでしょう」。七 また言った、「サラが子に乳を飲ませるだろうと、だれがアブラハムに言い得たであろう。それなのに、わたしは彼が年とってから、子を産んだ」。八 さて、おさなごは育つて乳離れした。イサクが乳離れした日にアブラハムは盛んなふるまいを設けた。九 サラはエジプトの女ハガルのアブラハムに産んだ子が、自分の子イサクと遊ぶのを見て、「○アブラハムに言った、「このはしためとその子を追いつてください。このはしための子はわたしの子イサクと共に、世継となるべき者ではありません」。二 この事で、アブラハムはその子のために非常に心配した。三 神はアブラハムに言われた、「あのわらべのため、またあなたのはしためのために心配することはない。サラがあなたに言うことはすべて聞きいれなさい。イサクに生れる者が、あなたの子孫と唱えられるからです。三しかし、はしための子もあなたの子ですから、これをも、一つの国民とします」。四 そこでアブラハムは明るく朝はやく起きて、パンと水の皮袋とを取り、ハガルに与えて、肩に負わせ、その子連れて去らせた。ハガルは去つてベエルシバの荒野にさまよつた。五 やがて皮袋の水が尽きたので、彼女はその子を木の下におき、「六」わたしはこの子の死ぬのを見るに忍びな

い」と言つて、矢の届くほど離れて行き、子供の方に向いてすわつた。彼女が子供の方に向いてすわつたとき、子供は声をあげて泣いた。七 神はわらべの声を聞かれ、神の使は天からハガルを呼んで言つた、「ハガルよ、どうしたのか。恐れてはいけな。神はあそこにいるわらべの声を聞かれた。八 立つて行き、わらべを取り上げてあなたの手に抱きなさい。わたしは彼を大いなる国民とするであらう」。九 神がハガルの目を開かれたので、彼女は水の井戸のあるのを見た。彼女は行つて皮袋に水を満たし、わらべに飲ませた。一〇 神はわらべと共にいまし、わらべは成長した。彼は荒野に住んで弓を射る者となつた。三 彼はパランの荒野に住んだ。母は彼のためにエジプトの国から妻を迎えた。四 そのころアビメレクとその軍勢の長ビヨルはアブラハムに言つた、「あなたが何事をなさつても、神はあなたと共におられる。三 それゆゑ、今ここでわたしをも、わたしの子をも、孫をも欺かないと、神をさしてわたしに誓つてください。わたしがあなたに親切にしたように、あなたもわたしと、このあなたの寄留の地とに、しなければなりません」。二四 アブラハムは言つた、「わたしは誓います」。二五 アブラハムはアビメレクの家来たちが、水の井戸を奪い取つたことについてアビメレクを責めた。二六 しかしアビメレクは言つた、「だれがこの事をしたかわたしは知

りません。あなたもわたしに告げたことはなく、わたしもきょうまで聞きませんでした」。二七そこでアブラハムは羊と牛とを取ってアビメレクに与え、ふたりは契約を結んだ。二八アブラハムが雌の小羊七頭を分けて置いたところ、二九アビメレクはアブラハムに言った、「あなたがこれらの雌の小羊七頭を分けて置いたのは、なんのためですか」。三〇アブラハムは言った、「あなたはわたしの手からこれらの雌の小羊七頭を受け取って、わたしがこの井戸を掘ったことの証拠としてください」。三一これによつてその所をベエルシバと名づけた。彼らがふたりそこで誓いをしたからである。三二このように彼らはベエルシバで契約を結び、アビメレクとその軍勢の長ビコルは立つてベリシテの地に帰った。三三アブラハムはベエルシバに一本のぎよりゆうの木を植え、その所で永遠の神、主の名を呼んだ。三四こうしてアブラハムは長い間ベリシテびとの地にとどまった。

第二二章 これらの事の後、神はアブラハムを試みて彼に言われた、「アブラハムよ」。彼は言った、「ここにおります」。二神は言われた、「あなたの子、あなたの愛するひとり子イサクを連れてモリヤの地に行き、わたしが示す山で彼を燔祭としてささげなさい」。三アブラハムは朝はやく起きて、ろばにくらを置き、ふたりの若者と、その子イサクとを連れ、また燔祭のたきぎを割り、立つて神が示された所に出かけた。四三日目に、アブラ

ハムは目をあげて、はるかにその場所を見た。五そこでアブラハムは若者たちに言った、「あなたがたは、ろばと一緒にここにいなさい。わたしとわらべは向こうへ行つて礼拝し、そののち、あなたがたの所に帰ってきます」。六アブラハムは燔祭のたきぎを取って、その子イサクに負わせ、手に火と刃物とを執つて、ふたり一緒に行つた。七やがてイサクは父アブラハムに言った、「父よ」。彼は答えた、「子よ、わたしはここにいます」。イサクは言った、「火とたきぎとはありますが、燔祭の小羊はどこにありますか」。八アブラハムは言った、「子よ、神みずから燔祭の小羊を備えてくださるであらう」。こうしてふたりは一緒に行った。

九彼らが神の示された場所にきたとき、アブラハムはそこに祭壇を築き、たきぎを並べ、その子イサクを縛つて祭壇のたきぎの上に載せた。一〇そしてアブラハムが手を差し伸べ、刃物を執つてその子を殺そうとした時、二主の使が天から彼を呼んで言った、「アブラハムよ、アブラハムよ」。彼は答えた、「はい、ここにおります」。三み使が言った、「わらべを手にかけてはならない。また何も彼にしてはならない。あなたの子、あなたのひとり子をさえ、わたしのために惜しまないので、あなたが神を恐れる者であることをわたしは今知った」。四この時アブラハムが目をあげて見ると、うしろに、角をやぶに掛けている一頭の雄羊がいた。アブラハムは行つてその雄羊を

捕え、それをその子のかわりに燔祭としてささげた。
 「それでアブラハムはその所の名をアドナイ・エレと呼んだ。これにより、人々は今日もなお「主の山に備えあり」と言う。」

「主の使は再び天からアブラハムを呼んで、「大言った、主は言われた、『わたしは自分をさして誓う。あなたがこの事をし、あなたの子、あなたのひとり子をも惜しまなかつたので、わたしは大いにあなたを祝福し、大いにあなたの子孫をふやして、天の星のように、浜べの砂のようにする。あなたの子孫は敵の門を打ち取り、八また地のもろもろの国民はあなたの子孫によつて祝福を得るであろう。あなたがわたしの言葉に従ったからである』。」「九アブラハムは若者たちの所に帰り、みな立つて、共にベエルシバへ行った。そしてアブラハムはベエルシバに住んだ。」

「一〇これらの事の後、ある人がアブラハムに告げて言った、「ミルカもまたあなたの兄弟ナホルに子どもを産みました。」「三長男はウヅ、弟はブズ、次はアラムの父ケムエル、三次はケセデ、ハゾ、ビルダシ、エデラフ、ベトエルです。」「三三ベトエルの子はリベカであつて、これら八人はミルカがアブラハムの兄弟ナホルに産んだのである。」「三四ナホルのそばめで、名をルマという女もまたテベ、ガム、タハシおよびマアカを産んだ。」

第二三章 サラの一生は百二十七年であつた。

これがサラの生きながらえた年である。」「三サラはカナンの地のキリアテ・アルバすなわちヘbronで死んだ。アブラハムは中にはいつてサラのために悲しみ泣いた。」「三アブラハムは死人のそばから立つて、ヘテの人々に言った、「四わたしはあなたがたのうちの旅の者で寄留者ですが、わたしの死人を出して葬るため、あなたがたのうちにわたしの所有として一つの墓地をください。」「五ヘテの人々はアブラハムに答えて言った、「六わが主よ、お聞きなさい。あなたはわれわれのうちにいられて、神のような主君です。われわれの墓地の最も良い所にあなたの死人を葬りなさい。その墓地を拒んで、あなたにその死人を葬らせない者はわれわれのうちには、ひとりもないでしょう。」「七アブラハムは立ちあがり、その地の民ヘテの人々に礼をして、「八彼らに言った、「九もしわたしの死人を葬るのに同意されるなら、わたしの願いをいれて、わたしのためにゾハルの子エフロンに頼み、彼が持つてゐる畑の端のマクベラのほら穴をじゅうぶんな代価でわたしに与え、あなたがたのうちに墓地を持たせてください。」「一〇時にエフロンはヘテの人々のうちにすわつてゐた。そこでヘテびとエフロンはヘテの人々、すなわちすべてその町の門にはいる人々の聞いているところで、アブラハムに答えて言った、「一一いいえ、わが主よ、お聞きなさい。わたしはあの畑をあなたにさしあげます。またその中にあるほら穴もさしあげます。わたしの民の人

人の前で、それをさしあげます。あなたの死人を葬りなさい。三アブラハムはその地の民の前で礼をし、その地の民の聞いているところでエフロンに言った、「あなたがそれを承諾されるなら、お聞きなさい。わたしはその畑の代価を払います。お受け取りください。わたしの死人をそこに葬りましょう。四エフロンはアブラハムに答えて言った、「主よ、お聞きなさい。あの地は銀四百シケルですが、これはわたしとあなたの間で、なにほどのことでしょう。あなたの死人を葬りなさい。五そこでアブラハムはエフロンの言葉にしたがい、エフロンがヘテの人々の聞いているところで言った銀、すなわち商人の通用銀四百シケルを量ってエフロンに与えた。六こうしてマムレの前のマクペラにあるエフロンの畑は、畑も、その中のほら穴も、畑の中およびその周囲の境にあるすべての木も皆、ヘテの人々の前、すなわちその町の門にはいるすべての人々の前で、アブラハムの所有と決まった。七その後、アブラハムはその妻サラをカナンの地にあるマムレ、すなわちヘフロンの前のマクペラの畑のほら穴に葬った。八このように畑とその中にあるほら穴とはヘテの人々によってアブラハムの所有の墓地と定められた。

第二章 アブラハムは年が進んで老人となった。主はすべての事にアブラハムを恵まれた。二さてアブラハムは所有のすべてを管理させていた家の年長のしも

べに言った、「あなたの手をわたしのものの下に入れなさい。三わたしはあなたに天地の神、主をさして誓わせる。あなたはわたしと今一緒に住んでいるカナンびとのうちから、娘をわたしの子の妻にめとってはならない。四あなたはわたしの国へ行き、親族の所へ行つて、わたしの子イサクのために妻をめとらなければならぬ。五しもべは彼に言った、「もしその女がわたしについてこの地に来ることを好まない時は、わたしはあなたの子をあなたの出身地に連れ帰るべきでしょうか。六アブラハムは彼に言った、「わたしの子は決して向こうへ連れ帰ってはならない。七天の神、主はわたしを父の家、親族の地から導き出してわたしに語り、わたしに誓つて、おまえの子孫にこの地を与えろと言われた。主は、み使をあなたの前につかわされるであらう。あなたはあそこからわたしの子に妻をめとらねばならない。八けれどもその女があなたについて来ることを好まないなら、あなたはこの誓いを解かれる。ただわたしの子に向こうへ連れ帰ってはならない。九そこでしもべは手を主人アブラハムのものの下に入れ、この事について彼に誓った。

一〇しもべは主人のらくだのうちから十頭のらくだを取って出かけた。すなわち主人のさまざまな良い物を携えて、立つてアラム・ナハライムにむかい、ナホルの町へ行つた。一彼はらくだを町の外の、水の井戸のそばに伏させた。時は夕暮で、女たちが水をくみに出る時刻で

あった。三彼は言った、「主人アブラハムの神、主よ、どうか、きょう、わたしにしあわせを授け、主人アブラハムに恵みを施してください。三わたしは泉のそばに立っています。町の人々の娘たちが水をくみに出てきたとき、四娘に向かって『お願いです、あなたの水がめを傾けてわたしに飲ませてください』と言ひ、娘が答えて、『お飲みください。あなたのらくだにも飲ませましょう』と言ひつたなら、その者こそ、あなたがしもペイサクのために定められた者ということにしてください。わたしはこれによつて、あなたがわたしの主人に恵みを施されることを知りましょう」。

二五彼がまだ言ひ終らないうちに、アブラハムの兄弟ナホルの妻ミルカの子ベトエルの娘リベカが、水がめを肩に載せて出てきた。二六その娘は非常に美しく、男を知らぬ処女であつた。彼女が泉に降りて、水がめを満たし、上がつてきた時、二七しもべは走り寄つて、彼女に会つて言つた、「お願いです。あなたの水がめの水を少し飲ませてください」。一八すると彼女は「わが主よ、お飲みください」と言つて、急いで水がめを自分の手に取りおろして彼に飲ませた。一九飲ませ終つて、彼女は言つた、「あなたのらくだもみな飲み終るまで、わたしは水をくみましよう」。二〇彼女は急いでかめの水を水ぶねにあげ、再び水をくみに井戸に走つて行つて、すべてのらくだのために水をくんだ。二三その間その人は主が彼の旅を祝福されるか、ど

うかを知らうと、黙つて彼女を見つめていた。三二らくだが飲み終つたとき、その人は重さ半シケルの金の鼻輪一つと、重さ十シケルの金の腕輪二つを取つて、三三言つた、「あなたはだれの娘か、わたしに話してください。あなたの父の家にわたしどもの泊まる場所があります。二四彼女は彼に言つた、「わたしはナホルの妻ミルカの子ベトエルの娘です」。三五また彼に言つた、「わたしどもには、わらも、飼葉もたくさんあります。また泊まる場所もあります」。三六その人は頭を下げ、主を拝して、二七言つた、「主人アブラハムの神、主はほむべきかな。主はわたしの主人にいつくしみと、まこととを惜しまれなかつた。そして主は旅にあるわたしを主人の兄弟の家に導かれた」。

二八娘は走つて行つて、母の家のものにこれらの事を告げた。二九リベカにひとりの兄があつて、名をラバンといつた。ラバンは泉のそばにゐるその人の所へ走つて行つた。三〇彼は鼻輪と妹の手にある腕輪とを見、また妹リベカが「その人はわたしにこう言つた」というのを聞いて、その人の所へ行つてみると、その人は泉のほとりで、らくだのそばに立つてゐた。三二そこでその人に言つた、「主に祝福された人よ、おはいりください。なぜ外に立つておられますか。わたしは家を準備し、らくだのためにも場所を準備しておきました」。三三その人は家にはいった。ラバンはらくだの荷を解いて、わらと飼葉をらくだに与え、

また水を与えてその人の足と、その従者たちの足を洗わせた。^{三三}そして彼の前に食物を供えたが、彼は言った、「わたしは用向きを話すまでは食べません」。ラバンは言った、「お話しください」。

^{三四}そこで彼は言った、「わたしはアブラハムのしもべです。^{三五}主はわたしの主人を大いに祝福して、大いなる者とされました。主はまた彼に羊、牛、銀、金、男女の奴隷、らくだ、ろばを与えられました。^{三六}主人の妻サラは年老いてから、主人に男の子を産みました。主人はその所有を皆これに与えました。^{三七}ところで主人はわたしに誓わせて言いました、『わたしの住んでいる地のカナンびとの娘を、わたしの子の妻にめとってはならない。^{三八}おまえはわたしの父の家、親族の所へ行つて、わたしの子に妻をめとらなければならぬ』。^{三九}わたしは主人に言いました、『もしその女がわたしについてこない時はどういたしましょうか』。^{四〇}主人はわたしに言いました、『わたしの仕えている主は、み使をおまえと一緒につかわして、おまえの旅にさいわいを与えられるであろう。おまえはわたしの親族、わたしの父の家からわたしの子に妻をめとらなければならぬ。^{四一}そのとき、おまえはわたしにした誓いから解かれるであろう。またおまえがわたしの親族に行く時、彼らがおまえにその娘を与えないなら、おまえはわたしにした誓いから解かれるであろう』。

^{四二}わたしはきょう、泉のところにきて言いました、『主

人アブラハムの神、主よ、どうか今わたしのゆく道にさいわいを与えてください。^{四三}わたしはこの泉のそばに立っていますが、水をくみに出てくる娘に向かって、「お願いです。あなたの水がめの水を少し飲ませてください」と言い、^{四四}「お飲みください。あなたのらくだのために

も、くみましよう」とわたしに言うなら、その娘こそ、主がわたしの主人の子のために定められた女ということにしてください。^{四五}わたしが心のうちでそう言い終らないうちに、リベカが水がめを肩に載せて出てきて、水をくみに泉に降りたので、わたしは『お願いです、飲ませてください』と言いますと、^{四六}彼女は急いで水がめを肩からおろし、『お飲みください。わたしはあなたのらくだにも飲ませましよう』と言いました。それでわたしは飲みましたが、彼女らくだにも飲ませました。^{四七}わたしは彼女に尋ねて、『あなたはだれの娘ですか』と言いますと、『ナホルとその妻ミルカの子ベトエルの娘です』と答えました。そこでわたしは彼女の鼻に鼻輪をつけ、手に腕輪をつけました。^{四八}そしてわたしは頭をさげて主を拜し、主人アブラハムの神、主をほめたたえました。主は主人の兄弟の娘を子にめとらせようと、わたしを正しい道に導かれたからです。^{四九}あなたがたが、もしわたしの主人にいつくしみと、まことを尽そうと思われるなら、そうとわたしにお話しください。そうでなければ、そうでないとお話し

ください。それによってわたしは右か左に決めましよう。

五〇 ラバンとベトエルは答えて言った、「この事は主から出たことです。わたしどもはあなたによしあしを言うことができません。五二 リベカがここにおりますから連れて行って、主が言われたように、あなたの主人の子の妻にしてください。」

五三 アブラハムのしもべは彼らの言葉を聞いて、地に伏し、主を拝した。五五 そしてしもべは銀の飾りと、金の飾り、および衣服を取り出してリベカに与え、その兄と母とも価の高い品々を与えた。五七 彼と従者たちは飲み食いして宿ったが、あくる朝彼らが起きた時、しもべは言った、「わたしを主人のもとに帰らせてください。」五九 リベカの兄と母とは言った、「娘は数日、少なくとも十日、わたしどもと共にいて、それから行かせましよう。」六一 しもべは彼らに言った、「主はわたしの道にさいわいを与えられましたから、わたしを引きとめずに、主人のもとに帰らせてください。」六三 彼らは言った、「娘を呼んで聞いてみましょう。」六五 彼らはリベカを呼んで言った、「あなたはこの人と一緒にいきますか。」彼女は言った、「行きます。」六七 そこで彼らは妹リベカと、そのうばと、アブラハムのしもべと、その従者とを送り去らせた。六九 彼らはリベカを祝福して彼女に言った、

「妹よ、あなたは、ちよるずの人の母となれ。」

あなたの子孫はその敵の門を打ち取れ。」六二 リベカは立って侍女たちと共にらくだに乗り、その人に従って行った。しもべはリベカを連れて立ち去った。

六三 さてイサクはベエル・ラハイ・ロイからきて、ネゲブの地に住んでいた。六四 イサクは夕暮、野に出て歩いて、目をあげて、らくだの来るのを見た。六五 リベカは目をあげてイサクを見、らくだからおりて、六六 しもべに言った、「わたしたちに向かつて、野を歩いて来るあの人はだれでしょう。」しもべは言った、「あれはわたしの主人です。」するとリベカは、被衣で身をおおった。六七 しもべは自分がしたことすべてをイサクに話した。六八 イサクはリベカを天幕に連れて行き、リベカをめぐって妻とし、彼女を愛した。こうしてイサクは母の死後、慰めを得た。

第二十五章 アブラハムは再び妻をめぐった。名

をケトラという。七二 彼女はジムラン、ヨクシャン、メダン、ミデアン、イシバクおよびシュワを産んだ。七三 ヨクシャンの子はシバとデダン。デダンの子孫はアシユリびと、レトシびと、レウミびとである。七四 ミデアンの子孫はエパ、エベル、ヘノク、アビダ、エルダアであって、これらは皆ケトラの子孫であった。七五 アブラハムはその所有をことごとくイサクに与えた。七六 またそのそばめたちの子らにもアブラハムは物を与え、なお生きてゐる間に彼らをその子イサクから離して、東の方、東の国に移らせ

た。

七 アブラハムの生きながらえた年は百七十五年である。
八 アブラハムは高齢に達し、老人となり、年が満ちて息絶え、死んでその民に加えられた。九 その子イサクとイシマエルは彼をヘテびとゾハルの子エフロンの畑にあるマクベラのほら穴に葬った。これはマムレの向かいにあり、一〇 アブラハムがヘテの人々から、買い取った畑であつて、そこにアブラハムとその妻サラが葬られた。二 アブラハムが死んだ後、神はその子イサクを祝福された。イサクはベエル・ラハイ・ロイのほとりに住んだ。

三 サラのつかえめエジプトびとハガルがアブラハムに産んだアブラハムの子イシマエルの系図は次のとおりである。四 イシマエルの子らの名を世代にしたがつて、その名をいえば次のとおりである。すなわちイシマエルの長子はネバヨテ、次はケダル、アデビエル、ミブサム、二五 ミシマ、ドマ、マツサ、二六 ハダデ、テマ、エトル、ネフシ、ケデマ。二七 これはイシマエルの子らであり、村と宿営とによる名であつて、その氏族による十二人の君たちである。二八 イシマエルのよわいは百三十七年である。彼は息絶えて死に、その民に加えられた。二九 イシマエルの子らはハビラからエジプトの東、シウルまでの間に住んで、アシウルに及んだ。イシマエルはすべての兄弟の東に住んだ。

一〇 アブラハムの子イサクの系図は次のとおりである。

アブラハムの子はイサクであつて、三〇 イサクは四十歳の時、バダンアラムのアラムびとベトエルの娘で、アラムびとラバンの妹リベカを妻にめとつた。三一 イサクは妻が子を産まなかつたので、妻のために主に祈り願つた。主はその願いを聞かれ、妻リベカはみごもつた。三二 ところがその子らが胎内で押し合つたので、リベカは言つた、「こんなことでは、わたしはどうなるでしょう」。彼女は行つて主に尋ねた。三三 主は彼女に言われた、

「二つの国民があなたの胎内にあり、二つの民があなたの腹から別れて出る。

一つの民は他の民よりも強く、兄は弟に仕えるであろう」。

三四 彼女の出産の日がきたとき、胎内にはふたごがあつた。三五 さきに出たのは赤くて全身毛ごろもものようであつた。それで名をエサウと名づけた。三六 その後、弟が出た。その手はエサウのかかとをつかんでゐた。それで名をヤコブと名づけた。リベカが彼らを産んだ時、イサクは六十歳であつた。

三七 さてその子らは成長し、エサウは巧みな狩獵者となり、野の人となつたが、ヤコブは穏やかな人で、天幕に住んでゐた。三八 イサクは、しかの肉が好きだったので、エサウを愛したが、リベカはヤコブを愛した。

三九 ある日ヤコブが、あつものを煮てゐた時、エサウは飢え疲れて野から帰つてきた。四〇 エサウはヤコブに言つ

た、「わたしは飢え疲れた。お願いだ。赤いもの、その赤いものをわたしに食べさせてくれ」。彼が名をエドムと呼び、あなたの長子の特権をわたしに売りなさい。三 エサウは言った、「わたしは死にそうだ。長子の特権などわたしに何になろう」。三 ヤコブはまた言った、「まずわたしに誓いなさい」。彼は誓って長子の特権をヤコブに売った。三 ところでヤコブはパンとレンズ豆のあつものとをエサウに与えたので、彼は飲み食いして、立ち去った。このようにしてエサウは長子の特権を軽んじた。

第二十六章 アブラハムの時にあつた初めのききのほか、またききさんがその国にあつたので、イサクはゲラルにゐるベリシテびとの王アビメレクの所へ行つた。二 その時、主は彼に現れて言われた、「エジプトへ下つてはならない。わたしがあなたに示す地にとどまりなさい。三 あなたがこの地にとどまるなら、わたしはあなたと共にいて、あなたを祝福し、これらの国をことごとくあなたと、あなたの子孫とに与え、わたしがあなたの父アブラハムに誓つた誓いを果そう。四 またわたしはあなたの子孫を増して天の星のようにし、あなたの子孫にこれらの地をみな与えよう。そして地のすべての国民はあなたの子孫によって祝福をえるであらう。五 アブラハムがわたしの言葉にしたがつてわたしのさとしと、いましめと、さだめと、おきてとを守つたからである」。

六 こうしてイサクはゲラルに住んだ。七 その所の人々が彼の妻のことを尋ねたとき、「彼女はわたしの妹です」と彼は言った。リベカは美しかったので、その所の人々がリベカのゆえに自分を殺すかもしれないと思つて、「わたしの妻です」と言うのを恐れたからである。八 イサクは長らくそこにいたが、ある日ベリシテびとの王アビメレクは窓から外をながめていて、イサクがその妻リベカと戯れているのを見た。九 そこでアビメレクはイサクを召して言った、「彼女は確かにあなたの妻です。あなたは、どうして『彼女はわたしの妹です』と言われたのですか」。イサクは彼に言った、「わたしは彼女のゆえに殺されるかもしれないと思つたからです」。一〇 アビメレクは言った、「あなたは、どうしてこんな事をわれわれにされたのですか。民のひとりが軽々しくあなたの妻と寝るような事があれば、その時あなたはわれわれに罪を負わせるでしょう」。二 それでアビメレクはすべての民に命じて言った、「この人、またはその妻にさわる者は必ず死ななければならぬ」。

三 イサクはその地に種をまいて、その年に百倍の収穫を得た。このように主が彼を祝福されたので、四 彼は富み、またますます栄えて非常に裕福になり、五 羊の群れ、牛の群れ及び多くのしもべを持つようになったので、ベリシテびとは彼をねたんだ。六 またベリシテびとは彼の父アブラハムの時に、父のしもべたちが掘つたすべての

井戸をふさぎ、土で埋めた。二六アビメレクはイサクに言った、「あなたはわれわれよりも、はるかに強くなられたから、われわれの所を去ってください」。

二七イサクはそこを去り、ゲラルの谷に天幕を張ってその所に住んだ。二八そしてイサクは父アブラハムの時に人の掘った水の井戸を再び掘った。アブラハムの死後、ペリシテびとがふさいだからである。イサクは父がつけた名にしたがってそれらに名をつけた。二九しかしイサクのしもべたちが谷の中を掘って、そこにわき出る水の井戸を見つけたとき、三〇ゲラルの羊飼たちは、「この水はわれわれのものだ」と言つて、イサクの羊飼たちと争つたので、イサクはその井戸の名をエセクと名づけた。彼らが彼と争つたからである。三一彼らはまた一つの井戸を掘ったが、これをも争つたので、名をシテナと名づけた。三二イサクはそこから移つてまた一つの井戸を掘ったが、彼らはこれを争わなかつたので、その名をレホボテと名づけて言つた、「いま主がわれわれの場所を広げられたから、われわれはこの地にふえるであらう」。

三三彼はそこからベエルシバに上つた。三四その夜、主は彼に現れて言われた、「わたしはあなたの父アブラハムの神である。あなたは恐れてはならない。わたしはあなたと共にあって、あなたを祝福し、わたしのしもべアブラハムのゆえにあなたの子孫を増すであらう」。三五それで彼はその所に祭壇を築いて、主の名を呼び、そこに天幕

を張つた。またイサクのしもべたちはそこに一つの井戸を掘った。

三六時にアビメレクがその友アホザテと、軍勢の長ピコルと共にゲラルからイサクのもとにきたので、三七イサクは彼らに言つた、「あなたがたはわたしを憎んで、あなたがたの中からわたしを追ひ出されたのに、どうしてわたしの所にいられたのですか」。三八彼らは言つた、「われわれは主があなたと共におられるのを、はっきり見ましたので、いまわれわれの間、すなわちわれわれとあなたとの間に一つの誓いを立てて、あなたと契約を結ぼうと思ひます。三九われわれはあなたに害を加えたことはなく、ただ良い事だけをして、安らかに去らせたのですから、あなたはわれわれに悪い事をしてはなりません。まことにあなたは主に祝福されたかたです」。四〇そこでイサクは彼らのためにふるまいを設けた。彼らは飲み食いし、三〇ある朝、はやく起きて互に誓つた。こうしてイサクは彼らを去らせたので、彼らはイサクのもとから穏やかに去つた。四二その日、イサクのしもべたちがきて、自分たちが掘った井戸について彼に告げて言つた、「わたしたちは水を見つけました」。四三イサクはそれをシバと名づけた。これによつてその町の名は今日にいたるまでベエルシバといわれている。

四四エサウは四十歳の時、ヘテびとベエリの娘ユデテとヘテびとエロンの娘バスマテとを妻にめとつた。四五彼女

たちはイサクとリベカにとって心の痛みとなった。

第二十七章 イサクは年老い、目がかすんで見えなくなった時、長子エサウを呼んで言った、「子よ。彼は答えて言った、「ここにおります」。ニイサクは言った、「わたしは年老いて、いつ死ぬかも知れない。それであなたの武器、弓矢をもって野に出かけ、わたしのために、しかの肉をとってきて、わたしの好きなおいしい食べ物を作り、持ってきて食べさせよ。わたしは死ぬ前にあなたを祝福しよう」。

五イサクがその子エサウに語るのをリベカは聞いていた。やがてエサウが、しかの肉を獲ようと野に出かけたとき、リベカはその子ヤコブに言った、「わたしは聞いていました、父は兄エサウに、『わたしのために、しかの肉をとってきて、おいしい食べ物を作り、わたしに食べさせよ。わたしは死ぬ前に、主の前であなたを祝福しよう』と言いました。それで、子よ、わたしの言葉にしたがい、わたしの言うとおりにしなさい。群れの所へ行つて、そこからやぎの子の良いのを二頭わたしの所に取ってきなさい。わたしはそれで父のために、父の好きなおいしい食べ物を作りましょう。あなたはそのを持って行って父に食べさせなさい。父は死ぬ前にあなたを祝福するでしょう」。ニヤコブは母リベカに言った、「兄エサウは毛深い人ですが、わたしはなめらかです。三おそらく父はわたしにさわってみるでしょう。そうす

ればわたしは父を欺く者と思われ、祝福を受けず、かえってのろいを受けるでしょう」。三母は彼に言った、「子よ、あなたがうけるのろいはわたしを受けます。ただ、わたしの言葉に従い、行つて取ってきなさい」。四そこで彼は行つてやぎの子を取り、母の所に持ってきたので、母は父の好きなおいしい食べ物を作った。五リベカは家にあつた長子エサウの嗜着を取つて、弟ヤコブに着せ、六また子やぎの皮を手と首のなめらかな所につけさせ、七彼女が作ったおいしい食べ物とパンとをその子ヤコブの手にわたした。

八そこでヤコブは父の所へ行つて言った、「父よ。すると父は言った、「わたしはここにいる。子よ、あなたはだれか」。九ヤコブは父に言った、「長子エサウです。あなたがわたしに言われたとおりにいたしました。どうぞ起きて、すわつてわたしのしかの肉を食べ、あなたみずからわたしを祝福してください」。一〇イサクはその子に言った、「子よ、どうしてあなたはこんなに早く手に入れたのか」。彼は言った、「あなたの神、主がわたしにしあわせを授けられたからです」。ニイサクはヤコブに言った、「子よ、近寄りなさい。わたしは、さわってみて、あなたが確かにわが子エサウであるかどうかをみよう」。三ヤコブが、父イサクに近寄つたので、イサクは彼にさわつてみて言った、「声はヤコブの声だが、手はエサウの手だ」。四ヤコブの手が兄エサウの手のように毛深かつたため、

イサクはヤコブを見わけることができなかった。彼を祝福した。二四 イサクは言った、「あなたは確かにわが子エサウですか」。彼は言った、「そうです」。二五 イサクは言った、「わたしの所へ持ってきたなさい。わが子のしかの肉を食べて、わたしのみずから、あなたを祝福しよう」。ヤコブがそれを彼の所に持ってきたので、彼は食べた。またぶどう酒を持ってきたので、彼は飲んだ。二六 そして父イサクは彼に言った、「子よ、さあ、近寄ってわたしに口づけしなさい」。二七 彼が近寄って口づけした時、イサクはその着物のかおりをかぎ、彼を祝福して言った、

「ああ、わが子のかおりは、

主が祝福された野のかおりのようだ。

二八 どうか神が、天の露と、

地の肥えたところと、多くの穀物と、

新しいぶどう酒とをあなたに賜わるように。

二九 もろもろの民はあなたに仕え、

もろもろの国はあなたに身をかがめる。

あなたに兄弟たちの主となり、

あなたの母の子らは、

あなたに身をかがめるであろう。

あなたをのろう者はのろわれ、

あなたを祝福する者は祝福される」。

三〇 イサクがヤコブを祝福し終って、ヤコブが父イサクの前から出て行くとすぐ、兄エサウが狩から帰ってきた。

三一 彼もまたおいしい食べ物を作って、父の所に持ってきて、言った、「父よ、起きてあなたの子のしかの肉を食べ、あなたのみずから、わたしを祝福してください」。三二 父イサクは彼に言った、「あなたは、だれか」。彼は言った、「わたしはあなたの子、長子エサウです」。三三 イサクは激しくふるえて言った、「それでは、あのしかの肉を取って、わたしに持ってきた者はだれか。わたしはあなたが来る前に、みんな食べて彼を祝福した。ゆえに彼が祝福を得るであろう」。三四 エサウは父の言葉を聞いた時、大声をあげ、激しく叫んで、父に言った、「父よ、わたしを、わたしをも祝福してください」。三五 イサクは言った、「あなたの弟が偽ってやってきて、あなたの祝福を奪ってしまった」。三六 エサウは言った、「よくもヤコブと名づけたものだ。彼は二度までもわたしをおしのけた。さきには、わたしの長子の特権を奪い、こんどはわたしの祝福を奪った」。また言った、「あなたはわたしのために祝福を残しておかれませんでしたか」。三七 イサクは答えてエサウに言った、「わたしは彼をあなたの主人とし、兄弟たちを皆しもべとして彼に与え、また穀物とぶどう酒を彼に授けた。わが子よ、今となっては、あなたのために何ができようか」。三八 エサウは父に言った、「父よ、あなたの祝福はただ一つだけですか。父よ、わたしを、わたしをも祝福してください」。エサウは声をあげて泣いた。三九 父イサクは答えて彼に言った、

「あなたのすみかは地の肥えた所から離れ、また上なる天の露から離れるであろう。」

四〇 あなたはつるぎをもつて世を渡り、

あなたの弟に仕えるであろう。

しかし、あなたが勇み立つ時、

首から、そのくびきを振り落すであろう。」

四一 こうしてエサウは父がヤコブに与えた祝福のゆえにヤコブを憎んだ。エサウは心の内で言った、「父の喪の日

も遠くはないであろう。その時、弟ヤコブを殺そう。」

四二 しかしリベカは長子エサウのこの言葉を人づてに聞いたので、人をやり、弟ヤコブを呼んで言った、「兄エサウ

はあなたを殺そうと考えて、みずから慰めています。

四三 子よ、今わたしの言葉に従って、すぐハラシに在るわ

たしの兄ラバンのもとにのがれ、あなたの兄の怒りが

解けるまで、しばらく彼の所にいなさい。兄の憤りが

解けて、あなたのした事を兄が忘れるようになったなら

ば、わたしは人をやって、あなたをそこから迎えましょ

う。どうして、わたしは一日のうちにあなたがたふたり

を失つてよいでしょうか。」

四四 リベカはイサクに言った、「わたしはヘテびとの娘ど

ものことで、生きているのがいやになりました。もしヤ

コブがこの地の、あの娘どものようなヘテびとの娘を妻

にめとるなら、わたしは生きていて、何になりましょう。」

第二十八章 イサクはヤコブを呼んで、これを祝

福し、命じて言った、「あなたはカナンの娘を妻にめとつ

てはならない。二 立つてパダンアラムへ行き、あなたの

母の父ベトエルの家に行つて、そこであなたの母の兄ラ

バンの娘を妻にめとりなさい。三 全能の神が、あなたを

祝福し、多くの子を得させ、かつふえさせて、多くの国

民とし、四 またアブラハムの祝福をあなたと子孫とに与

えて、神がアブラハムに授けられたあなたの寄留の地を

継がせてくださるように。」五 こうしてイサクはヤコブを

送り出した。ヤコブはパダンアラムに向かい、アラムび

とベトエルの子で、ヤコブとエサウとの母リベカの兄ラ

バンのもとへ行つた。

六 さてエサウは、イサクがヤコブを祝福して、パダンア

ラムにつかわし、そこから妻をめとらせようとしたこと、

彼を祝福し、命じて「あなたはカナンの娘を妻にめとつ

てはならない」と言つたこと、七 そしてヤコブが父母の

言葉に従つて、パダンアラムへ行つたことを知つたとき、

八 彼はカナンの娘が父イサクの心になわないのを見た。

九 そこでエサウはイシマエルの所に行き、すでにある妻た

ちのほかにはアブラハムの子イシマエルの娘で、ネバヨテ

の妹マハラテを妻にめとつた。

一〇 さてヤコブはベエルシバを立つて、ハラシへ向かつ

たが、二 一つの所に着いた時、日が暮れたので、そこに

一夜を過ごし、その所の石を取つてまくらとし、そこに

伏して寝た。三 時に彼は夢をみた。一つのはしが地の

上に立って、その頂は天に達し、神の使たちがそれを上り下りしているのを見た。二三そして主は彼のそばに立って言われた、「わたしはあなたの父アブラハムの神、イサクの神、主である。あなたが伏している地を、あなたと子孫とに与えよう。四あなたの子孫は地のちりのよりに多くなって、西、東、北、南にひろがり、地の諸族はあなたと子孫とによって祝福をうけるであろう。五わたしはあなたと共にいて、あなたがどこへ行くにもあなたを守り、あなたがこの地に連れ帰るであろう。わたしは決してあなたを捨てず、あなたが語った事を行うであろう。六ヤコブは眠りからさめて言った、「まことに主がこの所におられるのに、わたしは知らなかった」。七そして彼は恐れて言った、「これはなんと恐るべき所だろう。これは神の家である。これは天の門だ。」八ヤコブは朝はやく起きて、まくらとしていた石を取り、それを立てて柱とし、その頂に油を注いで、九その所の名をベテルと名づけた。その町の名は初めはルズとあった。一〇ヤコブは誓いを立てて言った、「神がわたしと共にいまし、わたしの行くこの道でわたしを守り、食べるパンと着る着物を賜い、一安らかに父の家に帰らせてくださるなら、主をわたしの神といたしましょう。三またわたしが柱に立てたこの石を神の家といたしましょう。四そしてあなたがくださるすべての物の十分の一を、わたしは必ずあなたにささげます」。

第二十九章

ヤコブはその旅を続けて東の民の地へ行った。二見ると野に一つの井戸があつて、そのかわりに羊の三つの群れが伏していた。人々はその井戸から群れに水を飲ませるのであつたが、井戸の口には大きな石があつた。三群れが皆そこに集まると、人々は井戸の口から石をころがして羊に水を飲ませ、その石をまた井戸の口の元のところに返しておくのである。

四ヤコブは人々に言った、「兄弟たちよ、あなたがたはどこからこられたのですか」。彼らは言った、「わたしたちはハランからです」。五ヤコブは彼らに言った、「あなたがたはナホルの子ラバンを知っていますか」。彼らは言った、「知っています」。六ヤコブはまた彼らに言った、「彼は無事ですか」。彼らは言った、「無事です。御覧なさい。彼の娘ラケルはいま羊と一緒にここへきます」。七ヤコブは言った、「日はまだ高いし、家畜を集める時でもない。あなたがたは羊に水を飲ませてから、また行って飼いなさい」。八彼らは言った、「わたしたちはそれはできないのです。群れがみな集まった上で、井戸の口から石をころがし、それから羊に水を飲ませるのです」。

九ヤコブがなお彼らと語っている時に、ラケルは父の羊と一緒にきた。彼女は羊を飼っていたからである。一〇ヤコブは母の兄ラバンの娘ラケルと母の兄ラバンの羊とを見た。そしてヤコブは進み寄って井戸の口から石をころがし、母の兄ラバンの羊に水を飲ませた。二ヤコブ

はラケルに口づけし、声をあげて泣いた。二ヤコブはラケルに、自分がラケルの父のおいでであり、リベカの子であることを告げたので、彼女は走って行って父に話した。

三ラバンは妹の子ヤコブがきたという知らせを聞くと、すぐ走って行ってヤコブを迎え、これを抱いて口づけし、家に連れてきた。そこでヤコブはすべての事をラバンに話した。四ラバンは彼に言った、「あなたはほんとうにわたしの骨肉です」。ヤコブは一か月の間彼と共にいた。

五時にラバンはヤコブに言った、「あなたはわたしのおいだからといって、ただでわたしのために働くこともないでしょう。どんな報酬を望みますか、わたしに言ってください」。六さてラバンにはふたりの娘があった。姉の名はレアといい、妹の名はラケルといった。七レアは目が弱かったが、ラケルは美しくて愛らしかった。八ヤコブはラケルを愛したので、「わたしは、あなたの妹娘ラケルのために七年あなたに仕えましょう」と言った。九ラバンは言った、「彼女を他人にやるよりもあなたにやる方がよい。わたしと一緒にいなさい」。二〇こうして、ヤコブは七年の間ラケルのために働いたが、彼女を愛したので、ただ数日のように思われた。

三ヤコブはラバンに言った、「期日が満ちたから、わたしの妻を与えて、妻の所にはいらせてください」。三そこでラバンはその所の人々をみな集めて、ふるまいを設けた。三夕暮となったとき、娘レアをヤコブのもとに連

れてきたので、ヤコブは彼女の所にはいった。四ラバンはまた自分のつかえめジルバを娘レアにつかえめとして与えた。五朝になって、見ると、それはレアであったので、ヤコブはラバンに言った、「あなたはどうしてこんな事をわたしにされたのですか。わたしはラケルのために働いたのではありませんか。どうしてあなたはわたしを欺いたのですか」。六ラバンは言った、「妹を姉より先にとつがせる事はわれわれの国ではしません。七まずこの娘のために一週間を過ぎなさい。そうすればあの娘もあなたにあげよう。あなたは、そのため更に七年わたしに仕えなければならぬ」。八ヤコブはそのとおりにして、その一週間が終ったので、ラバンは娘ラケルをも妻として彼に与えた。九ラバンはまた自分のつかえめビルハを娘ラケルにつかえめとして与えた。一〇ヤコブはまたラケルの所にはいった。彼はレアよりもラケルを愛して、更に七年ラバンに仕えた。

三主はレアがきらわれるのを見て、その胎を開かれたが、ラケルは、みごもらなかった。三レアは、みごもつて子を産み、名をルベンと名づけて、言った、「主がわたしの悩みを顧みられたから、今は夫もわたしを愛するだろう」。三彼女はまた、みごもつて子を産み、「主はわたしを嫌われるのを聞きになって、わたしにこの子をも賜わった」と言って、名をシメオンと名づけた。三彼女はまた、みごもつて子を産み、「わたしは彼に三人の子を

産んだから、こんどこそは夫もわたしに親しむだろう」と言つて、名をレビと名づけた。三五彼女はまた、みごもつて子を産み、「わたしは今、主をほめたたえる」と言つて名をユダと名づけた。そこで彼女の、子を産むことはやんだ。

第三〇章

一 ラケルは自分がヤコブに子を産まな

いのを知つた時、姉をねたんでヤコブに言つた、「わたしに子どもをください。さもないと、わたしは死にます」。ニヤコブはラケルに向かい怒つて言つた、「あなたの胎に子どもをやどらせないのは神です。わたしが神に代ることはできませんか」。三 ラケルは言つた、「わたしのつかえめビルハがいます。彼女の所におはいらなさい。彼女が子を産んで、わたしのひざに置きます。そうすれば、わたしもまた彼女によつて子を持つでしょう。四 ラケルはつかえめビルハを彼に与えて、妻とさせたので、ヤコブは彼女の所にはいった。五 ビルハは、みごもつてヤコブに子を産んだ。六 そこでラケルは、「神はわたしの訴えに答えて、またわたしの声を聞いて、わたしに子を賜わつた」と言つて、名をダンと名づけた。七 ラケルのつかえめビルハはまた、みごもつて第二の子をヤコブに産んだ。八 そこでラケルは、「わたしは激しい争いで、姉と争つて勝つた」と言つて、名をナフタリと名づけた。

九 さてレアは自分が子を産むことのやんだのを見たとき、つかえめジルバを取り、妻としてヤコブに与えた。

一〇 レアのつかえめジルバはヤコブに子を産んだ。二 そこでレアは、「幸運がきた」と言つて、名をガドと名づけた。三 レアのつかえめジルバは第二の子をヤコブに産んだ。四 そこでレアは、「わたしは、しあわせです。娘たちはわたしをしあわせな者と言うでしょう」と言つて、名をアセルと名づけた。

五 さてルベンとシムエオンは麦刈りの日に野に出て、野で恋なすびを見つけ、それを母レアのもとに持ってきた。ラケルはレアに言つた、「あなたの子の恋なすびをどうぞわたしにください」。六 レアはラケルに言つた、「あなたがわたしの夫を取つたのは小さな事でしようか。その上、あなたはまたわたしの子の恋なすびをも取ろうとするのですか」。七 ラケルは言つた、「それではあなたの子の恋なすびに換えて、今夜彼をあなたと共に寝させましょう」。八 夕方になつて、ヤコブが野から帰ってきたので、レアは彼を出迎えて言つた、「わたしの子の恋なすびをもつて、わたしがあなただを雇つたのですから、あなたはわたしの所に、はいらなければなりません」。九 ヤコブはその夜レアと共に寝た。一〇 神はレアの願いを聞かれたので、彼女はみごもつて五番目の子をヤコブに産んだ。一一 そこでレアは、「わたしがつかえめを夫に与えたから、神がわたしにその価を賜わつたのです」と言つて、名をイツサカルと名づけた。一二 レアはまた、みごもつて六番目の子をヤコブに産んだ。一三 そこでレアは、「神はわたしに良い賜物を

たまわった。わたしは六人の子を夫に産んだから、今こそ彼はわたしと一緒に住むでしょう」と言つて、その名をゼブルンと名づけた。三その後、彼女はひとりの娘を産んで、名をデナと名づけた。三次に神はラケルを心にとめられ、彼女の願いを聞き、その胎を開かれたので、三彼女は、みごもつて男の子を産み、「神はわたしの恥をすすいでくださった」と言つて、二名をヨセフと名づけ、「主がわたしに、なおひとりの子を加えられるように」と言つた。

三三ラケルがヨセフを産んだ時、ヤコブはラバンに言つた、「わたしを去らせて、わたしの故郷、わたしの国へ行かせてください。二六あなたに仕えて得たわたしの妻を、わたしに与えて行かせてください。わたしがあなたのために働いた骨折りは、あなたがごぞんじです」。二モラバンは彼に言つた、「もし、あなたの心になうなら、とどまってください。わたしは主があなたのゆえに、わたしを恵まれるしを見ました」。二八また言つた、「あなたの報酬を申し出てください。わたしはそれを払います」。二九ヤコブは彼に言つた、「わたしがどのようにあなたに仕えたか、またどのようにあなたの家畜を飼ったかは、あなたがごぞんじです。三〇わたしが来る前には、あなたの持つておられたものはわずかでしたが、ふえて多くなりました。主はわたしの行く所どこでも、あなたを恵まれました。しかし、いつになつたらわたしも自分の

家を成すようになるでしょうか」。三二彼は言つた、「何をあなたにあげようか」。ヤコブは言つた、「なにもわたしにくださるに及びません。もしあなたが、わたしのためにこの一つの事をしてくださるなら、わたしは今一度あなたの群れを飼ひ、守りましょう。三三わたしはきょう、あなたの群れをみな回つてみて、その中からすべてぶちとまだらの羊、およびすべて黒い小羊と、やぎの中のだらのものと、ぶちのものを移しますが、これをわたしの報酬としましょう。三四あとで、あなたがきて、あなたの前でわたしの報酬をしらべる時、わたしの正しい事が証明されるでしょう。もしも、やぎの中にぶちのないもの、まだらでないものがあつたり、小羊の中に黒くないものがあれば、それはみなわたしが盗んだものとなるでしょう」。三五ラバンは言つた、「よろしい。あなたの言われるとおりにしましょう」。三六そこでラバンはその日、雄やぎのしまのあるもの、まだらのもの、すべて雌やぎのぶちのもの、まだらのもの、すべて白みをおびているもの、またすべて小羊の中の黒いものを移して子らの手にわたし、三六ヤコブとの間に三日路の隔たりを設けた。

三七ヤコブは、はこやなぎと、あめんどうと、すずかけの木の名まの枝を取り、皮をはいでそれに白い筋をつくり、枝の白い所を表わし、三八皮をはいた枝を、群れがきて水を飲む鉢、すなわち水ぶねの中に、群れに向かわせ

て置いた。群れは水を飲みにきた時に、はらんだ。三九すなわち群れは枝の前で、はらんで、しまのあるもの、ぶちのもの、まだらのものを産んだ。四〇ヤコブはその小羊を別においた。彼はまた群れの顔をラバンの群れのしまのあるものと、すべて黒いものに向かわせた。そして自分の群れを別にまとめておいて、ラバンの群れには、入れなかった。四二また群れの強いものが発情した時には、ヤコブは水ぶねの中に、その群れの目の前に、かの枝を置いて、枝の間で、はらませた。四三けれども群れの弱いものの時には、それを置かなかった。こうして弱いものはラバンのものとなり、強いものはヤコブのものとなったので、四四この人は大いに富み、多くの群れと、男女の奴隷、およびらくだ、ろばを持つようになった。

第三一章 さてヤコブはラバンの子らが、「ヤコブはわれわれの父の物をことごとく奪い、父の物によってあのすべての富を獲たのだ」と言っているのを聞いた。三またヤコブがラバンの顔を見るのに、それは自分に対して以前のようではなかった。三主はヤコブに言われた、「あなたの先祖の国へ帰り、親族のもとに行きなさい。わたしはあなたと共にいるであろう。四そこでヤコブは人をやつて、ラケルとレアとを、野に自分の群れのところ招き、五彼女らに言った、「わたしがあなたがたの父の顔を見るのに、わたしに対して以前のようではない。しかし、わたしの父の神はわたしと共におられる。六あ

なたがたが知っているように、わたしは力のかぎり、あなたがたの父に仕えてきた。七しかし、あなたがたの父はわたしを欺いて、十度もわたしの報酬を変えた。けれども神は彼がわたしに害を加えることをお許しにならなかった。八もし彼が、『ぶちのものはあなたの報酬だ』と言え、群れは皆ぶちのものを産んだ。もし彼が、『しまのあるものはあなたの報酬だ』と言え、群れは皆しまのあるものを産んだ。九こうして神はあなたがたの父の家畜をとつてわたしに与えられた。一〇また群れが発情した時、わたしが夢に目をあげて見ると、群れの上に乗っている雄やぎは皆しまのあるもの、ぶちのもの、霜ふりのものであった。二その時、神の使が夢の中でわたしに言った、『ヤコブよ』。わたしは答えた、『ここにおります』。三神の使は言った、『目を上げて見てごらん。群れの上に乗っている雄やぎは皆しまのあるもの、ぶちのもの、霜ふりのものです。わたしはラバンがあなたにしたことをみな見ています。四わたしはベテルの神です。かつてあなたはあそこで柱に油を注いで、わたしに誓いを立てましたが、いま立ってこの地を出て、あなたの生れた国へ帰りなさい』。五ラケルとレアは答えて言った、『わたしたちの父の家に、なおわたしたちの受くべき分、また嗣業がありましようか。六わたしたちは父に他人のように思われているではありませんか。彼はわたしたちを売ったばかりでなく、わたしたちのその金をさえ使ひ

果したのです。一六神がわたしたちの父から取りあげられた富は、みなわたしたちとわたしたちの子どものものです。だから何事でも神があなたにお告げになった事をしてください」。

一七そこでヤコブは立つて、子らと妻たちをらくだに乗せ、一八またすべての家畜、すなわち彼がパダンアラムで獲た家畜と、すべての財産を携えて、カナンの地における父イサクのもとへ赴いた。一九その時ラバンは羊の毛を切るために出ていたので、ラケルは父の所有のテラピムを盗み出した。二〇またヤコブはアラムびとラバンを欺き、自分の逃げ去るのを彼に告げなかった。二一こうして彼はすべての持ち物を携えて逃げ、立って川を渡り、ギレアデの山地へ向かった。

二三三日目になって、ヤコブの逃げ去ったことが、ラバンに聞えたので、二四彼は一族を率いて、七日の間そのあとを追ひ、ギレアデの山地で追いついた。二五しかし、神は夜の夢にアラムびとラバンに現れて言われた、「あなたは心してヤコブに、よしあしを言っではなりません」。

二六ラバンはついにヤコブに追いついたが、ヤコブが山に天幕を張っていたので、ラバンも一族と共にギレアデの山に天幕を張った。二七ラバンはヤコブに言った、「あなたはなんという事をしたのですか。あなたはわたしを欺いてわたしの娘たちをいくさのとりこのように引いて行きました。二七なぜあなたはわたしに告げずに、ひそかに

逃げ去ってわたしを欺いたのですか。わたしは手鼓や琴で喜び歌ってあなたを送りだそうとしていたのに。二八なぜわたしの孫や娘にわたしが口づけするのを許さなかったのですか。あなたは愚かな事をしました。二九わたしはあなたがたに害を加える力をもっているが、あなたがたの父の神が昨夜わたしに告げて、『おまえは心して、ヤコブによしあしを言うな』と言われました。三〇今あなたが逃げ出したのは父の家が非常に恋しくなったからでしょうが、なぜあなたはわたしの神を盗んだのですか。三二ヤコブはラバンに答えた、「たぶんあなたが娘たちをわたしから奪い取るだろうと思ってわたしは恐れたからです。三三だれの所にでもあなたの神が見つかったら、その者を生かしてはおきません。何かあなたの物がわたしのところにあるか、われわれの一族の前で、調べてみて、それをお取りください」。ラケルが神を盗んだことをヤコブは知らなかったからである。

三三そこでラバンはヤコブの天幕にはいり、またレアの天幕にはいり、更にふたりのはしための天幕にはいつてみたが、見つからなかった。三四しかし、レアの天幕を出てラケルを取って、らくだのくらの下に入れ、その上にすわっていたので、ラバンは、くまなく天幕の中を捜したが、見つからなかった。三五その時ラケルは父に言った、「わたしは女の常のことがあって、あなたの前に立ち上がる

ことができません。わが主よ、どうかお怒りにならぬよう。彼は捜したけれど、テラビムは見つからなかった。

三六 そこでヤコブは怒ってラバンを責めた。そしてヤコブはラバンに言った、「わたしにどんなあやまちがあり、どんな罪があつて、あなたはわたしのあとを激しく追つたのですか。三七 あなたはわたしの物をことごとく探られたが、何かあなたの家の物が見つかりましたか。それを、ここに、わたしの一族と、あなたの一族の前に置いて、われわれふたりの間をさばかせましょう。三八 わたしはこの二十年、あなたと一緒にいました。その間あなたの雌羊も雌やぎも子を産みそこねたことはなく、またわたしはあなたの群れの雄羊を食べたこともありませんでした。三九 また野獣が、かみ裂いたものは、あなたのものと持っていないで、自分でそれを償いました。また昼盗まれたものも、夜盗まれたものも、あなたはわたしにその償いを求められました。四〇 わたしのことを言えば、昼は暑さに、夜は寒さに悩まされて、眠ることもできませんでした。四一 わたしはこの二十年あなたの家族のひとりでありました。わたしはあなたのふたりの娘のために十四年、またあなたの群れのために六年、あなたに仕えました。だが、あなたは十度もわたしの報酬を変えられました。四二 もし、わたしの父の神、アブラハムの神、イサクのかしこむ者がわたしと共におられなかったなら、あなたはきつとわたしを、から手で去らせたでしょう。神はわた

しの悩みと、わたしの労苦とを顧みられて昨夜あなたを戒められたのです」。

四三 ラバンは答えてヤコブに言った、「娘たちはわたしの娘、子どもたちはわたしの孫です。また群れはわたしの群れ、あなたの見るものはみなわたしのものです。これらのわたしの娘たちのため、また彼らが産んだ子どもたちのため、きょうわたしは何をすることができましょうか。四四 さあ、それではわたしとあなたと契約を結んで、これをわたしとあなたとの間の証拠としましょう。四五 そこでヤコブは石を取り、それを立てて柱とした。四六 ヤコブはまた一族の者に言った、「石を集めてください」。彼らは石を取って、一つの石塚を造った。こうして彼らはその石塚のかたわらで食事をした。四七 ラバンはこれをエガル・サハドタと名づけ、ヤコブはこれをガルエドと名づけた。四八 そしてラバンは言った、「この石塚はきょうわたしとあなたとの間の証拠となります」。それでその名はガルエドと呼ばれた。四九 またミズバとも呼ばれた。彼がこう言ったからである、「われわれが互に別れたのちも、どうか主がわたしとあなたとの間を見守られるように。五〇 もしあなたがわたしの娘を虐待したり、わたしの娘のほかに妻をめとることがあれば、たといそこにたれひとりいなくても、神はわたしとあなたとの間の証人です。五二 更にラバンはヤコブに言った、「あなたとわたしとの

間にわたしが建てたこの石塚を、ごらんなさい、この柱を
ごらんなさい。五三この石塚を越えてわたしがあなたに害
を加えず、またこの石塚とこの柱を越えてあなたがわた
しに害を加えないように、どうかこの石塚があかしとな
り、この柱があかしとなるように。五四どうかアブラハム
の神、ナホルの神、彼らの父の神がわれわれの間をさば
かれるように」。ヤコブは父イサクのかしこむ者によつ
て誓った。五五そしてヤコブは山で犠牲をささげ、一族を
招いて、食事をした。彼らは食事をして山に宿った。
五五あくる朝ラバンは早く起き、孫と娘たちに口づけし
て彼らを祝福し、去って家に帰った。

第三二章 一さて、ヤコブが旅路に進んだとき、神
の使たちが彼に会った。ニヤコブは彼らを見て、「これは
神の陣営です」と言つて、その所の名をマハナイムと名
づけた。

三ヤコブはセイルの地、エドムの野に住む兄エサウの
もとに、さきだつて使者をつかわした。四すなわちそれ
に命じて言つた、「あなたがたはわたしの主人エサウにこ
う言いなさい、『あなたのしもべヤコブはこう言いまし
た。わたしはラバンのもとに寄留して今までとどまりま
した。五わたしは牛、ろば、羊、男女の奴隷を持ってい
ます。それでわが主に申し上げて、あなたの前に恵みを
得ようと人をつかわしたのです』」。

六使者はヤコブのもとに帰つて言つた、「わたしたちは

あなたの兄エサウのもとへ行きました。彼もまたあなた
を迎えようと四百人を率いてきます。七そこでヤコブは
大いに恐れ、苦しみ、共にいる民および羊、牛、らくだ
を二つの組に分けて、八言つた、「たとい、エサウがきて、
一つの組を撃つても、残りの組はのがれるであらう」。

九ヤコブはまた言つた、「父アブラハムの神、父イサク
の神よ、かつてわたしに『おまえの国へ帰り、おまえの
親族に行け。わたしはおまえを恵もう』と言われた主よ、
一〇あなたがしもべに施されたすべての恵みとまことをわ
たしは受けるに足りない者です。わたしは、つえのほか
何も持たないでこのヨルダンを渡りましたが、今は二つ
の組にもなりました。二どうぞ、兄エサウの手からわた
しをお救いください。わたしは彼がきて、わたしを撃ち、
母や子供たちにまで及ぶのを恐れます。三あなたは、か
つて、『わたしは必ずおまえを恵み、おまえの子孫を海の
砂の数えがたいほど多くしよう』と言われました」。

四彼はその夜そこに宿り、持ち物のうちから兄エサウ
への贈り物を選んだ。五すなわち雌やぎ二百、雄やぎ二
十、雌羊二百、雄羊二十、六乳らくだ三十とその子、雌
牛四十、雄牛十、雌ろば二十、雄ろば十。七彼はこれら
をそれぞれの群れに分けて、しもべたちの手にわたし、
しもべたちに言つた、「あなたがたはわたしの先に進みな
さい、そして群れと群れとの間には隔たりをおきな
さい。八また先頭の者に命じて言つた、「もし、兄エサウ

があなたに会って『だれのしもべで、どこへ行くのか。あなたの前にあるこれらのものはだれの物か』と尋ねたら、『あなたたのしもべヤコブの物で、わが主エサウにおくる贈り物です。彼もわたしたちのうしろにおります』と言いなさい。一九彼は第二の者にも、第三の者にも、また群れ群れについて行くすべての者にも命じて言った、『あなたがたがエサウに会うときは、同じように彼に告げて、二〇『あなたのしもべヤコブもわれわれのうしろにおります』と言いなさい。ヤコブは、『わたしがさきに送る贈り物をもってまず彼をなだめ、それから、彼の顔を見よう。そうすれば、彼はわたしを迎えてくれるであらう』と思つたからである。二一こうして贈り物は彼に先立つて渡り、彼はその夜、宿営にやどつた。

二二彼はその夜起きて、ふたりの妻とふたりのつかえめと十一人の子どもとを連れてヤボクの渡しをわたつた。二三すなわち彼らを導いて川を渡らせ、また彼の持ち物を渡らせた。二四ヤコブはひとりあとに残つたが、ひとりの人が、夜明けまで彼と組打ちした。二五ところでその人はヤコブに勝てないのを見て、ヤコブのものつがいにさわたつたので、ヤコブのものつがい、その人と組打ちするあいだにはずれた。二六その人は言った、『夜が明けるからわたしを去らせてください。』ヤコブは答えた、『わたしを祝福してくださらないなら、あなたを去らせません』。二七その人は彼に言った、『あなたの名はなんといい

ますか。彼は答えた、『ヤコブです』。二八その人は言った、『あなたはもはや名をヤコブと言わず、イスラエルと言いなさい。あなたが神と人との力を争つて勝つたからです』。二九ヤコブは尋ねて言った、『どうかわたしにあなたの名を知らせてください。』するとその人は、『なぜあなたはわたしの名をきくのですか』と言つたが、その所で彼を祝福した。三〇そこでヤコブはその所の名をベニエルと名づけて言った、『わたしは顔と顔をあわせて神を見たが、なお生きてゐる』。三一こうして彼がベニエルを過ぎる時、日は彼の上のぼつたが、彼はそのものゆえにびっこを引いていた。三二そのため、イスラエルの子らは今日まで、もものつがいの上にある腰の筋を食べない。かの人がヤコブのもものつがい、すなわち腰の筋にさわつたからである。

第三章 「さてヤコブは目をあげ、エサウが四百人を率いて来るのを見た。そこで彼は子供たちを分けてレアとラケルとふたりのつかえめとにわたし、二つかえめとその子供たちをまづ先に置き、レアとその子供たちを次に置き、ラケルとヨセフを最後に置いて、三みづから彼らの前に進み、七たび身を地にかがめて、兄に近づいた。

四するとエサウは走ってきて迎え、彼を抱き、そのくびをかかえて口づけし、共に泣いた。五エサウは目をあげて女と子供たちを見て言った、『あなたと一緒にいるこ

これらの者はだれですか」。ヤコブは言った、「神がしもべに授けられた子供たちです」。そこでつかえめたたちはその子供たちと共に近寄ってお辞儀した。セレアもまたその子供たちと共に近寄ってお辞儀し、それからヨセフとラケルが近寄ってお辞儀した。八するとエサウは言った、「わたしが出会ったあのすべての群れはどうしたのですか」。ヤコブは言った、「わが主の前に恵みを得るためです」。九エサウは言った、「弟よ、わたしはじゅうぶんもっている。あなたの物はあなたのものにしなさい」。一〇ヤコブは言った、「いいえ、もしわたしがあなたの前に恵みを得るなら、どうか、わたしの手から贈り物を受けてください。あなたが喜んでわたしを迎えてくださるので、あなたの顔を見て、神の顔を見るように思います。二どうかわたしが持ってきた贈り物を受けてください。神がわたしを恵まれたので、わたしはじゅうぶんもっていますから」。こうして彼がしいたので、彼は受け取った。三そしてエサウは言った、「さあ、立って行こう。わたしが先に行く」。四ヤコブは彼に言った、「ごぞんじのようには、子供たちは、かやわく、また乳を飲ませている羊や牛をわたしが世話をしています。もし一日でも歩かせ過ぎたら群れはみな死んでしまいます。五わが主よ、どうか、しもべの先においでください。わたしはわたしの前にいる家畜と子供たちの歩みに合わせて、ゆっくり歩いて行き、セイルでわが主と一緒になりましよう」。

一五エサウは言った、「それならわたしが連れてくる者どもものうち幾人かをあなたのもとに残しましょう」。ヤコブは言った、「いいえ、それには及びません。わが主の前に恵みを得させてください」。一六その日エサウはセイルへの帰途についた。一七ヤコブは立ってスコテに行き、自分のために家を建て、また家畜のために小屋を造った。これによってその所の名はスコテと呼ばれている。

一八こうしてヤコブはパダンアラムからきて、無事カナンの地のシケムの町に着き、町の前に宿営した。一九彼は天幕を張った野の一部をシケムの父ハモルの子らの手から百ヶシタで買い取り、二〇そこに祭壇を建てて、これをエル・エロヘ・イスラエルと名づけた。

第三章 第四章

一レアがヤコブに産んだ娘デナはその地の女たちに会おうと出かけて行ったが、二その地のつかさ、ヒビびとハモルの子シケムが彼女を見て、引き入れ、これと寝てはずかしめた。三彼は深くヤコブの娘デナを慕い、この娘を愛して、ねんごろに娘に語った。四シケムは父ハモルに言った、「この娘をわたしの妻にめとってください」。五さてヤコブはシケムが、娘デナを汚したことを聞いたけれども、その子らが家畜を連れて野にいたので、彼らの帰るまで黙っていた。六シケムの父ハモルはヤコブと話し合おうと、ヤコブの所に出てきた。七ヤコブの子らは野から帰り、この事を聞いて、悲しみ、かつ非常に怒った。シケムがヤコブの娘と寝て、イスラ

エルに愚かなことをしたためで、こんなことは、してはならぬ事だからである。

ハモルは彼らと語って言った、「わたしの子シケムはあなたがたの娘を心に慕っています。どうか彼女を彼の妻にください。あなたがたはわたしたちと婚姻し、あなたがたの娘をわたしたちに与え、わたしたちの娘をあなたがたにめとってください。こうしてあなたがたとわたしたちとは一緒に住みましょう。地はあなたがたの前にあります。ここに住んで取引し、ここで財産を獲なさい。」シケムはまたデナの父と兄弟たちと言った、「あなたがたの前に恵みを得させてください。あなたがたがわたしに言われるものは、なんでもさしあげましょう。三たくさんの結納金と贈り物とをお求めになっても、あなたがたの言われるとおりさしあげます。ただこの娘はわたしの妻にください。」

しかし、ヤコブの子らはシケムが彼らの妹デナを汚したので、シケムとその父ハモルに偽って答え、「彼らに言った、「われわれは割礼を受けない者に妹をやる事はできません。それはわれわれの恥とするところですから。五ただ、こうなさればわれわれはあなたがたに同意します。もしあなたがたのうち男子がみな割礼を受けて、われわれのようになるなら、六われわれの娘をあなたがたに与え、あなたがたの娘をわれわれにめとりましょう。そしてわれわれはあなたがたと一緒に住んで一つの民と

なりましょう。七けれども、もしあなたがたがわれわれに聞かず、割礼を受けないなら、われわれは娘を連れて行きます」。

八彼らの言葉がハモルとハモルの子シケムとの心になったので、九若者は、ためらわずにこの事をした。彼がヤコブの娘を愛したからである。また彼は父の家のうちで一番重んじられた者であった。二〇そこでハモルとその子シケムとは町の門に行き、町の人々に語って言った、三「この人々はわれわれと親しいから、この地に住まわせて、ここで取引をさせよう。地は広く、彼らをいれるにじゅうぶんである。そしてわれわれは彼らの娘を妻にめとり、われわれの娘を彼らに与えよう。三彼らが割礼を受けているように、もしわれわれのうちの男子が皆、割礼を受けるなら、ただこの事だけで、この人々はわれわれに同意し、われわれと一緒に住んで一つの民となるのだ。三三そうすれば彼らの家畜と財産とすべての獣とは、われわれのものとなるではないか。ただわれわれが彼らに同意すれば、彼らはわれわれと一緒に住むであろう」。

二四そこで町の門に出入りする者はみなハモルとその子シケムとに聞き従って、町の門に出入りするすべての男子は割礼を受けた。

二五三日目になって彼らが痛みを覚えていた時、ヤコブのふたりの子、すなわちデナの兄弟シメオンとレビとは、おのおのつるぎを取って、不意に町を襲い、男子をことごと

とく殺し、二天またつるぎの刃にかけてハメルとその子シケムとを殺し、シケムの家からデナを連れ出した。三七そしてヤコブの子らは殺された人々をはぎ、町をかすめた。彼らが妹を汚したからである。三八すなわち羊、牛、ろば及び町にあるものと、野にあるもの、二九並びにすべての貨財を奪い、その子女と妻たちを皆とりこにし、家の中にある物をことごとくかすめた。三〇そこでヤコブはシメオンとレビとに言った、「あなたがたはわたしをこの地の住民、カナンびととベリジびとに忌みきらわせ、わたしに迷惑をかけた。わたしは、人数が少ないから、彼らが集まつてわたしを攻め撃つならば、わたしも家族も滅ぼされるであろう。三一彼らは言った、「わたしたちの妹を遊女のように彼が扱ってよいのですか」。

第三章 第五章 一ときに神はヤコブに言われた、「あなた

は立つてベテルに上り、そこに住んで、あなたがさきに兄エサウの顔を避けてのがれる時、あなたに現れた神に祭壇を造りなさい。ニヤコブは、その家族および共にいるすべての者に言った、「あなたがたのうちにある異なる神々を捨て、身を清めて着物を着替へなさい。三われわれは立つてベテルに上り、その所でわたしの苦難の日にわたしにこたえ、かつわたしの行く道で共におられた神に祭壇を造ろう。四そこで彼らは持っている異なる神々と、耳につけている耳輪をことごとくヤコブに与えたので、ヤコブはこれをシケムのほとりにあるテレピンの木

の下に埋めた。

五そして彼らは、いで立つたが、大いなる恐れが周囲の町々に起つたので、ヤコブの子らのあとを追う者はなかった。六こうしてヤコブは共にいたすべての人々と一緒にカナンの地にあるルズ、すなわちベテルにきた。七彼はそこに祭壇を築き、その所をエル・ベテルと名づけた。彼が兄の顔を避けてのがれる時、神がそこで彼に現れたからである。八時にリベカのうばデボラが死んで、ベテルのしもの、かしの木の下に葬られた。これによってその木の名はアロン・バクテと呼ばれた。

九さてヤコブがバダンアラムから帰ってきた時、神は再び彼に現れて彼を祝福された。一〇神は彼に言われた、「あなたの名はヤコブである。しかしあなたの名をもはやヤコブと呼んではならない。あなたの名をイスラエルとしなさい。こうして彼をイスラエルと名づけられた。二神はまた彼に言われた、

「わたしは全能の神である。

あなたは生めよ、またふえよ。

一つの国民、また多くの国民があなたから出て、

王たちがあなたの身から出るであろう。

三わたしはアブラハムとイサクとに与えた地を、

あなたに与えよう。

またあなたの後の子孫にその地を与えよう。

三神は彼と語っておられたその場所から彼を離れてのぼ

られた。^{一四}そこでヤコブは神が自分と語られたその場所に、一本の石の柱を立て、その上に灌祭をささげ、また油を注いだ。^{一五}そしてヤコブは神が自分と語られたその場所をベテルと名づけた。

^{一六}こうして彼らはベテルを立つたが、エフラタに行き着くまでに、なお隔たりのある所でラケルは産気づき、その産は重かった。^{一七}その難産に當って、産婆は彼女に言った、「心配することはありません。今度も男の子です」。^{一八}彼女は死にのぞみ、魂の去ろうとする時、子の名をベノニと呼んだ。しかし、父はこれをベニヤミンと名づけた。^{一九}ラケルは死んでエフラタ、すなわちベツレヘムの道に葬られた。^{二〇}ヤコブはその墓に柱を立てた。これはラケルの墓の柱であつて、今日に至っている。^{二一}イスラエルはまた、いで立つてミグダル・エダルの向こうに天幕を張った。

^{二二}イスラエルがその地に住んでいた時、ルベンはそのそばめビルハのところへ行つて、これと寝た。イスラエルはこれを聞いた。

^{二三}さてヤコブの子らは十二人であつた。^{二四}すなわちレアの子らはヤコブの長子ルベンとシメオン、レビ、ユダ、イッサカル、ゼブルン。^{二五}ラケルの子らはヨセフとベニヤミン。^{二六}ラケルのつかえめビルハの子らはダンとナフタリ。^{二七}レアのつかえめジルバの子らはガドとアセル。これらはヤコブの子らであつて、パダンアラムで彼に生

れた者である。

^{二八}ヤコブはキリアテ・アルバ、すなわちヘブロンのマムレにいる父イサクのもとへ行つた。ここはアブラハムとイサクとが寄留した所である。^{二九}イサクの年は百八十歳であつた。^{三〇}イサクは年老い、日満ちて息絶え、死んで、その民に加えられた。その子エサウとヤコブとは、これを葬つた。

第三章 第六章 エサウ、すなわちエドムの系図は次のとおりである。^一エサウはカナンの娘たちのうちから妻をめとつた。すなわちヘテびとエロンの娘アダと、ヒビびとデベオンの子アナの娘アホリバマとである。^二また、イシマエルの娘ネバヨテの妹バスマテをめとつた。^三アダはエリバズをエサウに産み、バスマテはリウエルを産み、^四アホリバマはエウシ、ヤラム、コラを産んだ。これらはエサウの子であつて、カナンの地で彼に生れた者である。

^五エサウは妻と子と娘と家のすべての人、家畜とすべての獣、またカナンの地で獲たすべての財産を携え、兄弟ヤコブを離れてほかの地へ行つた。^六彼らの財産が多くて、一緒にいることができなかったからである。すなわち彼らが寄留した地は彼らの家畜のゆえに、彼らをささえることができなかったのである。^七こうしてエサウはセイルの山地に住んだ。エサウはすなわちエドムである。^八セイルの山地におつたエドムびとの先祖エサウの系

図は次のとおりである。一〇エサウの子らの名は次のとおりである。すなわちエサウの妻アダの子はエリバズ。エサウの妻バスマテの子はリウエル。二エリバズの子らはテマン、オマル、ゼボ、ガタム、ケナズである。三テムナはエサウの子エリバズのそばめで、アマレクをエリバズに産んだ。これらはエサウの妻アダの子らである。三リウエルの子らは次のとおりである。すなわちナハテ、ゼラ、シャンマ、ミザであつて、これらはエサウの妻バスマテの子らである。四デベオンの子アナの娘で、エサウの妻アホリバマの子らは次のとおりである。すなわち彼女（かのじよ）はエウシ、ヤラム、コラをエサウに産んだ。

二五エサウの子らの中で、族長たる者は次のとおりである。すなわちエサウの長子エリバズの子らはテマンの族長、オマルの族長、ゼボの族長、ケナズの族長、一六コラの族長、ガタムの族長、アマレクの族長である。これらはエリバズから出た族長で、エドムの地におつた。これらはアダの子らである。二七エサウの子リウエルの子らは次のとおりである。すなわちナハテの族長、ゼラの族長、シャンマの族長、ミザの族長。これらはリウエルから出た族長で、エドムの地におつた。これらはエサウの妻バスマテの子らである。二八エサウの妻アホリバマの子らは次のとおりである。すなわちエウシの族長、ヤラムの族長、コラの族長。これらはアナの娘で、エサウの妻アホリバマから出た族長である。二九これらはエサウすなわち

エドムの子らで、族長たる者である。

三〇この地の住民ホリびとセイルの子らは次のとおりである。すなわちロタン、シヨバル、デベオン、アナ、ミデシオン、エゼル、デシヤン。これらはセイルの子ホリびとから出た族長で、エドムの地におつた。三ロタンの子らはホリ、ヘマムであり、ロタンの妹はテムナであつた。三三シヨバルの子らは次のとおりである。すなわちアルワン、マナハテ、エバル、シボ、オナム。四デベオンの子らは次のとおりである。すなわちアヤとアナ。このアナは父デベオンのろばを飼つていた時、荒野で温泉を発見した者である。三五アナの子らは次のとおりである。すなわちデシオンとアホリバマ。アホリバマはアナの娘である。三六デシオンの子らは次のとおりである。すなわちヘムダン、エシバン、イテラン、ケラン。三七エゼルの子らは次のとおりである。すなわちビルハン、ザワン、アカン。三八デシヤンの子らは次のとおりである。すなわちウズとアラン。三九ホリびとから出た族長は次のとおりである。すなわちロタンの族長、シヨバルの族長、デベオンの族長、アナの族長、ミデシオンの族長、エゼルの族長、デシヤンの族長。これらはホリびとから出た族長であつて、その氏族に従つてセイルの地におつた者である。四〇ミイスラエルの人々を治める王がまだなかつた時、エドムの地を治めた王たちは次のとおりである。三一ベオルの子ベラはエドムを治め、その都の名はデナバであつた。

ミペラが死んで、ボズラのゼラの子ヨバブがこれに代つて王となった。ヨバブが死んで、テマンびとの地のホシヤムがこれに代つて王となった。ホシヤムが死んで、ベダデの子ハダデがこれに代つて王となった。彼はモアブの野でミデアンを撃つた者である。その都の名はアビテであった。ハダデが死んで、マスレカのサムラがこれに代つて王となった。サムラが死んでユフラテ川のほとりにあるレホボテのサウルがこれに代つて王となった。サウルが死んでアクボルの子バアル・ハナシがこれに代つて王となった。アクボルの子バアル・ハナシが死んで、ハダルがこれに代つて王となった。その都の名はパウであった。その妻の名はメヘタベルといて、メザハブの娘マレデの娘であった。

エサウから出た族長の名は、その氏族と住所と名に従つて言へば次のとおりである。すなわちテムナの族長、アルワの族長、エテテの族長、アホリバマの族長、エラの族長、ピノンの族長、ケナズの族長、テマンの族長、ミブザルの族長、マグデルの族長、イラムの族長。これらはエドムの族長たちであつて、その領地内の住所に従つていったものである。エドムびとの先祖はエサウである。

第三章

ヤコブは父の寄留の地、すなわちカナンカナンの地に住んだ。ニヤコブの子孫は次のとおりである。ヨセフは十七歳の時、兄弟たちと共に羊の群れを飼つ

ていた。彼はまだ子供で、父の妻たちビルハとジルバとの子らと共にいたが、ヨセフは彼らの悪いうわさを父に告げた。ヨセフは年寄り子であつたから、イスラエルは他のどの子よりも彼を愛して、彼のために長そでの着物をつくつた。兄弟たちは父がどの兄弟よりも彼を愛するのを見て、彼を憎み、穏やかに彼に語ることができなかつた。

ある時、ヨセフは夢を見て、それを兄弟たちに話したので、彼らは、ますます彼を憎んだ。ヨセフは彼らに言った、「どうぞわたしが見た夢を聞いてください。セわたしたちが畑の中で束を結わえていたとき、わたしの束が起きて立つと、あなたがたの束がまわりにきて、わたしの束を拝みました。すると兄弟たちは彼に向かつて、「あなたはほんとうにわたしたちの王になるのか。あなたは実際わたしたちを治めるのか」と言つて、彼の夢とその言葉のゆえにますます彼を憎んだ。ヨセフはまた一つの夢を見て、それを兄弟たちに語つて言つた、「わたしはまた夢を見ました。日と月と十一の星とがわたしを拝みました。父はこれを父と兄弟たちに語つたので、父は彼をとがめて言つた、「あなたが見たその夢はどいうのか。ほんとうにわたしとあなたの母と、兄弟たちとが行つて地に伏し、あなたがたを拝むのか。二兄弟たちは彼をねたんだ。しかし父はこの言葉を心にとめた。

三さて兄弟たちがシケムに行つて、父の羊の群れを

飼つていたとき、^{二三}イスラエルはヨセフに言った、「あなたの兄弟たちはシケムで羊を飼っているではないか。さあ、あなたを彼らの所へつかわそう」。ヨセフは父に言った、「はい、行きます」。父は彼に言った、「どうか、行って、あなたの兄弟たちは無事であるか、また群れは無事であるか見てきて、わたしに知らせてください」。父が彼をヘブロン谷からつかわしたので、彼はシケムに行つた。^{二五}ひとりの人が彼に会い、彼が野をさまよっていたので、その人は彼に尋ねて言った、「あなたは何を捜しているのですか」。彼は言った、「兄弟たちを捜しているのです。彼らが、どこで羊を飼っているのか、どうぞわたしに知らせてください」。その人は言った、「彼らはここを去りました。彼らが『ドタンへ行こう』と言うのをわたしは聞きました」。そこでヨセフは兄弟たちのあとを追って行って、ドタンで彼らに会った。^{一八}ヨセフが彼らに近づかないうちに、彼らははるかにヨセフを見て、これを殺そうと計り、^{一九}互に言った、「あの夢見る者がやって来る。さあ、彼を殺して穴に投げ入れ、悪い獣が彼を食つたと言おう。そして彼の夢がどうなるか見よう」。ミルベンはこの話を聞いて、ヨセフを彼らの手から救い出そうとして言った、「われわれは彼の命を取つてはならない」。ミルベンはまた彼らに言った、「血を流してはいけない。彼を荒野のこの穴に投げ入れよう。彼に手をくだしてはならない」。これはヨセフを彼らの手から

救いだして父に返すためであつた。^{二三}さて、ヨセフが兄弟たちのもとへ行くと、彼らはヨセフの着物、彼が着ていた長そでの着物をはぎとり、^{二四}彼を捕えて穴に投げ入れた。その穴はからで、その中に水はなかつた。^{二五}こうして彼らはすわってパンを食べた。時に彼らが目をあげて見ると、イシマエルびとの隊商が、らくだに香料と、乳香と、もつやくとを負わせてエジプトへ下り行こうとギレアドからやつてきた。^{二六}そこでユダは兄弟たちに言った、「われわれが弟を殺し、その血を隠して何の益があるう。さあ、われわれは彼をイシマエルびとに売ろう。彼はわれわれの兄弟、われわれの肉身だから、彼に手を下してはならない」。兄弟たちはこれを聞き入れた。^{二八}時にミデアンびとの商人たちが通りかかったので、彼らはヨセフを穴から引き上げ、銀二十シケルでヨセフをイシマエルびとに売った。彼らはヨセフをエジプトへ連れて行つた。^{二九}さてルベンは穴に帰って見たが、ヨセフが穴の中にいなかつたので、彼は衣服を裂き、^{三〇}兄弟たちのもとに帰って言った、「あの子はいない。ああ、わたしはどこへ行くことができよう」。ミルベンはヨセフの着物を取り、雄やぎを殺して、着物をその血に浸し、^{三一}その長そでの着物を父に持ち帰って言った、「わたしたちはこれを見つけましたが、これはあなたの子の着物か、どうか見さだめてください」。父はこれを見さだめて言った、「わが子

の着物だ。悪い獣が彼を食ったのだ。確かにヨセフはかみ裂かれたのだ。」^{三四}そこでヤコブは衣服を裂き、荒布を腰にまとい、長い間その子のために嘆いた。^{三五}子らと娘らとは皆立って彼を慰めようとしたが、彼は慰められるのを拒んで言った、「いや、わたしは嘆きながら陰府に下って、わが子のもとへ行こう」。こうして父は彼のために泣いた。^{三六}さて、かのミデアンびとはエジプトでパロの役人、侍衛長ポテパルにヨセフを売った。

第三八章 —そのころユダは兄弟たちを離れて下り、アドラムびとで、名をヒラという者の所へ行つた。ユダはその所で、名をシユアというカナンびとの娘を見て、これをめとり、その所にはいった。^一彼女はみごもつて男の子を産んだので、ユダは名をエルと名づけた。^二彼女は再びみごもつて男の子を産み、名をオナンと名づけた。^三また重ねて、男の子を産み、名をシラと名づけた。彼女はこの男の子を産んだとき、クジブにおつた。^四ユダは長子エルのために、名をタマルという妻を迎えた。^五しかしユダの長子エルは主の前に悪い者であつたので、主は彼を殺された。^六そこでユダはオナンに言った、「兄の妻の所にはいつて、彼女をめとり、兄に子供を得させなさい」。しかしオナンはその子が自分のものとならないのを知っていたので、兄の妻の所にはいつた時、兄に子を得させないために地に洩らした。^七彼のした事は主の前に悪かつたので、主は彼をも殺された。^八そこ

でユダはその子の妻タマルに言った、「わたしの子シラが成人するまで、寡婦のまま、あなたの父の家にいなさい」。彼は、シラもまた兄弟たちのように死ぬかもしれないと、思ったからである。それでタマルは行って父の家におつた。

^九三日がたつてシユアの娘ユダの妻は死んだ。その後、ユダは喪を終つてその友アドラムびとヒラと共にテムナに上り、自分の羊の毛を切る者のところへ行つた。^{一〇}時に、ひとりの人がタマルに告げて、「あなたのしゅうとが羊の毛を切るためにテムナに上つて来る」と言つたので、^{一一}彼女は寡婦の衣服を脱ぎすて、被衣で身をおおい隠して、テムナへ行く道のかたわらにあるエナイムの入口にすわっていた。^{一二}彼女はシラが成人したのに、自分がその妻にされないのを知つたからである。^{一三}ユダは彼女を見たとき、彼女が顔をおおつていたので、遊女だと思ひ、「道のかたわらで彼女に向かつて言つた、「さあ、あなたの所にはいらせておくれ」。彼はこの女がわが子の妻であることを知らなかったからである。彼女は言つた、「わたしの所にはいるため、何をくださいますか」。ユダは言つた、「群れのうちのやぎの子をあなたにあげよう」。彼女は言つた、「それをくださるまで、しるしをわたしにくださいますか」。ユダは言つた、「どんなしるしをあげようか」。彼女は言つた、「あなたの印と紐と、あなたの手にあるつえとを」。彼はこれらを与えて彼女の所にはいつ

た。彼女はユダによつてみごもつた。一九彼女は起きて去り、被衣を脱いで寡婦の衣服を着た。

二〇やがてユダはその女からしるしを取りもとそうと、その友アドラムびとに託してやぎの子を送つたけれども、その女を見いだせなかつた。二三そこで彼はその所の人々に尋ねて言つた、「エナイムで道のかたわらにいた遊女はどこにいますか」。彼らは言つた、「ここには遊女はいません」。二四彼はユダのもとに帰つて言つた、「わたしは彼女を見いだせませんでした。またその所の人々は、『ここには遊女はいない』と言いました」。二五そこでユダは言つた、「女に持たせておこう。わたしは恥をか」といけなから。とにかく、わたしはこのやぎの子を送つたが、あなたは彼女を見いだせなかつたのだ。

二六ところが三月ほどたつて、ひとりの人がユダに言つた、「あなたの嫁タマルは姦淫しました。そのうえ、彼女は姦淫によつてみごもりました」。ユダは言つた、「彼女を引き出して焼いてしまえ」。二七彼女は引き出された時、そのしゅうと人に人をつかわして言つた、「わたしはこれをもっている人によつて、みごもりました」。彼女はまた言つた、「どうか、この印と、紐と、つえとはだれのものか、見定めてください」。二八ユダはこれを見定めて言つた、「彼女はわたしよりも正しい。わたしが彼女をわが子シラに与えなかつたためである」。彼は再び彼女を知らなかつた。

二七さて彼女の出産の時がきたが、胎内には、ふたごがあつた。二八出産の時に、ひとりの子を手を出したので、産婆は、「これがさきに出了」と言い、緋の糸を取つて、その手に結んだ。二九そして、その子が手をひっこめると、その弟が出たので、「どうしてあなたは自分で破つて出るのか」と言つた。これによつて名はベレッツと呼ばれた。三〇その後、手に緋の糸のある兄が出たので、名はセラと呼ばれた。

第三十九章

一さてヨセフは連れられてエジプトに下つたが、パロの役人で侍衛長であつたエジプトびとボテバルは、彼をそこに連れ下つたイシマエルびとらの手から買い取つた。二主がヨセフと共におられたので、彼は幸運な者となり、その主人エジプトびとの家におつた。三その主人は主が彼とともにおられることと、主が彼の手のすることをすべて榮えさせられるのを見た。四そこで、ヨセフは彼の前に恵みを得、そのそば近く仕えた。彼はヨセフに家をつかさどらせ、持ち物をみな彼の手にゆだねた。五彼がヨセフに家とすべての持ち物をつかさどらせた時から、主はヨセフのゆえにそのエジプトびとの家を恵まれたので、主の恵みは彼の家と畑とにあるすべての持ち物に及んだ。六そこで彼は持ち物をみなヨセフの手にゆだねて、自分が食べる物のほかは、何をも顧み

なかつた。七さてヨセフは姿がよく、顔が美しかった。七これらの

事の^{こと}後^{のち}、主人^{しゅじん}の妻^{つま}はヨセフに目^めをつけて言^いった、「わたしと寝^ねなさい」。ハヨセフは拒^{こば}んで、主人^{しゅじん}の妻^{つま}に言^いった、「御^ご主人^{しゅじん}はわたしがいるので家^{いえ}の中^{なか}の何^{なに}をも顧^{かえり}みず、その持^もち物^{もの}をみなわたしの手^てにゆだねられました。九この家^{いえ}にはわたしよりも大^{おお}なる者^{もの}はありません。また御^ご主人^{しゅじん}はあなたを除^{のぞ}いては、何^{なに}をもわたしに禁^{きん}じられませんでした。た。あなたが御^ご主人^{しゅじん}の妻^{つま}であるからです。どうしてわたしはこの大^{おお}きな悪^{あく}をおこなって、神^{かみ}に罪^{つみ}を犯^{おか}すことができましよう」。一〇彼女は毎日^{まいにち}ヨセフに言^い寄^よったけれども、ヨセフは聞^ききいれず、彼女^{かのじょ}と寝^ねなかつた。また共にい^いなかつた。一一ある日^ひヨセフが務^{つとめ}をするために家^{いえ}にはいつた時^{とき}、家^{いえ}の者^{もの}がひとりもそこにい^いなかつたので、三彼女^{かのじょ}はヨセフの着^き物^{もの}を捕^{とら}えて、「わたしと寝^ねなさい」と言^いった。ヨセフは着^き物^{もの}を彼女^{かのじょ}の手^てに残^{のこ}して外^{そと}にのがれ出^でた。三彼女^{かのじょ}はヨセフが着^き物^{もの}を自分^{じぶん}の手^てに残^{のこ}して外^{そと}にのがれたのを見^みて、一四その家^{いえ}の者^{もの}どもを呼^よび、彼^{かれ}らに告^つげて言^いった、「主人^{しゅじん}がわたしたちの所^{ところ}に連^つれてきたヘブルびとは、わたしたちに戯^{たわむ}れます。彼^{かれ}はわたしと寝^ねようとして、わたし^{わたし}の所^{ところ}にはいつたので、わたしは大声^{おほこゑ}で叫^{さけ}びました。二五彼はわたし^{わたし}が声^{こゑ}をあけて叫^{さけ}ぶのを聞^きくと、着^き物^{もの}をわたし^{わたし}の所^{ところ}に残^{のこ}して外^{そと}にのがれ出^でました」。一六彼女は^{かのじょ}その着^き物^{もの}をかたわらに置^おいて、主人^{しゅじん}の帰^{かえ}つて来^くるのを待^{まち}った。一七そして彼女^{かのじょ}は次^{つぎ}のように主人^{しゅじん}に告^つげた、「あなたがわたし^{わたし}たちに連^つれてこられたヘブルのしもべはわたしに戯^{たわむ}れ

ようとして、わたし^{わたし}の所^{ところ}にはいつてきました。一八わたし^{わたし}が声^{こゑ}をあけて叫^{さけ}んだので、彼^{かれ}は着^き物^{もの}をわたし^{わたし}の所^{ところ}に残^{のこ}して外^{そと}にのがれました」。

一九主人^{しゅじん}はその妻^{つま}が「あなたのしもべは、わたしにこんな事^{こと}をした」と告^つげる言^{ことば}を聞^きいて、激^{げき}しく怒^{いか}った。二〇そしてヨセフの主人^{しゅじん}は彼^{かれ}を捕^{とら}えて、王^{おう}の囚^{しう}人^{じん}をつなぐ獄^{ごく}屋^やに投^なげ入^いれた。こうしてヨセフは獄^{ごく}屋^やの中^{なか}におつたが、三主^{しゅ}はヨセフと共に^{とも}おられて彼^{かれ}にいつくしみを垂^たれ、獄^{ごく}屋^や番^{ばん}の恵^{めぐ}みをうけさせられた。三獄^{ごく}屋^や番^{ばん}は獄^{ごく}屋^やにおるすべての囚^{しう}人^{じん}をヨセフの手^てにゆだねたので、彼^{かれ}はそこでするすべての事^{こと}をおこなった。三獄^{ごく}屋^や番^{ばん}は彼^{かれ}の手^てにゆだねた事^{こと}はいつさい顧^{かえり}みなかつた。主^{しゅ}がヨセフと共に^{とも}おられたからである。主^{しゅ}は彼^{かれ}のなす事^{こと}を榮^{さか}えさせられた。

第四〇章 一これらの事^{こと}の後^{のち}、エジプト王^{おう}の給^{きゅう}仕^し役^{やく}と料理^{りょうり}役^{やく}とがその主^{しゅ}君^{くん}エジプト王^{おう}に罪^{つみ}を犯^{おか}した。二パロはふたりの役^{やく}人^{じん}、すなわち給^{きゅう}仕^し役^{やく}の長^{ちやう}と料理^{りょうり}役^{やく}の長^{ちやう}に向^{むか}つて憤^{いきどお}り、三侍^じ衛^{ゑい}長^{ちやう}の家^{いえ}の監^{かん}禁^{きん}所^{じょ}、すなわちヨセフがつかねがれてゐる獄^{ごく}屋^やに入^いれた。四侍^じ衛^{ゑい}長^{ちやう}はヨセフに命^{めい}じて彼^{かれ}らと共に^{とも}おらせたので、ヨセフは彼^{かれ}らに仕^{つか}えた。こうして彼^{かれ}らは監^{かん}禁^{きん}所^{じょ}で幾^{いく}日^{にち}かを過^すごした。五さて獄^{ごく}屋^やにつながれたエジプト王^{おう}の給^{きゅう}仕^し役^{やく}と料理^{りょうり}役^{やく}のふたりは一夜^{いちや}のうちにそれぞれ意^い味^みのある夢^{ゆめ}を見^みた。六ヨセフが朝^{あさ}、彼^{かれ}らのところへ行^いつて見^みると、彼^{かれ}らは悲^{かな}しみに沈^{しず}んでいた。七そこでヨセフは自分^{じぶん}と一^{いっ}緒^{しょ}に主人^{しゅじん}の家^{いえ}の監^{かん}禁^{きん}所^{じょ}に

に焼けた七つの穂が出てきて、セそのやせた穂が、あの太って実った七つの穂をのみつくした。ここでパロは目が覚めたが、それは夢であった。八朝になつて、パロは心が騒ぎ、人をつかわして、エジプトのすべての魔術師とすべての知者と呼び寄せ、彼らに夢を告げたが、これをパロに解き明かしうる者がなかった。

九そのとき給仕役の長はパロに告げて言った、「わたしはきよう、自分のあやまちを思い出しました。〇かつてパロがしもべらに向かつて憤り、わたしと料理役の長とを侍衛長の家の監禁所にお入れになった時、こわたしも彼も一夜のうちに夢を見、それぞれ意味のある夢を見ましたが、三そこに侍衛長のしもべで、ひとりの若いヘブルびとがわれわれと共にいたので、彼に話したところ、彼はわれわれの夢を解き明かし、その夢によつて、それぞれ解き明かしをしました。三そして彼が解き明かしたとおりになつて、パロはわたしを職に返し、彼を木に掛けられました」。

一四そこでパロは人をつかわしてヨセフを呼んだ。人々は急いで彼を地下の獄屋から出した。ヨセフは、ひげをそり、着物を着替えてパロのもとに行つた。一五パロはヨセフに言った、「わたしは夢を見たが、これを解き明かす者がない。聞くとところによると、あなたは夢を聞いて、解き明かしができるそうだ」。一六ヨセフはパロに答えて言つた、「いいえ、わたしではありません。神がパロに平安を

お告げになりました」。一七パロはヨセフに言った、「夢にわたしは川の岸に立っていた。一八その川から肥え太つた、美しい七頭の雌牛が上がつてきて草を食つていた。一九その後、弱く、非常に醜い、やせ細つた他の七頭の雌牛がまた上がつてきた。わたしはエジプト全国で、このような醜いものをまだ見たことがない。二〇ところがそのやせた醜い雌牛が、初めの七頭の肥えた雌牛を食いつくしたが、二一腹にはいっても、腹にはいつた事が知れず、やはり初めのように醜かつた。ここでわたしは目が覚めた。二三わたしはまた夢をみた。一本の茎に七つの実つた良い穂が出てきた。二四その後、やせ衰えて、東風に焼けた七つの穂が出てきたが、二五そのやせた穂が、あの七つの良い穂をのみつくした。わたしは魔術師に話したが、わたしにそのわけを示しうる者はなかつた」。

二五ヨセフはパロに言った、「パロの夢は一つです。神がこれからしようとすることをパロに示されたのです。三六七頭の良い雌牛は七年です。七つの良い穂も七年で、夢は一つです。三七あとに續いて、上がつてきた七頭のやせた醜い雌牛は七年で、東風に焼けた実の入らない七つの穂は七年のききんです。二八わたしがパロに申し上げたように、神がこれからしようとすることをパロに示されたのです。二九エジプト全国に七年の大豊作があり、三〇その後七年のききんが起り、その豊作はみなエジプトの国で忘れられて、そのききんは国を滅ぼすでしょう。三一後

に来るそのききんが、非常に激しいから、その豊作は国のうちで記憶されなくなるでしょう。三二 パロが二度重ねて夢を見られたのは、この事が神によって定められ、神がすみやかにこれをされるからです。三三 それゆえパロは今、ささく、かつ賢い人を尋ね出してエジプトの国を治めさせなさい。三四 パロはこうして国中に監督を置き、その七年の豊作のうちに、エジプトの国の産物の五分の一を取り、三三 続いて来る良い年々のすべての食糧を彼らに集めさせ、穀物を食糧として、パロの手で町々にたくわえ守らせなさい。三六 こうすれば食糧は、エジプトの国に臨む七年のききんに備えて、この国のためにたくわえとなり、この国はききんによって滅びることがないでしょう。三七 この事はパロとそのすべての家来たちの目になつた。三八 そこでパロは家来たちに言った、「われわれは神の霊をもつこのような人を、ほかに見いだし得ようか。三九 またパロはヨセフに言った、「神がこれを皆あなたに示された。あなたのようになさく賢い者はない。四〇 あなたはわたしの家を治めてください。わたしの民はみなあなたの言葉に従うでしょう。わたしはただ王の位でだけあなたにまさる」。四一 パロは更にヨセフに言った、「わたしはあなたをエジプト全国のつかさとする」。四二 そしてパロは指輪を手からはずして、ヨセフの手にはめ、亜麻布の衣服を着せ、金の鎖をくびにかけ、四三 自分の第二の車に彼を乗せ、「ひざまずけ」とその前に呼ばわらせ、こう

して彼をエジプト全国のつかさとした。四四 ついでパロはヨセフに言った、「わたしはパロである。あなたの許しがいなければエジプト全国で、だれも手足を上げることはできない」。四五 パロはヨセフの名をザフナテ・パネアと呼び、オンの祭司ポテベラの娘アセナテを妻として彼に与えた。ヨセフはエジプトの国を巡った。四六 ヨセフがエジプトの王パロの前に立った時は三十歳であつた。ヨセフはパロの前を出て、エジプト全国をあまねく巡った。四七 さて七年の豊作のうちに地は豊かに物を産した。四八 そこでヨセフはエジプトの国にできたその七年間の食糧をことごとく集め、その食糧を町々に納めさせた。すなわち町の周囲にある畑の食糧をその町の中に納めさせた。四九 ヨセフは穀物を海の砂のように、非常に多くたくわえ、量りきれなくなったので、ついに量ることをやめた。五〇 ききんの年の来る前にヨセフにふたりの子が生れた。これらはオンの祭司ポテベラの娘アセナテが産んだのである。五一 ヨセフは長子の名をマナセと名づけて言った、「神がわたしにすべての苦難と父の家のすべての事を忘れさせられた」。五二 また次の子の名をエフライムと名づけて言った、「神がわたしを悩みの地で豊かにせられた」。五三 エジプトの国にあった七年の豊作が終り、五四 ヨセフの言ったように七年のききんが始まった。そのききんは

すべての国にあったが、エジプト全国には食物があった。
 五五 やがてエジプト全国が飢えた時、民はパロに食物を叫び求めた。そこでパロはすべてのエジプトびとに言った、「ヨセフのもとに行き、彼の言うようにせよ」。五六 ききさんが地の全面にあつたので、ヨセフはすべての穀倉を開いて、エジプトびとに売った。ききさんはますますエジプトの国に激しくなつた。五七 ききさんが全地に激しくなつたので、諸国の人々がエジプトのヨセフのもとに穀物を買うためにきた。

第四二章 ヤコブはエジプトに穀物があると知つて、むすこたちに言った、「あなたがたはなぜ顔を見合わせているのですか」。二 また言った、「エジプトに穀物があるということだが、あなたがたはそこへ下つて行つて、そこから、われわれのため穀物を買つてきなさい。そうすれば、われわれは生きながらえて、死を免れるであろう」。三 そこでヨセフの十人の兄弟は穀物を買うためにエジプトへ下つた。四 しかし、ヤコブはヨセフの弟ベニヤミンを兄弟たちと一緒にやらなかつた。彼が災に会ふのを恐れたからである。五 こうしてイスラエルの子らは穀物を買おうと人々に交じつてやつてきた。カナンのにききさんがあつたからである。

六 ときにヨセフは国のつかさであつて、国のすべての民に穀物売ることをしていた。ヨセフの兄弟たちはきて、地にひれ伏し、彼を拝した。七 ヨセフは兄弟たちを

見て、それと知つたが、彼らに向かつては知らぬ者のようにし、荒々しく語つた。すなわち彼らに言った、「あなたがたはどこからきたのか」。彼らは答えた、「食糧を買うためにカナンの地からきました」。八 ヨセフは、兄弟たちであるのを知つていたが、彼らはヨセフとは知らなかつた。九 ヨセフはかつて彼らについて見た夢を思い出して、彼らに言った、「あなたがたは回し者で、この国のすきをうかがうためにきたのです」。一〇 彼らはヨセフに答えた、「いいえ、わが主よ、しもべらはただ食糧を買うためにきたのです。二 われわれは皆、ひとりの人の子で、眞実な者です。しもべらは回し者ではありません」。三 ヨセフは彼らに言った、「いや、あなたがたはこの国のすきをうかがうためにきたのです」。四 彼らは言った、「しもべらは十二人兄弟で、カナンの地にいるひとりの人の子です。末の弟は今、父と一緒にいます。他のひとりはいなくなりました」。五 ヨセフは彼らに言った、「わたしが言つたとおり、あなたがたは回し者です。六 あなたがたをこゝうしてためしてみよう。パロのいのちにかけて誓います。末の弟がここにこなければ、あなたがたはここを出ることはできません。七 あなたがたのひとりをやつて弟を連れてこさせなさい。それまであなたがたをつないで置いて、あなたがたに誠実があるかどうか、あなたがたの言葉をためしてみよう。パロのいのちにかけて誓います。あなたがたは確かに回し者です」。八 ヨセフは彼らを

みな一緒に三日の間、監禁所に入れた。

三日目にヨセフは彼らに言った、「こうすればあなたがたは助かるでしょう。わたしは神を恐れます。もしあなたがたが眞実な者なら、兄弟のひとりをあなたがたのいる監禁所に残し、あなたがたは穀物を携えて行って、家族の飢えを救いなさい。そして末の弟をわたしのもとに連れてきなさい。そうすればあなたがたの言葉のほんとうであることがわかって、死を免れるでしょう。彼らはそのようにした。二 彼らは互に言った、「確かにわれわれは弟の事で罪がある。彼がしきりに願った時、その心の苦しみをしながら、われわれは聞き入れなかった。それでこの苦しみに会うのだ。三 ルベンが彼らに答えて言った、「わたしはあなたがたに、この子供に罪を犯すなど言ったではないか。それにもかかわらず、あなたがたは聞き入れなかった。それで彼の血の報いを受けるのです。三 彼らはヨセフが聞きわけているのを知らなかった。相互の間に通訳者がいたからである。四 ヨセフは彼らを離れて行って泣き、また帰ってきて彼らと語り、そのひとりシメオンを捕えて、彼らの目の前で縛つた。五 そしてヨセフは人々に命じて、彼らの袋に穀物を満たし、めいめいの銀を袋に返し、道中の食料を与えさせた。ヨセフはこのように彼らにした。

六 彼らは穀物をろばに負わせてそこを去った。七 そのひとりが宿で、ろばに飼葉をやるため袋をあけて見ると、

袋の口に自分の銀があつた。八 彼は兄弟たちに言った、

「わたしの銀は返してある。しかも見よ、それは袋の中にある。そこで彼らは非常に驚き、互に震えながら言った、「神がわれわれにされたこのことは何事だろう」。

九 こうして彼らはカナンの地にいる父ヤコブのもとに帰り、その身に起つた事をことごとく告げて言った、三〇「あの国の君は、われわれに荒々しく語り、国をうかがう回し者だと言いました。三 われわれは彼に答えました、「われわれは眞実な者であつて回し者ではない。三 われわれは十二人兄弟で、同じ父の子である。ひとりはいなくなり、末の弟は今父と共にカナンの地にいる。三 その国の君であるその人はわれわれに言いました、「わたしはこうしてあなたがたの眞実な者であることを知ろう。あなたがたは兄弟のひとりをわたしのもとに残し、穀物を携えて行って、家族の飢えを救いなさい。三 そして末の弟をわたしのもとに連れてきなさい。そうすればあなたがたが回し者ではなく、眞実な者であることを知って、あなたがたの兄弟を返し、この国であなたがたに取引させましよう」。

三 彼らが袋のものを出して見ると、めいめいの金包みが袋の中にあつたので、彼らも父も金包みを見て恐れた。三 父ヤコブは彼らに言った、「あなたがたはわたしに子を失わせた。ヨセフはいなくなり、シメオンもいなくなつた。今度はベニヤミンをも取り去る。これらはみなわた

しの身にふりかかつて来るのだ」。ミルベンは父に言った、「もしわたしが彼をあなたのもとに連れて帰らなかつたら、わたしのふたりの子を殺してください。ただ彼をわたしの手にまかせてください。わたしはきつと、あなたのもとに彼を連れて帰ります」。ミヤコブは言った、「わたしの子にはあなたがたと共に下って行つてはならない。彼の兄は死に、ただひとり彼が残っているのだから。もしあなたがたの行く道で彼が災に会えば、あなたがたは、しらがのわたしを悲しんで陰府に下らせるであろう」。

第 四 三 章

「ききんはその地に激しかった。二彼

らがエジプトから携えてきた穀物を食ひ尽した時、父は彼らに言った、「また行つて、われわれのために少しの食糧を買つてきなさい」。ミユダは父に答えて言った、「あの人にはわれわれをきびしく戒めて、弟が一緒でなければ、わたしの顔を見てはならないと言いました。もしあなたが弟をわれわれと一緒にやってくださるなら、われわれは下って行つて、あなたのために食糧を買つてきましよう。しかし、もし彼をやられないなら、われわれは下って行きません。あの人やわれわれに、弟が一緒でなければわたしの顔を見てはならないと言つたのですから」。イスラエルは言った、「なぜ、もうひとりの弟があるにあの人に言つて、わたしを苦しめるのか」。彼らは言った、「あの人やわれわれと一族とのことを聞いたとして、父はまだ生きてゐるか、もうひとりの弟があるかと言つ

たので、問われるままに答えましたが、その人が、弟を連れてこいと言おうとは、どうして知ることができたでしょう」。ハユダは父イスラエルに言った、「あの子をわたしと一緒にやってくだされば、われわれは立つて行きましよう。そしてわれわれもあなたも、われわれの子供らも生きながらえ、死を免れましよう。九わたしは彼の身を請け合います。わたしの手から彼を求めなさい。もしわたしが彼をあなたのもとに連れ帰つて、あなたの前に置かなかつたら、わたしはあなたに対して永久に罪を負いましよう。一〇もしわれわれがこんなにためらわなかつたら、今ごろは二度も行つてきたでしょう」。

二父イスラエルは彼らに言った、「それではこうしなさい。この国の名産を器に入れ、携えて下つてその人に贈り物にしなさい。すなわち少しの乳香、少しの蜜、香料、もつやく、ふすだしう、あめんどろ。三そしてその上に、倍額の銀を手にとって行きなさい。また袋の口に返してあつた銀は持つて行つて返しなさい。たぶんそれは誤りであつたのでしょう。四弟も連れ、立つて、またその人の所へ行きなさい。五どうか全能の神がその人の前であなただをあわれみ、もうひとりの兄弟とベニヤミンとを、返させてくださるように。もしわたしが子を失わなければならぬのなら、失つてもよい。一五そこでその人々は贈り物を取り、また倍額の銀を携え、ベニヤミンを連れ、立つてエジプトへ下り、ヨセフの前に立つた。

二六 ヨセフはベニヤミンが彼らと共にいるのを見て、家づかさに言った、「この人々を家に連れて行き、獸をほふつて、したくするように。この人々は昼、わたしと一緒に食事をします」。二七 その人はヨセフの言ったようにして、この人々をヨセフの家へ連れて行った。二八 ところがこの人々はヨセフの家へ連れて行かれたので恐れて言った、「初めの時に袋に返してあったあの銀のゆえに、われわれを引き入れたのです。そしてわれわれを襲い、攻め捕えて奴隸とし、われわれのろばをも奪うのです」。二九 彼らはヨセフの家づかさに近づいて、家の入口で、言った、「ああ、わが主よ、われわれは最初、食糧を買うために下ってきたのです。三〇 ところが宿に行つて袋をあけて見ると、めいめいの銀は袋の口にあつて、銀の重さは元のままでした。それでわれわれはそれを持って参りました。三一 そして食糧を買うために、ほかの銀をも持つて下ってきました。われわれの銀を袋に入れた者が、だれであるかは分りません」。三二 彼は言った、「安心なさい。恐れてはいけません。その宝はあなたがたの神、あなたがたの父の神が、あなたがたの袋に入れてあなたがたに賜わたったのです。あなたがたの銀はわたしが受け取りました」。そして彼はシメオンを彼らの所へ連れてきた。三三 こうしてその人はこの人々をヨセフの家へ導き、水を与えて足を洗わせ、また、ろばに飼葉を与えた。三四 彼らはその所で食事をすると聞き、贈り物を整えて、昼

にヨセフの来るのを待った。三五 さてヨセフが家に帰つてきたので、彼らはその家に携えてきた贈り物をヨセフにささげ、地に伏して、彼を拝した。三六 ヨセフは彼らの安否を問うて言った、「あなたがたの父、あなたがたがさきに話していたその老人は無事ですか。なお生きながらえておられますか」。三七 彼は答えた、「あなたのしもべ、われわれの父は無事で、なお生きながらえています」。そして彼らは、頭をさげて拝した。三八 ヨセフは目をあげて同じ母の子である弟ベニヤミンを見て言った、「これはあなたがたが前にわたしに話した末の弟ですか」。また言った、「わが子よ、どうか神があなたを恵まれるように」。三九 ヨセフは弟なつかしさに心がせまり、急いで泣く場所をたずね、へやにはいつて泣いた。四〇 やがて彼は顔を洗つて出てきた。そして自分を制して言った、「食事にしよう」。四一 そこでヨセフはヨセフ、彼らは彼ら、陪食のエジプトびとはエジプトびと、と別々に席に着いた。エジプトびとはヘブルびとと共に食事することができなかった。それはエジプトびとの忌むところであつたからである。四二 こうして彼らはヨセフの前に、長子は長子として、弟は弟としてすわらせられたので、その人々は互に驚いた。四三 またヨセフの前から、めいめいの分が運ばれたが、ベニヤミンの分は他のいづれの者の分よりも五倍多かつた。こうして彼らは飲み、ヨセフと共に楽しんだ。

第四四章

「さてヨセフは家づかさに命じて言った、『この人々の袋に、運べるだけ多くの食糧を満たし、めいめいの銀を袋の口に入れておきなさい。』またわたしの杯、銀の杯をあの子の者の袋の口に、穀物の代金と共に入れておきなさい。』家づかさはヨセフの言葉のとおりにした。三夜が明けると、その人々と、ろばとは送り出されたが、四町を出て、まだ遠くへ行かないうちに、ヨセフは家づかさに言った、『立って、あの人々のあとを追いなさい。追いついて、彼らに言いなさい、『あなたがたはなぜ悪をもつて善に報いるのですか。なぜわたしの銀の杯を盗んだのですか。』これはわたしの主人が飲む時に使い、またいつも占いに用いるものではありませんか。あなたがたのした事は悪いことです。』」

六家づかさが彼らに追いついて、これらの言葉を彼らに告げたとき、七彼らは言った、『わが主は、どうしてそのようなことを言われるのですか。しもべらは決してそのようなことはいたしません。八袋の口で見つけた銀でさえ、カナンの地からあなたの所に持ち帰ったほごです。どうして、われわれは御主人の家から銀や金を盗みましよう。九しもべらのうちのだれの所でそれが見つかったも、その者は死に、またわれわれはわが主の奴隷となりましよう。』」

一〇家づかさは言った、『それではあなたがたの言葉のようになさう。杯の見つかった者はわたしの奴隷とならなければならぬ。ほかの者は無罪です。』

二そこで彼らは、めいめい急いで袋を地におろし、ひとりひとりその袋を開いた。三家づかさは年上から捜し始めて年下に終ったが、杯はベニヤミンの袋の中にあつた。三そこで彼らは衣服を裂き、おのおの、ろばに荷を負わせて町に引き返した。

四ユダと兄弟たちとは、ヨセフの家にはいったが、ヨセフがなおそこにいたので、彼らはその前で地にひれ伏した。五ヨセフは彼らに言った、『あなたがたのこのしわざは何事ですか。わたしのような人は、必ず占いで当てることを知らないのですか。』六ユダは言った、『われわれはわが主に何を言い、何を述べ得ましよう。どうしてわれわれは身の潔白をあらわし得ましよう。神がしもべらの罪をあばかれました。われわれと、杯を持っていた者とは共にわが主の奴隷となりましよう。』七ヨセフは言った、『わたしは決してそのようなことはしない。杯を持つてゐる者だけがわたしの奴隷とならなければならぬ。』

八ほかの者は安全に父のもとへ上つて行きなさい。九この時ユダは彼に近づいて言った、『ああ、わが主よ、どうぞわが主の耳にひとこと言わせてください。しもべをおこらないでください。あなたはバロのようなかたです。』一〇わが主はしもべらに尋ねて、『父があるか、また弟があるか』と言われたので、一一われわれはわが主に言いました、『われわれには老齢の父があり、また年寄り子の弟があります。その兄は死んで、同じ母の子で残つて

いるのは、ただこれだけです。父はこれを愛しています。三その時あなたはしもべに言われました、『その者をわたしの所へ連れてきなさい。わたしはこの目で彼を見よう』。三われわれはわが主に言いました。『その子供は父を離れることができません。もし父を離れたら父は死ぬでしよう』。三しかし、あなたはしもべに言われました、『末の弟が一緒に下ってこなければ、おまえたちは再びわたしの顔を見ることはできない』。二四それであなたはしもべである父のもとに上って、わが主の言葉を彼に告げました。二五ところで、父が『おまえたちは再び行って、われわれのために少しの食糧を買ってくるように』と言ったので、二六われわれは言いました、『われわれは下って行けません。もし末の弟が一緒にあれば行きましょう。末の弟が一緒になければ、あの人の顔を見ることができません』。二七あなたはしもべである父は言いました、『おまえたちの知っているとおり、妻はわたしにふたりの子を産んだ。二八ひとりとは外へ出たが、きつと裂き殺されたのだと思う。わたしは今になっても彼を見ない。二九もしおまえたちがこの子をもわたしから取って行って、彼が災に会えば、おまえたちは、しらがのわたしを悲しんで陰府に下らせるであろう』。三〇わたしがあなたのしもべである父のもとに帰って行くとき、もしこの子供が一緒にいなかったら、どうなるでしよう。父の魂は子供の魂に結ばれているのです。三この子供がわれわ

れと一緒にいないのを見たら、父は死ぬでしよう。そうすればしもべらは、あなたのしもべであるしらがの父を悲しんで陰府に下らせることになるでしよう。三しもべは父にこの子供の身を請け合つて、『もしわたしがこの子をあなたのもとに連れ帰らなかったら、わたしは父に対して永久に罪を負いましよう』と言ったのです。三どうか、しもべをこの子供の代りに、わが主の奴隷としてとどまらせ、この子供を兄弟たちと一緒に上り行かせてください。三この子供を連れずに、どうしてわたしは父のもとに上り行くことができません。父が災に会うのを見るに忍びません』。

第四 五章 「そこでヨセフはそばに立っているすべての人の前で、自分を制しきれなくなったので、一人は皆ここから出てください」と呼ばわった。それゆえヨセフが兄弟たちに自分のことを明かした時、ひとりも彼のそばに立っている者はなかった。二ヨセフは声をあげて泣いた。エジプトびとはこれを聞き、パロの家もこれを聞いた。三ヨセフは兄弟たちに言った、『わたしはヨセフです。父はまだ生きながらえていますか』。兄弟たちは答えることができなかった。彼らは驚き恐れたからである。四ヨセフは兄弟たちに言った、『わたしに近寄ってください』。彼らが近寄つたので彼は言った、『わたしはあなたがたの弟ヨセフです。あなたがたがエジプトに売った者です。五しかしわたしをここに売ったのを嘆くことも、

悔むこともいりません。神は命を救うために、あなたがたよりさきにわたしをつかわされたのです。六この二年の間、国中にききんがあつたが、なお五年の間は耕すことも刈り入れることもないでしょう。七神は、あなたがたのすえを地に残すため、また大いなる救をもつてあなたがたの命を助けるために、わたしをあなたがたよりさきにつかわされたのです。八それゆえわたしをここにつかわしたのはあなたがたではなく、神です。神はわたしをパロの父とし、その全家の主とし、またエジプト全国をつかさどられました。九あなたがたは父のもとに急ぎ上つて言いなさい、『あなたの子ヨセフが、こう言いしました。神がわたしをエジプト全国の主とされたから、ためらわずにわたしの所へ下つてきなさい。一〇あなたはゴセンの地に住み、あなたも、あなたの子らも、孫たちも、羊も牛も、その他のものもみな、わたしの近くにおられます。一一ききんはなお五年つづきますから、あなたも、家族も、その他のものも、みな困らないように、わたしはそこで養いましょう。一二あなたがたと弟ベニヤミンが目に見るとおり、あなたがたに口ずから語っているのはこのわたしです。一三あなたがたはエジプトでの、わたしのいっさいの榮えと、あなたがたが見るいっさいの事をわたしの父に告げ、急いでわたしの父をここへ連れ下りなさい。一四そしてヨセフは弟ベニヤミンのくびを抱いて泣き、ベニヤミンも彼のくびを抱いて泣いた。一五ま

たヨセフはすべての兄弟たちに口づけし、彼らを抱いて泣いた。そして後、兄弟たちは彼と語った。

一六時に、「ヨセフの兄弟たちがきた」と言ううわさがパロの家に聞えたので、パロとその家来たちとは喜んだ。一七パロはヨセフに言った、「兄弟たちに言いなさい、『あなたがたは、こうしなさい。獸に荷を負わせてカナンの地へ行き、一八父と家族とを連れてわたしのもとへきなさい。わたしはあなたがたに、エジプトの地の良い物を与えます。あなたがたは、この国の最も良いものを食べるでしょう。一九また彼らに命じなさい、『あなたがたは、こうしなさい。幼な子たちと妻たちのためにエジプトの地から車をもつて行き、父を連れてきなさい。二〇家財に心を引かれてはなりません。エジプト全国の良い物は、あなたがたのものだからです。』」

二一イスラエルの子らはそのようにした。ヨセフはパロの命に従つて彼らに車を与え、また途中の食料をも与えた。二二またためにめに晴着を与えたが、ベニヤミンには銀三百シケルと晴着五着とを与えた。二三また彼は父に次のようなものを贈った。すなわちエジプトの良い物を負わせたるは十頭と、穀物、パン及び父の道中の食料を負わせた雌るは十頭。二四こうしてヨセフは兄弟たちを送り去らせ、彼らに言った、「途中で争つてはなりません。二五彼らはエジプトから上つてカナンの地に入り、父ヤコブのもとへ行つて、二六彼に言った、『ヨセフはなお生き

ていてエジプト全国（ぜんこく）のつかさです」。ヤコブは気が遠く（とおい）なつた。彼らの言うことが信じられなかつたからである。そこで彼らはヨセフが語った言葉を残らず（のこ）彼に告げた。父ヤコブはヨセフが自分を乗せるために送った車（くるま）を見て元気づいた。二八そしてイスラエルは言った、「満足（まんぞく）だ。わが子ヨセフがまだ生きてゐる。わたしは死ぬ前に（い）行つて彼を見よう」。

第四 六 章 イスラエルはその持ち物をことごとく携えて旅立ち、ベエルシバに行つて、父イサクの神に犠牲をささげた。二この時、神は夜の幻のうちにイスラエルに語つて言われた、「ヤコブよ、ヤコブよ」。彼は言つた、「ここにいます」。三神は言われた、「わたしは神、あなたの父の神である。エジプトに下るのを恐れてはならない。わたしはあそこであなたを大いなる国民にする。四わたしはあなたと一緒にエジプトに下り、また必ずあなたを導き上るであらう。ヨセフが手ずからあなたの目を閉じるであらう」。五そしてヤコブはベエルシバを立つた。イスラエルの子らはヤコブを乗せるためにバロの送った車に、父ヤコブと幼な子たちと妻たちを乗せ、六またその家畜とカナンの地で得た財産を携え、ヤコブとその子孫は皆ともにエジプトへ行つた。七こうしてヤコブはその子と、孫および娘と孫娘などその子孫をみな連れて、エジプトへ行つた。

八イスラエルの子らでエジプトへ行つた者の名は次の

とほりである。すなわちヤコブとその子らであるが、ヤコブの長子はルベン。九ルベンの子らはハノク、バル、ヘヅロン、カルミ。一〇シメオンの子らはエムエル、ヤミン、オハデ、ヤキン、ゾハル及びカナンの女の産んだ子シャウル。一一レビの子らはゲルシオン、コハテ、メラリ。一二ダの子らはエル、オナン、シラ、ペレヅ、ゼラ。エールとオナンはカナンの地で死んだ。ペレヅの子らはハヅロンとハムル。一三イッサカルの子らはトラ、プワ、ヨブ、シムロン。一四ゼブルンの子らはセレデ、エロン、ヤリエル。一五これらと娘デナとはレアがバダンアラムでヤコブに産んだ子らである。その子らと娘らは合せて三十三人。一六ガドの子らはゼボン、ハギ、シユニ、エヅボン、エリ、アロデ、アレリ。一七アセルの子らはエムナ、イシワ、イスイ、ベリアおよび妹サラ。ベリアの子らはヘベルとマルキエル。一八これらはラバンが娘レアに与えたジルバの子らである。彼女はこれらをヤコブに産んだ。合せて十六人。一九ヤコブの妻ラケルの子らはヨセフとベニヤミンとである。二〇エジプトの国でヨセフにマナセとエフライムとが生れた。これはオンの祭司ポテベラの娘アセナテが彼に産んだ者である。二一ベニヤミンの子らはベラ、ベケル、アシベル、ゲラ、ナアマン、エヒ、ロシ、ムツビム、ホバム、アルデ。二二これらはラケルがヤコブに産んだ子らである。合せて十四人。二三ダンの子はホシム。二四ナフタリの子らはヤジエル、グニ、エゼル、シ

レム。二五これらはラバンが娘ラケルに与えたビルハの子である。彼女はこれらをヤコブに産んだ。合わせて七人。二六ヤコブと共にエジプトへ行ったすべての者、すなわち彼の身から出た者はヤコブの子らの妻をのぞいて、合わせて六十六人であった。二七エジプトでヨセフに生れた子がふたりあった。エジプトへ行ったヤコブの家の者は合わせて七十人であった。

二八さてヤコブはユダをさきにヨセフにつかわして、ゴセンで会おうと言わせた。そして彼らはゴセンの地へ行った。二九ヨセフは車を整えて、父イスラエルを迎えるためにゴセンに上り、父に会い、そのくびを抱き、くびをかかえて久しく泣いた。三〇時に、イスラエルはヨセフに言った、「あなたがなお生きていて、わたしはあなたの顔を見たので今は死んでもよい」。三一ヨセフは兄弟たちと父の家族とに言った、「わたしは上つてパロに言おう、『カナンの地にいたわたしの兄弟たちと父の家族とがわたしの所へきました。三二この者らは羊を飼う者、家畜の牧者で、その羊、牛および持ち物をみな携えてきました』。三三もしパロがあなたを召して、『あなたがたの職業は何か』と言われたら、三四しもべらは幼い時から、ずっと家畜の牧者です。われわれも、われわれの先祖もそうです』と言いなさい。そうすればあなたがたはゴセンの地に住むことができましょう。羊飼はすべて、エジプトびとの忌む者だからです」。

第四七章

一ヨセフは行って、パロに言った、「わたしの父と兄弟たち、その羊、牛およびすべての持ち物がカナンの地からきて、今ゴセンの地におります」。二そしてその兄弟のうちの五人を連れて行って、パロに会わせた。三パロはヨセフの兄弟たちに言った、「あなたがたの職業は何か」。彼らはパロに言った、「しもべらは羊を飼う者です。われわれも、われわれの先祖もそうです」。四彼らはまたパロに言った、「この国に寄留しようとしてきました。カナンの地はききんが激しく、しもべらの群れのための牧草がないのです。どうかしもべらをゴセンの地に住ませてください」。五パロはヨセフに言った、「あなたの父と兄弟たちとがあなたのところに来た。六エジプトの地はあなたの前にある。地の最も良い所にあなたの父と兄弟たちとを住ませなさい。ゴセンの地に彼らを住ませなさい。もしあなたが彼らのうちに有能な者があるのを知っているなら、その者にわたしの家畜をつかさどらせなさい」。

七そこでヨセフは父ヤコブを導いてパロの前に立たせた。ヤコブはパロを祝福した。八パロはヤコブに言った、「あなたの年はいくつか」。九ヤコブはパロに言った、「わたしの旅路のとしつきは、百三十年です。わたしのよわいの日はわずかで、ふしあわせで、わたしの先祖たちのよわいの日と旅路の日には及びません」。一〇ヤコブはパロを祝福し、パロの前を去った。二ヨセフはパロの命じ

たように、父と兄弟たちとのすまいを定め、彼らにエジプトの国で最も良い地、ラメセスの地を所有として与えた。三またヨセフは父と兄弟たちと父の全家とに、家族の数にしたがい、食物を与えて養った。

三さて、きさんが非常に激しかったので、全地に食物がなく、エジプトの国もカナン（ひとびと）の国も、きさんのために衰えた。四それでヨセフは人々が買った穀物の代金としてエジプトの国とカナンの国にあった銀をみな集め、その銀をパロの家に納めた。五こうしてエジプトの国とカナンの国に銀が尽きたとき、エジプトびとはみなヨセフのもとにきて言った、「食物をください。銀が尽きたからとて、どうしてあなたの前で死んでよいでしょう」。六ヨセフは言った、「あなたがたの家畜を出しなさい。銀が尽きたのなら、あなたがたの家畜と引き替えて食物をわたそう」。七彼らはヨセフの所へ家畜をひいてきたので、ヨセフは馬と羊の群れと牛の群れ及びろばと引き替えて、食物を彼らにわたした。こうして彼はその年、すべての家畜と引き替えた食物で彼らを養った。八やがてその年は暮れ、次の年、人々はまたヨセフの所へきて言った、「わが主には何事も隠しません。われわれの銀は尽き、獣の群れもわが主のものになって、われわれのからだも田地のほかはわが主の前に何も残っていません。九われわれはどうして田地と一緒に、あなたの目の前で滅んでよいでしょう。われわれと田地とを食物と引き替えて買っ

てください。われわれは田地と一緒にパロの奴隷となりましょう。また種をください。そうすればわれわれは生きながらえ、死を免れて、田地も荒れないでしょう」。

二〇そこでヨセフはエジプトの田地をみなパロのために買い取った。きさんがエジプトびとに、きびしかったので、めいめいその田畑を売ったからである。こうして地はパロのものとなった。二一そしてヨセフはエジプトの国境のこの端からかの端まで民を奴隷とした。二二ただ祭司の田地は買い取らなかつた。祭司にはパロの給与があつて、パロが与える給与で生活していたので、その田地を売らなかつたからである。二三ヨセフは民に言った、「わたしはきよう、あなたがたとその田地とを買い取つて、パロのものとした。あなたがたに種をあげるから地にまきなさい。二四収穫の時は、その五分の一をパロに納め、五分の四を自分のものとして田畑の種とし、自分と家族の食糧とし、また子供の食糧としなさい」。二五彼らは言った、「あなたはわれわれの命をお救いください。どうかわが主の前に恵みを得させてください。われわれはパロの奴隷になりましょう」。二六ヨセフはエジプトの田地について、収穫の五分の一をパロに納めることをおきてとしたが、それは今日に及んでいる。ただし祭司の田地だけはパロのものとならなかつた。

二七さてイスラエルはエジプトの国でゴセンの地に住み、そこで財産を得、子を生み、大いにふえた。二八ヤコ

ブはエジプトの国で十七年生きながらえた。ヤコブのよわいの日は百四十七年であつた。

二九 イスラエルは死ぬ時が近づいたので、その子ヨセフを呼んで言った、「もしわたしがあなたの前に恵みを得るなら、どうか手をわたしのものの下に入れて誓い、親切と誠実とをもってわたしを取り扱ってください。どうかわたしをエジプトには葬らないでください。三〇 わたしが先祖たちと共に眠るときには、わたしをエジプトから運び出して先祖たちの墓に葬ってください」。ヨセフは言った、「あなたの言われたようにいたします」。三一 ヤコブがまた、「わたしに誓ってください」と言つたので、彼は誓つた。イスラエルは床のかしらで押んだ。

第四八章 「これらの事の後に、「あなたの父は、いま病氣です」とヨセフに告げる者があつたので、彼はふたりの子、マナセとエフライムとを連れて行つた。二 時に人がヤコブに告げて、「あなたの子ヨセフがあなたのものときました」と言つたので、イスラエルは努めて床の上にあつた。三 そしてヤコブはヨセフに言つた、「先に全能の神がカナンの地ルズでわたしに現れ、わたしを祝福して、四 言われた、『わたしはおまえに多くの子を得させ、おまえをふやし、おまえを多くの国民としよう。また、この地をおまえの後の子孫に与えて永久の所有とさせる』。五 エジプトにゐるあなたの所にわたしが来る前に、エジプトの国で生れたあなたのふたりの子はいまわたし

の子とします。すなわちエフライムとマナセとはルベンとシメオンと同じようにわたしの子とします。六 ただし彼らの後にあなたに生れた子らはあなたのものとなりまう。七 わたしがパダンから歸つて来る途中ラケルはカナンの地で死に、わたしは悲しんだ。そこはエフラタに行くまでには、なお隔たりがあつた。わたしはエフラタ、すなわちベツレヘムへ行く道のかたわらに彼女を葬つた。

八 ところで、イスラエルはヨセフの子らを見て言つた、「これはだれですか」。九 ヨセフは父に言つた、「神がここであつたにくださった子どもです」。父は言つた、「彼らをわたしに連れてきて、わたしに祝福させてください」。一〇 イスラエルの目は老齢のゆえに、かすんで見えなかつたが、ヨセフが彼らを父の所に近寄らせたので、父は彼らに口づけし、彼らを抱いた。二 そしてイスラエルはヨセフに言つた、「あなたの顔が見られようとは思わなかつたのに、神はあなたの子らをもわたしに見させてくださった」。三 そこでヨセフは彼らをヤコブのひざの間から取り出し、地に伏して拝した。四 ヨセフはエフライムを右の手に取つてイスラエルの左の手に向かわせ、マナセを左の手に取つてイスラエルの右の手に向かわせ、ふたりを近寄らせた。五 すると、イスラエルは右の手を伸べて弟エフライムの頭に置き、左の手をマナセの頭に置いた。マナセは長子であるが、ことさらそのように手

を置いたのである。一五そしてヨセフを祝福して言った、

「わが先祖アブラハムとイサクの仕えた神、生れてからきょうまでわたしを養われた神、

一六すべての災からわたしをあがなわれたみ使よ、

この子供たちを祝福してください。

またわが名と先祖アブラハムとイサクの名とが、

彼らによって唱えられますように、

また彼らが地の上にふえひろがりますように。」

一七ヨセフは父が右の手をエフライムの頭に置いてい

のを見て不満に思い、父の手を取ってエフライムの頭か

らマナセの頭へ移そうとした。一八そしてヨセフは父に

言った、「父よ、そうではありません。こちらが長子です。

その頭に右の手を置いてください。」一九父は拒んで言っ

た、「わかつている。子よ、わたしにはわかつている。彼

もまた一つの民となり、また大いなる者となるであらう。

しかし弟は彼よりも大いなる者となり、その子孫は多く

の国民となるであらう。二〇こうして彼はこの日、彼ら

を祝福して言った、

「あなたを指して、イスラエルは、

人を祝福して言うであらう、

『神があなたをエフライムのごとく、

またマナセのごとくにせられるように』。

このように、彼はエフライムをマナセの先に立てた。

二イスラエルはまたヨセフに言った、「わたしはやがて死

にます。しかし、神はあなたがたと共におられて、あなたがたを先祖の国に導き返されるであらう。三なおわたしは一つの分を兄弟よりも多くあなたに与える。これはわたしがつるぎと弓とを持ってアモリびとの手から取ったものである。」

第四九章 ヤコブはその子らを呼んで言った、

「集まりなさい。後の日に、あなたがたの上に起ることを、

を、告げましよう、

ニヤコブの子らよ、集まって聞け。

父イスラエルのことばを聞け。

三ルベンよ、あなたはわが長子、

わが勢い、わが力のはじめ、

威光のすぐれた者、権力のすぐれた者。

四しかし、沸き立つ水のようにだから、

もはや、すぐれた者ではあり得ない。

あなたは父の床に上って汚した。五

ああ、あなたはわが寢床に上った。

五シメオンとレビとは兄弟。

彼らのつるぎは暴虐の武器。

六わが魂よ、彼らの会議に臨むな。

七わが榮えよ、彼らのつどいに連なるな。

八彼らは怒りに任せて人を殺し、

ほしいままに雄牛の足の筋を切った。

九彼らの怒りは、激しいゆえにのろわれ、

彼らの憤りは、はなはだしいゆえにのろわれる。

わたしは彼らをヤコブのうちに分け、イスラエルのうちに散らそう。

ユダよ、兄弟たちはあなたをほめる。

あなたの手は敵のくびを押え、父の子らはあなたの前に身をかがめるであろう。

ユダは、ししの子。

わが子よ、あなたは獲物をもって上つて来る。

彼は雄じしのようにうずくまり、雌じしのように身を伏せる。

だれがこれを起すことができよう。

○つえはユダを離れず、

立法者のつえはその足の間を離れることなく、

シロの来る時まで及ぶであろう。

もろもろの民は彼に従う。

二彼はそのろばの子をぶどうの木につなぎ、

その雌ろばの子を良きぶどうの木につなぐ。

彼はその衣服をぶどう酒で洗い、

その着物をぶどうの汁で洗うであろう。

三その目はぶどう酒によって赤く、

その歯は乳によって白い。

三ゼブルンは海べに住み、

舟の泊まる港となつて、

その境はシドンに及ぶであろう。

一四イツサカルはたくましいろば、

彼は羊のおりの間に伏している。

一五彼は定住の地を見て良しとし、

その国を見て樂しとした。

彼はその肩を下げてにない、

奴隸となつて追い使われる。

一六ダンはおのれの民をさばくであろう、

イスラエルのほかの部族のように。

一七ダンは道のかたわらのへび、

道のほとりのまむし。

馬のかかとをかんで、

乗る者をうしろに落とすであろう。

一八主よ、わたしはあなたの救を待ち望む。

一九ガドには略奪者が迫る。

しかし彼はかえつて敵のかかとに迫るであろう。

二〇アセルはその食物がゆたかで、

王の美味をいだすであろう。

二一ナフタリは放たれた雌じか、

彼は美しい子じかを生むであろう。

二二ヨセフは実を結ぶ若木、

泉のほとりの実を結ぶ若木。

その枝は、かきねを越えるであろう。

二三射る者は彼を激しく攻め、

彼を射、彼をいたく悩ました。

二四 しかし彼の弓はなお強く、彼の腕は素早い。

これはヤコブの全能者の手により、イスラエルの岩なる牧者の名により、

二五 あなたを助ける父の神により、

また上なる天の祝福、

下に横たわる淵の祝福、

乳ぶさと胎の祝福をもつて、

あなたを恵まれる全能者による。

二六 あなたの父の祝福は永遠の山の祝福にまさり、

永久の丘の賜物にまさる。

これらの祝福はヨセフのかしらに帰し、

その兄弟たちの君たる者の頭の頂に帰する。

二七 ベニヤミンはかき裂くおおかみ、

朝にその獲物を食らい、

夕にその分捕物を分けるであろう。

二八 すべてこれらはイスラエルの十二の部族である。そ

してこれは彼らの父が彼らに語り、彼らを祝福したもの

で、彼は祝福すべきところに従って、彼らのおのをおを祝

福した。二九 彼はまた彼らに命じて言った、「わたしはわ

が民に加えられようとしている。あなたがたはヘテびと

エフロンの畑にあるほら穴に、わたしの先祖たちと共に

わたしを葬ってください。三〇 そのほら穴はカナン地の

マムレの東にあるマクベラの畑にあり、アブラハムがヘ

テビとエフロンから畑と共に買い取り、所有の墓地としたもので、三一 そこにアブラハムと妻サラとが葬られ、イサクと妻リベカもそこに葬られたが、わたしはまたそこにレアを葬った。三二 あの畑とそこにあるほら穴とはヘテの人々から買ったものです。三三 こうしてヤコブは子らに命じ終って、足を床におさめ、息絶えて、その民に加えられた。

第五〇章 ヨセフは父の顔に伏して泣き、口づ

けた。二四 ヨセフは彼のしもべである医者たちに、

父に薬を塗ることを命じたので、医者たちはイスラエル

に薬を塗った。二五 このために四十日を費した。薬を塗る

にはこれほどの日数を要するのである。エジプトびとは

七十日の間、彼のために泣いた。

四六 彼のために泣く日が過ぎて、ヨセフはパロの家の者に

言った、「今もしわたしがあなたがたの前に恵みを得るな

ら、どうかパロに伝えてください。四七 わたしの父はわた

しに誓わせて言いました「わたしはやがて死にます。カ

ナンの地に、わたしが掘って置いた墓に葬ってください

」。それで、どうかわたしを上って行かせ、父を葬らせ

てください。そうすれば、わたしはまた帰ってきます。』

四八 パロは言った、「あなたの父があなたに誓わせたように

上って行って彼を葬りなさい。四九 そこでヨセフは父を葬

るために上って行った。彼と共に上った者はパロのもろ

もろの家来たち、パロの家の長老たち、エジプトの国の

もろもろの長老たち、ハヨセフの全家とその兄弟たち及びその父の家族であった。ただ子供と羊と牛はゴセンの地に残した。九また戦車と騎兵も彼と共に上ったので、その行列はたいそう盛んであった。一〇彼らはヨルダンの向こうのアタデの打ち場に行き着いて、そこで大いに嘆き、非常に悲しんだ。そしてヨセフは七日の間父のために嘆いた。二その地の住民、カナンびとがアタデの打ち場の嘆きを見て、「これはエジプトびとの大いなる嘆きだ」と言ったので、その所の名はアベル・ミツライムと呼ばれた。これはヨルダンの向こうにある。三ヤコブの子らは命じられたようにヤコブにおこなった。二三すなわちその子らは彼をカナンの地へ運んで行って、マクベラの畑のほら穴に葬った。このほら穴はマムレの東にあつて、アブラハムがヘテびとエフロンから畑と共に買って、所有の墓地としたものである。二四ヨセフは父を葬った後、その兄弟たち及びすべて父を葬るために一緒に上った者と共にエジプトに帰った。

二五ヨセフの兄弟たちは父の死んだのを見て言った、「ヨセフはことによるとわれわれを憎んで、われわれが彼にしたすべての悪に、仕返しするに違いない」。二六そこで彼らはことづけしてヨセフに言った、「あなたの父は死ぬ前に命じて言われました、『おまえたちはヨセフに言いなさい、「あなたの兄弟たちはあなたに悪をおこなったが、どうかそのとがと罪をゆるしてやってください』」。

今どうかあなたの父の神に仕えるしもべらのとがをゆるしてください」。ヨセフはこの言葉を聞いて泣いた。二八やがて兄弟たちもきて、彼の前に伏して言った、「このとおり、わたしたちはあなたのしもべです」。二九ヨセフは彼らに言った、「恐れることはいりません。わたしは神に代ることができましようか。三〇あなたがたはわたしに対して悪をたくらんだが、神はそれを良きに變らせて、今日のように多くの民の命を救おうと計らわれました。三それゆえ恐れることはいりません。わたしはあなたがたとあなたがたの子供たちを養いましょう」。彼は彼らを慰めて、親切に語った。

三このようにしてヨセフは父の家族と共にエジプトに住んだ。そしてヨセフは百十年生きながらえた。三三ヨセフはエフライムの三代の子孫を見た。マナセの子マキルの子らも生れてヨセフのひざの上に置かれた。三四ヨセフは兄弟たちに言った、「わたしはやがて死にます。神は必ずあなたがたを顧みて、この国から連れ出し、アブラハム、イサク、ヤコブに誓われた地に導き上られるでしょう」。三五さらにヨセフは、「神は必ずあなたがたを顧みられる。その時、あなたがたはわたしの骨をここから携え上りなさい」と言ってイスラエルの子らに誓わせた。三六こうしてヨセフは百十歳で死んだ。彼らはこれに葉を塗り、棺に納めて、エジプトに置いた。